みんぱくリポジトリ
国立民族学博物館学術情報リポジトリ National Museum of Ethnolo

先住民社会文化のダイナミズムとオーストラリア行政の歴史に関する文化人類学的研究：ノーザンテリトリを中心として

メタデータ	言語: jpn
	出版者:
	公開日: 2016-03-08
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者:
	メールアドレス:
	所属:
URL	http://hdl.handle.net/10502/00005943

先住民社会文化のダイナミズムとオーストラリア行政の歴史に関する文化人類学的研究
－ノーザンテリトリを中心として－

Study on Aboriginal Society and Australian Administration in terms of history and cultural anthropology

（課題番号　国11691052）

平成 11～12 年度　科学研究費補助金（基盤研究A(2)）
研究成果報告書

平成 14 年3 月

研究代表者　久保　正敏
（国立民族学博物館）

目　次

1．本報告書の構成		4
2．研究組織と研究経費		4
3．研究計画の概要	久保正敏	5
3.1　研究計画の目的		5
3.2　研究計画の必要性及び期待できる成果		5
3.3　従来の研究経過・研究成果		5
4．研究活動と成果の概要	久保正敏	7
用語対訳表		9
関連年表		10
5．オーストラリアの対アボリジニ政策史の概略	久保正敏	14
6．マニングリダの 20 年（1957－1977）	堀江保範	16
6.1　NT におけるアボリジニ政策（1863－1957）		16
6.2　第二次世界大戦・人口流出・マニングリダ		18
6.3　再建：交易所から政府セツルメントへ（1957－1961）		19
6.4　同化政策と林業プロジェクト（1962－1967）		21
6.5　統合政策と経済自立の試み（1968－1972）		22
6.6　自主決定政策と二極化（1973－1977）		24
7．マニングリダの過去と現在：調査概略報告	鎌田真弓	28
7.1　調査目的		28
7.2　マニングリダの概況		28
7.3　ノーザンテリトリーの先住民政策：隔離、保護、同化		30
7.4　マニングリダ行政略史		33
7.5　マニングリダ評議会と バビナンガ・アボリジナル組合の対立		36
8．マニングリダ・ミラージュの６年：創刊から終焉まで	堀江保範	43
8.1　発刊の経緯		43
8.2　ミラージュ 6 年の軌跡－発展・変容・衰退		43
8.3　軌跡の背景		46
9．マニングリダ・ミラージュ　サンプル（第８章参照資料）		51
Vol. 1　12th September 1969		52
Vol. 35　5th June 1970		57
Vol. 75　12th March 1971		64
Vol. 150　18th August 1972		70
Vol. 177　16th March 1973		77
Vol. 190　29th June 1973		81
Vol. 241　23rd August 1974		91
Vol. 245　4th October 1974		95

１．本報告書の構成

本報告書では、まず、表記の科学研究費補助金を受けた研究の全体計画を要約したあと、研究活動と得られた成果の概要を述べる。そのあとは論文の形式を取りながら、まずオーストラリア全体、次いでアーネムランド、そして、本研究で中心的に調査を進めてきたマニングリダ、と、マクロからミクロへ順に行政史に関する調査結果を報告する。最後に、本研究で収集した資料類のうち特に価値が高いと考えられる、週間新聞「マニングリダ・ミラージュ」の分析結果を論文で示し、その論文の参照資料として、同紙のサンプルを最後に配置している。

２．研究組織と研究経費

研究組織

研究代表者	久保　正敏	国立民族学博物館・博物館民族学研究部・教授
研究分担者	小山　修三	国立民族学博物館・民族学研究開発ｾﾝﾀｰ・教授
	金田　章裕	京都大学・文学部・教授
	杉藤　重信	椙山女学園大学・人間関係学部・教授
	鎌田　真弓	名古屋商科大学・商学部・講師
	窪田　幸子	広島大学・総合科学部・助教授
研究協力者	堀江　保範	帝塚山学院大学・非常勤講師

研究経費

平成１１年度　５，９００千円

平成１２年度　５，３００千円

3．研究計画の概要

久保正敏

3.1　研究計画の目的

オーストラリア・アボリジニ居住区内の社会は、狩猟採集漁労の生業と重層的神話体系に基づいた、いわゆる「伝統的」な生活を送ってきたとされる。しかし、特にこの 20 年は、社会組織や文化伝承の枠組みに大きな変化が見られる。これは、自主決定政策や多文化主義の採用、先住民土地権の制度化など、オーストラリア諸政策の変化及びそれに伴うモノ・カネ・技術・情報の流入によって生じた、アボリジニ社会下部構造の変化に、アボリジニ側が呼応した結果である。本研究は、従来研究分担者たちが進めてきた個々人を対象とするミクロな民族誌的記述・分析に、行政資料調査を中心とするマクロな政治・経済的分析を加えて総合化し、かつ、この作業を植民政策に関わる歴史資料にまで遡って通時的に展開して、対先住民政策とアボリジニ社会・文化の相互作用を、歴史的・文明史的・計量的に明らかにするものである。

3.2　研究計画の必要性及び期待できる成果

研究分担者たちは、これまで約 20 年にわたってアーネムランドを中心に現地調査を積み重ねてきた。それはちょうど、連邦政府の対アボリジニ政策が同化・福祉政策から自主決定政策へと変化した頃から、先住民土地権の制度化（1994 年）に至る時期までを、アボリジニ社会に密着しつつ継続的に観察したことに相当する。

これらの政策は、州、町など下位行政組織を通じて地域社会で具体化され、それに対するアボリジニ側の反応が施策にフィードバックされる。この相互作用を分析するには、1) 地域社会における文化人類学的研究、2) 政治、経済、法、国際関係など資料調査を中心とするマクロな視点からの研究との連携、3) 歴史的視点からの研究との連携、の3 点が必要である。このうち後の2 点が、従来のオーストラリアを対象とする文化人類学的研究で欠けていたのではないだろうか。

本研究は、上記の2 点を研究手法として取り入れ、これまでに蓄積した民族誌記述と諸行政組織の記録や法令とを突き合わせて、アボリジニの社会文化のダイナミズムを総体として捉え直すことを目的とする。その過程で、従来別個に進められてきた歴史・経済・法学的マクロ分析と文化人類学的ミクロ分析とのギャップを埋め、アボリジニ社会文化を下部構造から見直して新たな知見を得ると同時に、双方の研究分野に互恵的な成果をもたらすことが期待できる。

3.3　従来の研究経過・研究成果

この 10 年間の関連研究のみを以下に掲げる。

○文部省科学研究費・国際学術研究・学術調査：昭和 63 年度
「オーストラリア・アボリジニの都市集住とアイデンティティ」
研究代表者：松山利夫
研究経費：3,000 千円
研究経過・成果：いわゆる都市アボリジニに焦点を当て、観光開発、先住権運動、建国 200 年祭などの外部要因と彼らのアイデンティティ形成との相互作用を明らかにした。

○文部省科学研究費・国際学術研究・共同研究：平成2 －4 年度
「オーストラリア・アボリジニに関する民族学資料の比較分析的研究」
研究代表者：松山利夫
研究経費：平成2 年度：5,000 千円、平成3 年度：8,000 千円、平成4 年度：4,000 千円
研究経過・成果：内外のアボリジニ研究資料を収集して現地調査結果と比較分析を行い、貨幣経済の浸透に伴う経済的変化に焦点を当てた。その過程で、末端行政組織の一つ、マニングリダ町会議録の収集と分析を行ってアボリジニ社会内部での政治権力変化が経済的優位性を背景にするものであることを明らかにした。

○文部省科学研究費・国際学術研究・学術調査：平成6 年度
「オーストラリア・アボリジニ社会における経済の変容－先住民土地権の制度化に伴う社会再編成－」
研究代表者：小山修三
研究経費：2,000 千円
研究経過・成果：先住民土地権の制度化という新たな枠組みによって生じた経済的基盤変化が、アボリジニ社会内部の権力構造に変化をもたらしつつある状況を明らかにした。

○文部省科学研究費・国際学術研究・学術調査：平成7 －9 年度
「オーストラリア・アボリジニ社会における知識・情報・価値の文化人類学的研究－先住民土地権の制度化に伴う伝承体系の再編成－」
研究代表者：小山修三
研究経費：平成7 年度：6,000 千円、平成8 年度：5,800 千円、平成9 年度：4,600 千円
研究経過・成果：先住民土地権の制度化は、単に経済的変化をアボリジニ社会にもたらしただけではない。アボリジニが土地権を主張するためには、土地に強く結合した神話体系を明示する必要がある。そのために、先住民土地権の制度化は、神話の内容の変化や伝承体系の再編成をも引き起こすなど、精神文化にも変化を及ぼしつつある。神話の語りの聞き取り調査を積み重ねる中でこの変化を実証した。

以上の継続的な調査研究の結果、アボリジニ社会や文化が、外部世界と相互に関係しながら、次のようにダイナミックに変化していることが明らかになってきた。

第二次世界大戦後の同化福祉政策による資本投下によって、アボリジニの集団形成原理は、従来の年齢階梯的な親族グループを基本としつつも、経済的優位グループを核とするものに変化し、それに伴って儀礼や婚姻における人的ネットワークの変化、それに連動した文化伝承の変化が認められる。さらに、土地権回復などの政治運動が先住民土地権の制度化という成果を得たことによって、アボリジニ社会内部に政治的権威グループが生まれ、集団形成原理に新たな要因が組み込まれつつある。

我々研究チームは、これまで10余年にわたり、個々人への聞き取りを中心に、こうした流れの中におけるアボリジニ社会文化の変動を調査してきたわけだが、上記のダイナミズムを通時的かつ総体として定量的に捉えるには、連邦政府レベルにまで目を配った行政資料や歴史資料との相互参照、及び計量的分析が不可欠であると痛感するに至った。特に、歴史的資料を文化人類学的な視点で収集・分析する作業がこれまでの調査研究において不十分であった、という反省に基づいて、本研究を着想するに至ったものである。

4．研究活動と成果の概要

久保正敏

本研究では、連邦政府から末端に至る各レベルの行政記録・統計資料を収集し、現地調査に基づく民族誌的記述と相互参照してアボリジニ社会文化の歴史的・計量的分析を行うことを目的としている。そのため、各レベルの組織に関わる史料のたんねんな発掘と分析を進めるとともに、現地研究者との研究交流も行ってきた。

本研究で収集に努めたのは、我々研究チームがこの 20 年にわたり深く関わってきた、アーネムランド中西部の町マニングリダにおける行政史と文化的変化に関する資料群である。アーネムランドの属するノーザンテリトリー（Northern Territory、以下 NT）は 1911 年から 1978 年までの間、連邦政府の直轄下にあり、連邦政府の対アボリジニ政策が常に先駆的かつ直接的に反映されてきた地域である。特に 1940 年代以降は、同化・福祉政策の下、主に教会系と半官半民公社系の二つの組織によってアボリジニ社会が再編されてきた。後者に属するマニングリダは、第二次世界大戦以前からアーネムランドに開かれたミッション系の町が持つ父権的な体質を避けつつ「同化政策」を推進する拠点の一つとして位置づけられるとともに、第二次世界大戦によって生じたダーウィンへのアボリジニ流入を阻止する目的をもって全く新たに人工的に作り上げられた町であり、対アボリジニ政策が直接的に実施された地域と言える。この点で、対アボリジニ政策と、現地アボリジニの文化やアボリジニの政治的・文化的活動や人的関係の変化との間の相互作用をつぶさに捉えるうえで、極めて重要な位置を占めると考えられる。従って、この町の行政組織が保持する記録や統計の中には、第二次世界大戦後の先住民政策を跡付ける上で欠かせない資料が多い。

もちろん、より大局的な状況を示す資料として、自主決定政策により 1972 年に設立されたアボリジニ担当省（Department of Aboriginal Affairs、以下 DAA）、1990 年以降それを引き継いだ先住民族委員会（Aboriginal and Torres Strait Islanders Commission、以下 ATSIC）、両機関から公刊されている記録があり、これらは、アボリジニ自身が参加する行政組織の記録である点で、アボリジニ側の反応を知る情報源として重要である。さらに、オーストラリア国立大学、同北部研究分室（NARU:North Australian Research Unit）、オーストラリア国立先住民文化研究所（AIATSIS:Australian Institute of Aboriginal and Torres Strait Islanders Studies）などの研究機関において集積されているアーカイブス資料の中にも、公的記録から漏れた貴重な資料が数多い。

我々研究チームは、これら様々な資料を収集してきたが、それらの中でも特に価値が高いと我々が考えるのは、1969 年に法人化された Maningrida Progress Association（マニングリダ発展協会、以下 MPA）の議事録、MPA が創刊の母胎となり 1969 年から 1974 年まで刊行されたマニングリダの町内週間新聞 Maningrida Mirage（マニングリダ・ミラージュ）、および、アウトステーション支援機関として 1979 年に法人化されたバビナンガ・アボリジナル組合（Bawinanga Aboriginal Corporation、以下 BAC）の議事録である。前二者は、1960 年代後半、同化政策の行き詰まりの中、アボリジニ各コミュニティに経済的自立を促す統合政策が導入され、マニングリダでも急速な経済的発展が起きた時期以降のコミュニティ内の事象や状況を生き生きと伝える資料である。BAC 議事録は、1978 年

に NT 自治政府が成立して以降、周辺地域集団　対　マニングリダ地主集団の確執が顕在化し、それが連邦政府　対　州自治政府、労働党　対　保守党（自由・地方連合）、それぞれの対立関係と重なり合い、現在まで続いている二極構造が成立していく過程を伝える資料である。もちろん、これら資料は、政治的確執だけでなく、アボリジニのアウトステーション運動の経過やそれに伴う文化的動きも描き出しており、マクロな政治経済史とミクロな民族誌記述をつなぐという、我々研究チームの目的にとって第一級の資料群と言えるものである。

我々は収集した資料の分析と並行して、アーカイブス資料をデータベース化する作業も進めている。これは、これら資料が先住民に関する諸研究分野にとって貴重な基礎データであることから、広く関係者に公開し、意見や知見を共有化していきたいと考えているからである。ここでいう公開や共有は、単に日本国内やオーストラリアの研究者だけを対象としているのではなく、提供元のマニングリダ現地との共有も含めている。このことは、フィールド調査とは常に現地との互恵的な関係の上に成り立たねばならないという規範からは当然のことであろう。もちろん、資料に現れる個人情報の保護には充分な配慮が必要であることは言うまでもなく、特に、個人名が頻繁に登場する議事録の公開には慎重に望まねばならない。しかし、Maningrida Mirage は基本的に公刊された資料であるので、登場する個人名の扱いに注意を払いつつ、現在、デジタル版の CD 化を進めている。これは、同資料の作業用複写を入手するにあたり、AIATSIS との間でかわした合意に基づいている。

今後も、オーストラリア国立公文書館で入手した、Maningrida Mirage の後身である Gobalgu Jurra（1977 年－1998 年）、および、Welfare Branch Annual Report などの関連政策資料も含め、我々が収集してきたアーカイブス資料の電子化と共有化を進めていく。その中から、(1) マニングリダ前史期：アーネムランド・リザーブ（保留地）が設定された 1931 年～マニングリダ・セツルメントが設立された 1957 年、(2) NT 自治政府確立の前史期：1957 年～1977 年、(3) BAC 発展期：1979 年以降、の3 期に分けて資料の分析を進めていく予定である。

その結果の本格的な報告は、近々別の形で行う予定でおり、本報告では予備的な分析結果を示すにとどめるが、その中からも、(1)オーストラリアの二大政党制度のもと、政権交代が大幅な組織と政策変更を伴い、連邦直轄地域であった NT はそうした変更の直接的な影響を被ってきたこと、(2)マニングリダの発展に寄与してきた、理想主義的・人道主義的な白人たちの現場の考えと、現場の事情を詳しく知らない中央政権の施策とのギャップが存在すること、(3)そうしたギャップが、マニングリダ居住のアボリジニや白人たちの内部対立を顕在化させていくこと、(4)そしてそれらが、アボリジニの間に新たな文化的・政治的運動を引き起こしていくこと、(5)同時に、内部対立がまた、二大政党制度と結びついていく機会となること、(6)ただし、必ずしも二項対立的な構造は固定的ではなく、状況や問題ごとに変動すること、など、マクロレベルとミクロレベルのダイナミックな相互作用が見えてくるのである。

本報告では、資料や文献に現れる基本的な用語の邦訳を以下のように統一している。

用語対訳表

Aboriginals Benefit Trust Fund　アボリジニ信託基金
Aboriginal Land Rights (Northern Territory) Act 1976　アボリジニ土地権（NT）法
Aboriginal Ordinance (NT)　アボリジニ条例
ATSIC（Aboriginal and Torres Strait Islander Commission）　先住民族委員会
Biological abosorption　生物学的吸収
Chief Protector　主席保護管
CDEP（Community Development Employment Projects）　コミュニティ開発雇用プロジェクト
DAA（Department of Aboriginal Affairs）　アボリジニ担当省
Department of Exterior　外務省
Department of Interior　内務省
Department of Territories　連邦管理地域省
Land Council　土地評議会
Multicultural policy　多文化主義
Native Affairs Branch　先住民局
Native Title Act 1993　先住権原法
Northern Territory　北部地域、ノーザンテリトリー、NT
NT Administration　北部地域行政庁、NT 行政庁
NT Administration, Aboriginal Department　NT 行政庁アボリジニ部
Patrol Officer　巡察官
Protector　保護官
Reserve　リザーブ（保留地）
Self Determination　自主決定
Self Management　自主管理
Settlement　セツルメント
Social Welfare Branch　社会福祉局
Social Welfare Ordinance 1964　社会福祉条例
Stolen Generation　盗まれた世代
Superintendent　監督官
Village Council　ビレッジ評議会
Ward　被保護者
Welfare Branch　福祉局
Welfare Division　福祉部
Welfare Ordinance　福祉条例
White Australia policy　白豪主義

また、次ページから４ページにわたり、関連年表を掲げる。

関連年表

連　邦　政　府

連邦政権	連　邦　政　権　関　係	NT アボリジニ担当省	NT 行政担当部局
	1901　オーストラリア連邦成立 1902　Commonwealth Franchise Act 1902 1908　Invalid and Old-Age Pensions Act 1908		
1910 Labor: A. Fisher 1913 Liberal: J. Cook 1914 Labor: A. Fisher 1915 Labor: W. M. Hughes 1917 Nationalist: W. M. Hughes 1923 Nationalist/ Country: S. M. Bruce	1911　NT が連邦政府に委譲される 1912　Maternity Allowance Act 1912 1918　Commonwealth Electoral Act 1918 1920　Nationality Act	1911 Dept. of External Affairs 1917 Dept. of Home and Territories 1928 Dept. of Home Affairs	1911 NT Administration/ Dep. of Aboriginals/ Chief Protector 制度導入 1919-1927, Chief Protector: Cecil Cook 1927－1939, Chief Protector & Chief Medical Officer: Cecil Cook
1929 Labor: J. H. Scullin 1932 United Aust.: J.A. Lyons 1938 UA/Country: J. A. Lyons 1939 Country/UA: E. Page 1939 UA: R. G. Menzies 1940 UA/Country: R. G. Menzies 1941 Country/UA: A. W. Fadden 1941 Labor: J. J. Curtin 1945 Labor: J. B. Chifley 1949 Liberal/Country R. G. Menzies	1930 年代、人類学者や市民団体による政策批判強まる 1935　Royal Commission "part-Aboriginal" problem 1937　National Welfare Conference 1938　John McEwen、"New Deal"発表 1939　第二次世界大戦始まる 1945　第二次大戦終結 1946　先住民政策立法権の連邦議会への委譲を問う国民投票が否決 1947　Social Services Consolidation Act 1947 1948　Nationality and Citizenship Act 1949　Commonwealth Electoral Act (NSW,SA, TAS のアボリジニに連邦選挙権付与)	1932 Dept. of Interior	1939　Native Affairs Branch (NAB)創設、Chief Protector 廃止 1939－1946, Director of NAB: E. W. P. Chinnery 1946－1953, Director of NAB: Francis Moy 1947 NT Administration Act 修正成立により、NT Legislative Council 設置

ノーザンテリトリー関係	マニングリダ・他ミッション関係
1910 NT Aboriginals Act (SA)	1877 Hermannsburg (Lutheran) 1908 Roper River (CMS)
1911 The Aboriginals Ordinance (Commonwealth) 1918 Ordinance of Northern Territory 1918 Aboriginal Ordinance (裁定賃金保証、ただし実行されず) 1923 Venereal Disease Ordinance enacted 1926 North Australian Act により、North Australia／Central Australia に分かれる 1928 Coniston St. 事件 1928 Bleakley investigation 開始 1929 Bleakley Report 1931 Arnhem Land Reserve 設置 NT が一つに戻る 1932 Caledon Bay 事件 1934 NT 判事 Wells、上記首謀者に死刑判決、しかし３ヶ月後、連邦最高裁がそれを棄却 1939－1945 アボリジニの Darwin への流入激増 1942 Darwin への日本軍爆撃始まる 軍、アボリジニ労働力を期待 1946 ピルバラでのストライキが NT に広がる	1911 Father Gsell、Bathurst Is.に Mission (Catholic) 1913 Kahlin Compound 1914 “the Bungalow” 1916 Golburn Island Mission (MOM) 1920 Lake Amadeus Reserve 1922 Elco Island 計画失敗、1923 に Millingimbi に移動 1925 Groote Eylandt Mission 1925 Oenpelli Mission 1928 Harold and Ella Sheperdson、Millingimbi Mission に参加、製材業を興す 1935 Yirrkala Mission by Rev Chaseling 1938 T. T. Webb、アボリジニは絶滅民族ではない、との報告が MOM の North Australia Policy に。その後の同化政策にも影響、 1939 Bagot Reserve 1942 Galiwinku (Elco Island) 1949 NAB Patrol Officer の Sydney H. Kyle-Little, Jack Doolan たち、マニングリダ上陸、暫定的に Trading Post 設置

連　邦　政　府

連邦政権	連　邦　政　権　関　係	NT ｱﾎﾞﾘｼﾞﾆ担当省	NT 行政担当部局
	1951　Commonwealth-State Ministers Conference	1951 Dept. of Territories	1951 Minister. of Dept. of Territories: Paul Hasluck 1955 Welfare Branch 創設 (NAB を改組)
	1959　全てのアボリジニが老齢年金、出産手当などの給付対象となる 1961　Conference of Native Affairs Ministers にて assimilation を是認 1962　Commonwealth Electoral Act 修正、すべてのアボリジニに連邦選挙権		
1966 Liberal/Country: H. E. Holt	1965　国連人種差別撤廃条約採択（1969 発効、オーストラリアは 1966 年調印、1975 年批准）		1964　Social Welfare Branch 創設（Welfare Branch を改組）
1967 Liberal/Country: J. McEwen	1967　国民投票		
1968 Liberal/Country: J. G. Gorton		1968 Dept. of Interior	
1971 Liberal/Country: W. McMahon	1971　Council for Aboriginal Affairs 創設 1971　Aboriginal Advisory Council 1972　テント大使館事件		1971　Welfare Division 創設（Social Welfare Branch を改組）
1972 Labor: E. G. Whitlam	1972　“self-determination”政策 1972　DAA 創設 1973　Land Rights Commission 設置 1973　National Aboriginal Consultative Committee (NACC)、土地権に関する Woodward Report 公表 1975　Racial Discrimination Act 1975　Aboriginal and Torres Strait Islander Act 1975　Aboriginal Land Fund 1975　“self-management”政策 1976　CDEP 開始 1976　Aboriginal Land Rights (NT) Act (1977 発効) 1976　Aboriginal Council and Association Act 1977　National Aboriginal Conference (NAC)設立 1977　First Land Claim hearing, Borroloola 1978　Association Incorporated Act	1972 Dept. of NT 1972 Dept. of Aboriginal Affairs	1972　Welfare Division→ DAA/ NT Division
1975 Liberal/Country J. M. Fraser			

ノーザンテリトリー関係	マニングリダ・他ミッション関係
1953 Welfare Ordinance 1953 (施行は 1957) アボリジニに対する言及なく、ward(被保護者)にて対応 1953 Wards' Employment Ordinance (施行は 1959) (wards の雇用に許可を求める)	
	1956 Papunya に NT セツルメント開設 1957 マニングリダ（以下 MGD）に、Government Settlement を暫定的に設置 1958 MGD で様々な栽培試行、滑走路建設、ハンセン病キャンプ設置など 1959 MGD Social Club 設立
	1962 Paul Hasluck 大臣が MGD を正式に Government Settlement と宣言 1963 Gowan Armstrong (Methodist Church)、MGD に着任
1963 Yolngu people による bark petition 1964 Social Welfare Ordinance (Wardship 概念削除) 1964 Licensing Ordinance 改正(アボリジニも原則アルコール自由化) 1964 Bagot に NT 最初の Native Council 設立 1965 North Australian Workers Union が NT 牧畜業同一賃金支払を求めて仲裁裁判所に提訴 1966 Wave Hill 牧場で職場放棄スト 1968 同一賃金実現 1968,1969 Yirrkala 訴訟（1971 請求棄却） 1969 Training Allowance scheme 導入 1969 リザーブ内６カ所で限定的アルコール販売許可 1970 Crown Lands Ordinance 改正 1971 Gibb Report (Review the situation of Aboriginals on pastoral properties in NT) 1971 Cwlth Dept. of Health, Cwlth Dept. of Teaching Service が community service を管轄	1963 John Hunter: Acting Superintendent 1964 MGD Social Club の売店部門が CO-OP (Maningrida Co-operative Societies Limited)として認可される 1967－1972 John Hunter: MGD Superintendent 1968 MGD に教会設立 1969 MGD Progressive Association が法人化される。 1970 MGD Council 再編成 1970 MGD Housing Association 設立 1972 コパンガでの会議で outstation 設立決定、MGD 住民の outstation 運動が本格化
1973 "training allowance"→"full wage allowance", "unemployed benefits"導入	1973 John Hunter: Community Adviser 1974 Whitlam 首相が MGD 訪問
	1975 DAA Community Adviser が Council の基礎作りを要請される 1976 MGD Council(マニングリダ評議会)設立
1978 NT 準州成立（Local Government Act）	1977 Outstation 大幅に増加 1978 ORC 設立 1978 DAA 大臣から MGD 評議会への補助金給付停止の通達 1978 ORA 発足

5．オーストラリアの対アボリジニ政策史の概略

久保正敏

アーネムランドのローカルな町マニングリダの行政史を振り返るためには、その全体の枠組みであるオーストラリア国家の対アボリジニ政策史を概観する必要がある。1788年にイギリス人が最初に入植して以来の対アボリジニ政策は、いくつかの時期に分けることができる。

「無策期」

最初の時期は「無策」であり、入植者たちの自由に任されていたために、彼らによる土地収奪や殺戮によりアボリジニ人口が急減した。そこでこれを「絶滅政策」の時期と呼ぶ研究者もいる。1830年代に入ると、本国イギリスの人道主義者たちの圧力が高まり、「保護政策」の時期に入っていく。1837年に下院あて勧告の中で、保護という文言が最初に現れる。当初の保護政策は、入植者の暴力からの保護と教育普及を目的とするものであり、もっぱらキリスト教ミッションに任されていた。

「保護隔離政策期」

しかし、1850年代、ビクトリア州を皮切りに、リザーブ（保留地）設置を法制化する動きが起き、保護を行うためにリザーブに隔離するという「保護隔離政策」が実質化していく。1860年代以降、各州でアボリジニ保護法が次々と制定され、また保護官（Protector）制度も導入されて、アボリジニの行動を「父権的」に監督・制限・支配するようになり、移動や結婚の自由さえ奪ったのだ。

こうした施策の背景には、進化論の影響がある。一九世紀後半のヨーロッパでは生物進化論が登場して注目を集め、それを社会に適用した社会進化論も知的ブームとなって以降は、生物進化論的にアボリジニは白人より劣った存在であり、社会進化論的にはアボリジニの「未開」社会は文明社会化されねばならない、と考えられるようになったのである。そして、純血アボリジニは隔離しておけばいずれ自然淘汰されると見なす一方で、混血アボリジニは生物進化上、白人に「より近い」存在であるから「文明」化するために監督・教育し、規範の一つであるキリスト教に教化されるべき存在である、とされたのだ。かくして、純血と混血を区別する考え方が登場するとともに、混血児を親元から引き離し、施設に入れて教育や職業訓練を施した後に白人社会で働かせたり、白人家庭の養子とする、「混血児引き離し政策」が開始される。ニューサウスウェールズ州では1883年にいち早く始められたこの過酷な施策は、順次各州に広がっていく。少しでも白人に近い混血児は、そのままアボリジニ社会に置かずに白人社会側に「引き上げてやろう」と言う訳である。1920年代以降、この政策は徹底し、混血児を何世代も白人と混血させてアボリジニの血統を「生物学的に吸収する」という主席保護官（Chief Protector）セシル・クック（Cecil Cook）の発言にまで至る。いうならば、混血アボリジニの「生物学的同化」を狙ったのだ。こうした、実の親から「盗まれた世代」の悲劇は、1950年代まで続く。

「同化政策期」

1930年代に入り、NTにおける混血アボリジニの増加や人類学者による勧告を受けて、連邦政府内務大臣マキュワン（John McEwen）は、積極的な「同化政策」へと転換を図る。従来の消極的な保護政策とは異なり、混血も含むアボリジニに積極的に教育を施して、

白人と同様に就業させ、また白人と同様な生活様式を身につけさせ、やがては白人社会に「社会的同化」させるというものである。そのために、NT については保護官制度を廃止して、NT 行政庁（1911 年設置）に先住民局（Native Affairs Branch）を新設しこの政策を推進させるなど、組織的な強化も行われる。しかし、第二次世界大戦によってその実質的な実行は中断する。

同化政策が実効化するのは、第二次世界大戦後に福祉政策と組み合わせられてからのことである。その根拠となったのが、NT で 1953 年法制化、1957 年から施行された福祉条例（Welfare Ordinance）であり、それまでのアボリジニ条例（Aboriginal Ordinance）が保護の対象として言及していたアボリジニという名称は消え、被保護者（ward）という表現によって非アボリジニとも区別することなくアボリジニを福祉の対象とすることで、同化の途中段階を経済的に支援することを狙ったのである。その受け皿の組織として、1955 年に先住民局を福祉局（Welfare Branch）に改組して政策の実施にあたらせる。

「同化から統合へ」

1960 年代に入ると、世界的な「異議申し立て」の流れを受けて、人権回復や土地権回復運動が盛んになり、同化政策に対する、国際・国内的な批判が高まる。そうした流れの中で、1967 年、連邦政府の対アボリジニ政策を州政府のそれに優先させること、アボリジニを国勢調査対象に含めること、の二点の憲法改正を問う国民投票が行われ、圧倒的多数でこれが是認された。アボリジニに対する白人側の見方が変化したことを表す象徴的な出来事である。1966 年には国連人種差別撤廃条約にも調印、1975 年に批准している。

こうした流れの中で、同化政策から統合政策への転換が図られる。アボリジニが政府からの経済的支援に頼るだけの被福祉的発想ではなく経済的自立を目指すことができるように、行政が職業訓練や農園・果樹園開発など殖産事業を支援する方向に転換したのである。

「自主決定／自主管理政策期」

1972 年、連邦政府は、1949 年以来続いてきた保守連立から労働党に交替した。労働党内閣は、オーストラリアは「多文化社会である」と規定し、移民に市民権を認めるとともに、対アボリジニ政策についても、アボリジニの失われた自主決定権を回復するための「自主決定政策」へと転換をはかる。アボリジニ担当省（DAA）の設置、土地所有権の認定、対先住民予算の拡大、など矢継ぎ早に新政策が実行に移される。しかし、1975 年、国会運営上のトラブルから首相が解任されて労働党政権は倒れ、後を継いだ保守連立政権は「自主管理政策」を打ち出す。これは、基本的には労働党の政策を引き継ぎ、アボリジニ自身が自ら問題解決し将来を決することを支援することを目的とする。

その後の政策の基本線は変わらないが、大きな政策転換としては、1993 年暮れに可決し翌年初めから施行された「先住権原法」を挙げねばならない。アボリジニがオーストラリアの先住権を持つことを認めた画期的な法律であり、先住権と抵触する土地問題の調停には審判所があたることとされた。しかし実際の運用における問題点から、その後は反動的な修正も図られているのが現状である。

6．マニングリダの 20 年（1957－1977）

堀江保範

アーネムランドはノーザンテリトリー（以下 NT）の東北部に位置する。1931 年にアボリジニ・リザーブとして承認され、1978 年には土地権法によりアボリジニへの所有権返還が実現した。約 10 万k m²の広大な地域を区切る北部海岸線の中部に位置するのがアボリジニの町マニングリダである。1957 年に同化政策実施の拠点となる政府セツルメントとして設立され、それ以降今日まで、ブライス・リバプール川地域の行政・福祉・経済活動の中心地として、白人社会との接点の役を果たしてきた。1970 年以降は周辺アウトステーションを含めると常に 1000 人を超える人口を保ち、北部準州の代表的な町の一つとして知られる。マニングリダはまた政府セツルメントとして設立されたため、常に連邦政府のアボリジニ政策と深いかかわりをもって発展してゆく。この章では、まずマニングリダ前史として、NT におけるアボリジニ政策の歴史と、戦後の実験的交易所開設の背景を述べた後、NT が連邦管理から準州として成立する 1978 年に至る 20 年間の歴史を、政策の変化と対比しながら 4 つの時期に分けて概説する。

6.1 NT におけるアボリジニ政策（1863－1957）

1863 年より NT の統治が認められた南オーストラリア（以下 SA）植民州政府は、1890 年末まで、NT に於けるアボリジニの存在すら公式には認めておらず、牧畜を中心に進められていた入植に伴い、生活生存の場を守ろうと抵抗するアボリジニに対しては、徹底的な討伐で応じてゆく。この結果 1890 年代以降ほとんど抵抗も止み、アボリジニは逆に人口希薄な NT で牧畜業の貴重な労働力として活用されてゆく。そのほかに、生存の場を失った集団はダーウィンを中心とする白人集落周辺に流入し、その生活の窮状が、労働力搾取の規制と保護を目的とした法整備への動きとなる。しかし、基本的に SA 政府統治時代は無策であり、1911 年の連邦政府への移管により、NT では初めて保護政策が実施される。

NT の監督官庁となった外務省（Department for External Affairs）は、行政組織である北部地域行政庁（以下 NT 行政庁：NT Administration）の一部門としてアボリジニ部（Aboriginal Department）を設置し、保護政策を盛り込んだ 1911 年アボリジニ条例（Aboriginal Ordinance 1911）の実施をめざす。責任者となる主席保護官（Chief Protector）には人類学者を採用し、政府と専門家が協力しつつ、積極的に対処してゆくとの姿勢を示す。しかし物理的な距離の隔たりに加え、南部の政治家にとって、移管により連邦選挙区から除外された NT の政治的価値は低く、当初の協力姿勢も現実的には、移管を機にアボリジニの惨状改善を期待・要望した一部の知識人や、教会関係者に対するリップサービスにすぎなかった。この時期連邦政府は、日露戦争後の日本の海外進出を想定した軍事費と、1909 年から導入された年金制度資金に多くの出費を余儀なくされており、NT の運営は当初より厳しい予算で臨まざるをえない状況であった。さらに、1914 年に始まった第一次世界大戦による戦費は予算の 6 割を占め、NT の厳しい経済状況に決定的な打撃となった。期待を持って開設されたアボリジニ部も、予算引き締めによる人員削減の結果、1914 年には早くも組織としての機能を失う。アボリジニ条例の実施などは望むべくもなく、主席保護官もその後 1939 年まで、NT 行政庁の他の部門の責任者を併任するとい

う形でかろうじて名目を保った。

こうした実状から、連邦政府による保護政策の実行は当初より極めて限られたものであったが、基本的には白人との接触を管理することで搾取を防ぎ、隔離された環境で必要な福祉を与えてゆくというものであった。このためリザーブの確保が重要な意味を持っていたが、現実には1912年に、すでにSA時代に設立されていた地域を再承認したにすぎず、より大規模なリザーブ成立のためには、政府を動かす新たな要因が必要であった。その一つは、ベルサイユ講和会議の結果オーストラリアに委ねられたニューギニアを含む旧ドイツ領の信託統治である。この兼ね合いのなかで初めて政府は動き、NT 南西部の広大な地域を含むリザーブの新設が 1920 年に実現する。さらに、国民にアボリジニの存在と現状を強く認識させた 1928 年のコニストン事件と、それに続く討伐（虐殺）は、政府の従来の対応に対する批判の高まりを生み出す。この結果、クインズランド州主席保護官のブリークリー（J. W. Bleakley）を長とするNTアボリジニの現状に関する調査委員会が設置され、その報告書を基に 1931 年、アーネムランド・リザーブが成立した。リザーブの総面積は8 万k m^2（SA 時代の約 35 倍）に広がり、白人社会から隔離した状況下での管理保護が可能となったが、すでに担当行政組織は機能しておらず、実際の管理運営はこうしたリザーブに点在する教会のミッションステーションに委ねられていた。

リザーブ成立にもかかわらず、移管以降続く消極的な連邦政府の態度の背景には、「いずれ絶滅するアボリジニ」という 19 世紀以来の認識があった。しかし、1930 年代に入り、リザーブ・ミッションからの報告、新世代の人類学者による NT 調査、そしてダーウィンを中心に急増する混血児の存在は、従来の認識を根本的に転換させた。さらに 1932 年から 1934 年にかけてのカレドン湾（Caledon Bay）事件とその後の対応は、国内外の注目を集め、政府はこれまでの消極的な保護政策にかわり、増加するアボリジニの存在を明確な社会問題として積極的にとらえ、解決する必要に迫られる。この結果 1937 年に州・連邦アボリジニ対策関係者会議を招集し、混血についてはオーストラリア社会へ「吸収」し、その他の一般アボリジニ（full blood）は大規模なリザーブを設置して「隔離」する方針が決定する。対象が限定され,「吸収」という表現が用いられたが、その後の「同化政策」へと続く概念が導入された。

全て失敗に終わった SA 時代の NT 経済開発は連邦移管後も成功せず、その後の大恐慌により NT 経済は完全に破綻してしまう。1937 年に当時 NT の監督官庁だった内務大臣（Minister of Department of Interior）に就任したマキュワン（John McEwen）は、翌年 12 月に NT 経済復興計画を発表し、同時に NT 行政庁の再編成に着手する。ほぼ 25 年間にわたり、併任の主席保護官の個人的行動にたよってきたアボリジニ対策についても、明確な政府の支援を決定する。彼は 1939 年2 月の大臣声明の中で、「今後のアボリジニ政策は、オーストラリア国民と同様の市民権を享受できるよう彼達の向上実現を最優先させる」と述べ、1930 年代後半 NT に於いて動き出した同化政策への流れを、混血を含む全てのアボリジニを対象とした政府政策として位置づけた。主席保護官の個人的活動にかわり、それまでニューギニアで行政官を務めた人類学者チネリー（E. W. P. Chinnery）を局長とする、組織としての先住民局（Native Affairs Branch）が新設される。こうして具体的なリザーブの管理や、とくに主席保護官のクックから無視されてきたミッションへの経済援助が計画されたが、第二次世界大戦の勃発で、実質的な同化政策の開始は戦後まで中断を

余儀なくされた。

1941 年からオーストラリアを率いた労働党内閣は戦後、人類学者のエルキン（A. P. Elkin）をアドバイザーに、中断された同化政策実施に向けて動き出す。1949 年 12 月の政権交代で実現は保守連合政権時代にずれ込むが、エルキンは 1948 年の第二回　州・連邦アボリジニ対策関係者会議等を通じ政策実現へ根廻しを進めていく。労働党を継いだメンジーズ（Robert Gordon Menzies）内閣は、引き続いてこの問題に取り組むため、1951 年に NT 監督官庁として新設された連邦管理地域省（Department of Territories）の大臣にハスラック（Paul M. C. Hasluck）を任命する。彼は直ちに州アボリジニ担当大臣会議を召集し、今後アボリジニ行政は州・連邦を問わず「同化政策」に沿って実施し、最終的には全てのアボリジニを白豪社会へ受け入れる基本方針を決定する。1953 年 NT での政策実施の法的根拠となる福祉条例（NT Welfare Ordinance 1953）を成立させ、行政庁長官と先住民局長も自ら選任する。こうして、ほぼ無策ともいえる消極的対応から一転し、同化政策の明確な定義付けのもと、連邦政府と NT 行政庁の一体となった結束と、優先的ともいえる関連対策予算の割当てが実現する。

実施に先立つ 1955 年、先住民局は福祉局（Welfare Branch）へと組織変更され、同局は初めて NT アボリジニの人口調査を行なうとともに、戦前からすでに同化が進められてきた混血以外の、1953 年福祉条例がその対象とする一般アボリジニの登録を実施する。1956 年には NT のアボリジニ教育も連邦教育庁から福祉局に移管され、1957 年に福祉条例が施行される。福祉局は医療福祉の実施と、白豪社会への適応と市民権獲得のための教育や、生活・職業訓練を進めてゆく。さらに政府は、これまでリザーブで教会のミッションステーションが福祉活動を支えてきたことを高く評価し、同化政策実施をはかる上でも重要視して、経済援助とともに、福祉局と同様の福祉の提供や、同化のための教育・訓練を依託する。ミッションステーションとならび訓練センターとして重要な役割を果たしたのが、主にリザーブに点在する福祉局の政府セツルメントである。1950 年代後半から順調に同化政策が実施されるなか、1957 年に設立されたのがマニングリダである。

6.2　第二次世界大戦・人口流出・マニングリダ

1931 年、約 10 万k m^2 の広さを持つアーネムランド・リザーブが成立する。しかし本来こうしたリザーブにアボリジニを隔離管理し、必要な福祉を提供するはずの保護政策は、担当組織不在で実現せず、アーネムランドから首都のダーウィンや周辺の白人集落へ、砂糖、茶、小麦粉そして酒を求めて西へ向かうアボリジニの流れはあとをたたなかった。もっとも大恐慌により NT の経済はほぼ破綻状態にあり、単純労働者としてのアボリジニにとって現金収入の機会は少なく、流出の規模はおのずと限られていた。NT の人口（アボリジニを除く）もこうした経済状況を反映し、移管時に約 3000 だった人口が、1930 年代に入ってもほぼ 5000 人前後で推移していた。

この状態はしかし、1938 年以降の軍備増強により一変する。1942 年2 月のダーウィン空襲後は日本軍の上陸に備え、アリススプリングス以北が軍政下に置かれ、翌 1943 年にかけ 4 万を越える兵員がダーウィンから南に展開する。急激に増強されてゆく兵員の収容と、兵士とアボリジニ女性をめぐる問題発生を予防するため、軍部はダーウィンのアボリジニ収容施設であるバゴット（Bagot）の兵舎への転用と、ダーウィン及びその周辺のア

ボリジニ全員を、主にスチュワート・ハイウェイ沿いに設置された7ヶ所の管理キャンプに収容することを決定する。作業は新設の先住民局が中心となって実施し、第一回のダーウィン空襲前に完了した。軍政期間中多い時にはそれまでの 10 倍近い人口を加えた NT は、基本的には民間人の居住が規制され、軍人とアボリジニからなる、しかも白人（軍人）がアボリジニを上廻るというかつてない人口構成が出現した。軍は管理キャンプのアボリジニを貴重な現地労働力として雇用し、多くの基地や関連施設で活用する。アボリジニにとっても、基地付属の軍キャンプでの生活は整理整頓が厳しく要求されたが、雇用上の人種的偏見は無く、最低賃金や雇用にともなう医療保険、簡単な職業訓練、休暇や子供達への教育といった、今までも一部法律上で認められているにもかかわらず、ほとんど実現することのなかった、雇用にともなう権利や福祉を享受することができた。これは先に述べた戦時下に於ける NT の特殊な社会人口構成と、利潤を無視した戦時経済により実現したものだが、戦後の同化政策の原型ともいえる内容を持っていた。この特殊状況は当然のことながら、多くのアボリジニをアーネムランドから引きつけ、軍政終了の直前の 1945 年 4 月には、男女あわせて 700 人ちかいアボリジニが軍によって雇用されていた。

連合国側の反撃による戦線の北上に従い、NT への軍事増強も 1943 年をピークに下降し始める。そして軍政と戦争の終結により軍は去る。残された膨大な施設は戦後の NT 復興の大きな足がかりとなっていくが、他方で取り残されたアボリジニは雇用と生活の場を失うこととなり、その多くはダーウィンへ流れ込んで大きな社会問題を引き起こした。民政復帰により実質的な活動を再開した先住民局は、さっそくこの問題の対処にあたるが、予算は限られ、十分な対応がとれないままの状態が続く。

厳しい財政状況下の先住民局に巡察官（Patrol Officer）として 1946 年 6 月に就任したカイリトル（Sydney H. Kyle-Little）は、1949 年の春にかけ、内陸部探査や部族抗争をめぐる殺人事件調査のため、3 回にわたりアーネムランド・リザーブのパトロールを行なう。リザーブ内のアボリジニやミッションステーションの実状、そして彼達の要望をつかんだ彼は報告書を提出し、緊急なハンセン病対策を中心とした医療活動と、父権的管理のミッションとは異なる政府交易所（trading post）の必要性を指摘する。とくに戦時中の大規模な白人社会（軍）との接触により、その物質的利点を知ったアボリジニの流出をくい止めるには、生活の場であるリザーブ内で、自らの伝統的な狩猟採集により調達可能な物品（ワニ皮等）と、彼達が必要とする製品を交換入手できる交易所を設ける以外にはありえないと強調する。さらにその候補地として、ミッションステーションの影響が及ばず、常に多くの流出者の出身地でもある中部海岸地域の中心に位置するリバプール川河口を選ぶ。この報告書を受け、先住民局長のモイ（Francis H. Moy）は直ちに計画実現のため、該当地域からのアボリジニ約 60 名の送還を兼ねて本人の派遣を決定する。1949 年 6 月 9 日河口の東岸で、早くからマカサンの漁師からも水場として知られていた場所に、暫定的な交易所が開設された。ここに、マニングリダが始まる。

6.3 再建：交易所から政府セツルメントへ（1957－1961）

巡察官見習いのドーラン（Jack Doolan）や、先のパトロールで行動をともにした、マニングリダ地域出身のアボリジニ巡察助手の協力により、マニングリダ交易所は成功をおさめる。カイリトルは交易業務にとどまらず、広く周辺部族と接触をはかり、交易所の活

動を説明する。さらに将来の経済開発の可能性をさぐる資源調査や、簡単な治療処置も実施した。このため単に多くの部族が訪れるだけではなく、交易所の周辺にキャンプを設営するグループも増え、1949 年8 月末には 250 人に達した。彼はタバコ支払いにより彼らを雇用し、マニングリダの東 6k mの平坦地に緊急医療用の 700 ヤードの滑走路を完成させた。この結果、当時の飛行機でもダーウィンとは 2 時間の距離にちぢまり、10 月に発生したハシカ流行の際には、初めてダーウィンから薬品が空輸された。雨季を前に現地を訪れた巡察官のライアンは報告書のなかで、「マニングリダ交易所は、先住民局がこれまで実施した最良のプロジェクトの一つである」と述べ、「もしこのプロジェクトが中止された場合、間違いなくダーウィンへの流出が再発する」と結論づけている。しかし、局長代行マッカーフリー（Reg McCaffrey）からの撤収命令により、マニングリダは 1949 年 11 月末をもって閉鎖される。そして 12 月の労働党から保守連立への政権交代と、1951 年にかけての NT 行政組織再編の過程で、雨季明けの再開も含め、計画そのものが一時中断される。

1955 年同化政策実施に先立って行なわれたアボリジニの人口調査の結果、マニングリダ周辺地域からの流出再発が確認され、福祉局は 1956 年に中断されていたマニングリダ再開を決定する。こうして 1957 年 5 月 9 日、第一陣として建設工事を実施指揮する工事主任（manager）のドライスデール（Dave Drysdale）とその妻、そして 2 名の福祉局スタッフが約 30 トンの資材とともに上陸し、マニングリダは再開される。再開にあたっては当初アボリジニの対応が予想できなかったため、ダーウィンのバゴットのような強制的収容管理ではなく、伝統的生活への干渉は極力避けた最小限の施設（交易と医療）で、彼達の自主的な接触に対応する方針がとられた。しかし再建直後から、東部のブララ語族を中心に流入と定住が始まり、数ヶ月後には人口が早くも 300 人を越えた。多くは前回の経験から、必需品入手と治療を目的としていた。当初の慎重な予想に反するこの自主的な人口流入は、ドライスデールらスタッフに、マニングリダは単なる交易・診療施設にとどまらず、同化政策の拠点となる政府セツルメントへの発展が可能であるとの確信を与える。こうして交易所も兼ねる政府売店とハンセン病医療キャンプ開設にとどまらず、定住者を積極的に雇用し、セツルメント建設の工事が実施されてゆく。福祉の一環として労働者には賃金とともに 1 日 3 回の食事（本人とその直接家族を含む）が保証される。その食事の準備と現地での食料確保のために菜園農場がもうけられ、新たな雇用と現金支払いの機会が増加してゆく。現金は政府売店で使用され、貨幣経済が急速に定着する。マニングリダは当初より複数部族で構成されており、均等な現金の流れを確保するため、期間を決めた部族毎の持ち廻り雇用の実施も心がけられた。1959 年 3 月にはそれまでの台帳方式に代わり、交易決済も全て現金支払いに改められて貨幣経済が実現した。この背景にはまた、雇用決済書類と賃金の確実で迅速な輸送を可能にした航空輸送の実現があった。

当時マニングリダへの陸路は乾季でも開かれておらず、優先的に進められた滑走路建設の結果、1958 年の 4 月末には一番機が着陸する。同年末からは月 1 便の政府機運行が始まり、翌年中には DC3 型クラスの使用が可能な 4200 フィートに拡張され、民間航空省の認可も受ける。1960 年 7 月には郵便配送も含めて空輸業務が民間のコーネリアン航空に依託され、週一便の定期空路が開設された。滑走路以外の施設工事も順調に進み、1960 年 12 月からは、マニングリダ建設の総責任者ドライスデールにかわり、セツルメント全体の運営管理を指揮する監督官（Superintendent）代行のマックジルが着任する。この時

点までに、当初の大きな目的であった医療対策（とくにハンセン病対策）は着実な成果をあげ、患者も進んでダーウィンの専門治療施設への移送を望むまでになった。

こうして 1961 年にはスタッフの住居、学校、診療所、調理室、倉庫、上下水道配管、それにアボリジニ用の公共洗面所と住居などが完成する。管理にあたる福祉局のスタッフは 9 人に、そしてアボリジニの人口もほぼ 500 人にまで増加する。福祉局がセツルメントの設立目的として掲げた、コミュニティでの定住化と社会生活の習得、医療福祉の提供、雇用による労働概念の定着、そして教育の実施、といった条件がほぼ満たされたわけである。マニングリダは、同化政策の訓練センターとしての機能を果たす政府セツルメントとして完成した。

6.4 同化政策と林業プロジェクト（1962－1967）

1962 年 6 月マニングリダを訪れたハスラックは、13 年前カイリトルが交易所を設立したのと同じ 9 日、マニングリダの開設を正式に宣言する。この年福祉局は、専門的に施設建設にたずさわる機動建設班（Mobile Work Force）を設立する。この結果、これまで建設優先で作業を進めてきた現場のスタッフにも指導の余裕が生まれ、単純労働力としての色合いの濃かったアボリジニ雇用も、建設・管理実務を通じての訓練雇用が可能となった。これと並行してマニングリダでは林業が開始される。同化政策の一環として、1960 年代前半にマニングリダではいくつかの一次産業プロジェクトが実施されたが、いずれも経済性や市場確保努力を欠く,典型的な政府プロジェクトであったため失敗に終わる。そうしたプロジェクトの一つにもかかわらず林業は確実に定着し、マニングリダの発展を支えてゆく。

1961 年の閣議決定により、NT リザーブの森林資源開発と訓練雇用を目的とした 4 ヶ年計画が実現する。こうして他の 3 ヶ所とともに開始されたマニングリダの林業プロジェクトは、当初、連邦森林局（営林担当）と NT 福祉局（製材担当）の合同プロジェクトであったため、十分な計画と管理の下に進められていった。NT では入植初期から、湿気や白アリに強いサイプラス・パイン（Callitris Intratropica）の建材としての有用性が知られてきた。この木はアーネムランドにも多く自生し、メソジスト・ミッショナリーのシェパードソン（Harold U. Shepherdson）は、ミリンギンビやエルコで、この資源を活用した製材所を運営したことで知られる。カイリトルもマニングリダ西部沿岸に多く点在する自生林に注目し、林業の有望性を指摘している。彼が自生林の切り出しのみ（製材はシェパードソンに依託）を意図したのに対し、マニングリダの林業を継いだものであるが、営林と製材の複合プロジェクトであったため、単に雇用と訓練の機会を生み出すに止まらず、発展を続けるセツルメントに材木を提供することができた。1962 年 1 月の製材所運用開始により本格的に始まった作業は、営林作業を中心に常に 100 名前後の安定した雇用を生み出す。またアボリジニにとり、さまざまな関連職種で使用される多くの機械や車輌の操作・保守技術の習得は、1970 年代以降コミュニティの自主運営と管理に不可欠な貢献をもたらした。さらにマニングリダを中心に拡大した伐採・植林地域は、1967 年には 9000ha に達し、その開発と管理のため建設された林道と防火帯は、周辺アウトステーションや主要コミュニティを結ぶ道路網へと発展してゆく。これは、その後のマニングリダを中心とする地域のインフラ整備、それに伴う資金導入、アウトステーション間での居住・移動のパターンの変化、など、マニングリダ周辺地域アボリジニの生活や文化にも大きな影響を

もたらすこととなるが、本報告では割愛しておく。

元来グナビジ語族の土地に建設されたマニングリダは、グナビジに隣接するかたちで東からナカラ、グナドパ、ゴルゴーニ、さらに彼達を囲むように東部はブララとジナン、南部のレンバランガ、そして西部にはグナビジが分布している。マニングリダの再開により、隣接グループなどからアボリジニの流入と定着が起こるが、その中心となったのはブララで、当初よりセツルメント人口の大半を占めてきた。施設工事が一段落する 1961 年にかけ安定しかけた人口は、林業開始以降着実な増加を続け、1967 年にはほぼ 900 人と倍増する。この間の流入の中心は、多くが 1950 年代からアーネムランド南部で牧畜業に従事してきたレンバランガであった。このような複数の部族を巻き込んだ短期間の人口集中は人間関係の緊張を招いてゆく。こうした傾向に対し 1959 年 12 月、リクレーションを通じセツルメント全体の融和をはかる目的で、マニングリダ・ソーシャルクラブ（Maningrida Social Club）が白人とアボリジニ有志により結成される。自発的な流れとは別に、政府は 1960 年代に入ると、セツルメントやミッションステーションの自主運営（self management）に向けた訓練も、同化政策の重要な課題であるとの方針を決定する。ミッションでは自治評議会が組織され、政府セツルメントでは経済面での自主運営が強調され、協同組合型の売店運営が奨励される。この方針に従い、本来スポーツによる親睦が中心だったソーシャルクラブも、会員向け販売を政府売店を通じて手がけるまでになった 1963 年には、福祉局の助言を受け入れ、マニングリダ協同組合（Maningrida Co-operative Societies Limited）を発足させて翌年法人化する。政府売店は組合に引き継がれ、住民の需要をより反映させた販売で売り上げを増加させてゆく。また、雇用数がほぼ一定であった 1960 年代後半には、1964 年の社会福祉条例（Social Welfare Ordinance）成立に従い実質的にマニングリダでも支給が開始された。社会保障が新たな現金収入源として定着し、売店売り上げを伸ばしていった。人口増加により深刻化する水不足問題も、1966 年から始まった井戸掘削により一応解決したマニングリダは、さまざまな問題をかかえつつも、同化政策の実施センターとして 1967 年にかけて順調に発展をしてゆく。しかし同化政策そのものは 1960 年代を通じ大きな転換を迎えることになる。

1960 年代に広まった公民権運動は、1967 年の国民投票で一つの頂点を迎える。オーストラリア社会のアボリジニに対する意識の変化とアボリジニ自身の政治意識の高まりは、連邦成立の基本概念の一つである白豪主義に限界をもたらした。NT のイルカラとウェーブヒルで始まった土地権をめぐる運動は、同化政策が必然的にもたらすアボリジニ伝統文化の崩壊と、それに対する抵抗の象徴として、アボリジニの現状とともに広く国内に伝えられてゆく。すでに福祉局長のギース（Harry Giese）が 1966 年に述べているごとく、もはや白人社会をオーストラリアの本流とする同化政策は機能せず、その存在意義を失う。NT のアボリジニ政策も 1967 年国民投票の結果をきっかけに統合政策へと転換してゆく。

6.5 統合政策と経済自立の試み（1968－1972）

ホルト（H. E. Holt）首相の急死により、1968 年 1 月に成立したゴートン（John G. Gorton）内閣は組織再編を行ない、NT 行政庁は再び内務省（Department of Interior）の管轄下に入る。また完全に行きづまった同化政策にかわる統合政策を導入してゆく。政策としての多文化主義は 1972 年の労働党内閣により実現されるが、統合政策も基本的に

はアボリジニが自らの文化を保ちつつ、オーストラリア国民としての権利を享受し、かつ義務を果たすという多文化主義である。その具体策としては、リザーブをアボリジニ文化継承と生活の拠点として位置づけ、経済的自立のための支援がはかられる。経済的自立が強調された背景には、1960年代後半の社会保障給付開始にともなう政府援助への依存度の増加が大きく影響している。各政府セツルメントやミッションステーション関係者のあいだで痛感されつつあったこの状況打開のため、経済自給体制（self sufficiency）確立の必要性がすでに強く望まれていたのである。第一歩として政府は、それまでのアボリジニ賃金の原則であった「現金と現物（生活必需品）」にかわり、全て現金支払による賃金と職業訓練を組み合わせた、訓練手当制度（Training Allowance Scheme　以下TA制度）を1969年2月から導入する。この結果4倍以上に増加した現金収入は、アボリジニ個人の自主的生活設計や家族扶養、ひいては経済開発につながると期待された。他方では、こうした制度の効果的活用には、受け皿となる十分な雇用の存在を必要とする。

マニングリダの安定雇用供給の中心となってきた林業は、1967年に営林部門が連邦から新設のNT森林局に移管された後、1968年には製材を含めた全てのプロジェクトがNT森林局担当となる。このため当初の目的の一つであったアボリジニ訓練雇用の重要性が低下し、経済性を重んずる商業プロジェクトとしての色あいが強まる。1965年から問題となっていたNT牧畜雇用に関する賃金調停とあわせ、1968年12月から林業プロジェクトを含めた政府関係雇用での普通給与がアボリジニにも認められる。この結果経費増加を吸収するため、大幅なアボリジニの人員削減（ほぼ40名に減少）が実施される。同化政策からの転換は、新たな雇用機会確保の問題を引き起こしたのである。

雇用問題と経済的自立に大きな役割を果たしたのが監督官のハンター（John Hunter）であった。彼は1963年から翌年にかけ監督官アイヴォリー（M. Ivory）の代行として一時勤務した後、1967年2月に正式な監督官として着任し、1973年の12月まで12年間にわたり駐在する。この間、着任直後の1967年3月から前述のソーシャルクラブ会長にも就任する。彼は積極的にこの住民組織を活用して運営の拡大と充実をはかり、1969年には産業の育成と資金援助申請の母体とすべく、ソーシャルクラブをマニングリダ発展協会（Maningrida Progressive Association、以下MPA）として法人化する。同時に1970年にMPAに吸収した協同組合売店の支配人を全国に公募し、プロによる運営と利潤の追求を実現させる。その驚異的な17%を越える純益は、さまざまなプロジェクト実施の資金として還元され、さらにこうしたプロジェクトとTA制度を結びつけ、林業にかわる新たな100を越える雇用を生み出した。さらに重要な貢献として、7つの主要部族代表からなるマニングリダ・ビレッジ評議会（Maningrida Village Council）の再編成を行なった。1970年1月の再編後も、セツルメントの管理運営は、監督官と、1964年に福祉局から変更された社会福祉局（Social Welfare Branch）の権限であり、プロジェクトに関する決定もMPA理事会が中心であったため、コミュニティ運営の方針決定に実質的にかかわることはなかった。しかしマニングリダという人工的な社会で、日常生活から生ずる不満や要求を発言し、部族間の抗争を話し合いで解決する場が必要である、という彼の信念により運営されたビレッジ評議会は、のちに自治組織成立の基礎となった。

実際の経済プロジェクト計画・実施の中心となったのは、協同組合売店支配人として1969年10月に就任したバグショウ（Glen Bagshaw）であった。彼は1971年5月には

多くのプロジェクトを統括するMPA総合支配人となり、専門の営業経験を生かしてゆく。ハンターとの緊密な協力体制の下、牧畜精肉総合計画、漁業と水産加工場計画、MHA (Maningrida Housing Association)設立と住宅建設計画、共同鉱山会社(First Aboriginal Mining Company Organisation: FAMCO) 設立計画、カデル農園計画といったプロジェクトが、1970 年から 1972 年にかけて実施もしくは計画される。こうした計画は書類上MPAから独立しているが、実質的には全てMPAが係わったプロジェクトであり、彼は具体化のための折衝や申請事務を一手に引き受けてゆく。そればかりか MPA 自体の計画として、製パン工場や売店のセルフサービス化、そしてコミュニティホールを完成させる。1970 年以降こうした計画が次々と実施された背景は、人材に恵まれたことにもよるが、また同時に、経済的自立促進のため、リザーブ内のアボリジニ・プロジェクトへの土地借用を認めた同年 7 月の国有地条例 (Crown Lands Ordinance) 改正と、1968 年から開始されたアボリジニ信託基金 (Aboriginals Benefit Trust Fund: ABTF) の資金交付も大きく影響している。

こうした経済プロジェクトとインフラ整備工事、さらに西部でのウラニウム発見に続くアーネムランド全域での鉱床探査により、1970 年からマニングリダは経済ブームを迎え、人口もさらに増加を続ける。この中心はグニングであったが、それまでほぼ 50 人前後で推移してきた白人も急増し、1972 年には 250 人近い一大勢力に成長する。1972 年にかけて 1000 名を越えた人口は NT 第 5 位の規模となった。表面的には、こうした状況は持続する経済成長とセツルメント発展の象徴であり、MPA 売店の売り上げも、TA 制度が導入された 1969 年には 3 割を越える増加を示した。しかし過熱する現金経済と 1969 年に認可されたビール販売は治安の悪化をまねき、多部族構成社会に内在する緊張関係を表面化させた。これに対応するため、1972 年 6 月にはマニングリダにも初めて警察署が開設される。一方、1970 年の新製材所完成により本格的に始まった伐採・植林地域の拡大や、1971 年のマニングリダ周辺地域での鉱床探査は、アボリジニの聖地を無視して行われるケースも多く、アボリジニたちに、伝統的所有地の確保と儀礼聖地の保守の必要性を強く認識させることとなった

マニングリダ内外でのこうした状況は新しい流れを生み出した。1972 年の雨季明けとともにマニングリダから周辺地域へのアボリジニ流出が始まる。アウトステーション運動の開始である。

6.6 自主決定政策と二極化 (1973－1977)

1972 年 12 月の選挙により労働党は 23 年ぶりに政権復帰をはたす。ウィットラム (Edward Gough Whitlam) 内閣は大幅な行政改革を断行し、内務省は廃止されて NT 行政庁は新設の北部地域省の管轄となる。アボリジニ対策担当の福祉部 (Welfare Division : 1971 年に社会福祉局より変更) も行政庁の管轄を離れ、やはり新設のアボリジニ担当省 (Department of Aboriginal Affairs、以下 DAA) の NT 局 (NT Division) となる。選挙運動を通じてアボリジニの土地権承認を公約してきたウィットラムは、ウッドワード (Woodward) 判事による土地権諮問委員会を設置し、その実現をはかる。また、自主決定の方針を新たなアボリジニ政策として導入した。これによりアボリジニは初めて主体的に、自らの将来決定が可能になった。具体的には多様性を持つアボリジニの現状から、ま

ず自治組織 (Community Council) を実現させ、それにより各地域独自の自主開発を決定・実施する方針がとられた。

マニングリダでも 1973 年から、それまでのビレッジ評議会を基礎に、実質的な自治組織の編成が始まる。しかし、ミッションステーションが 1965 年から順次アボリジニの参加を拡大し、1972 年には完全な評議会の自主運営を実現させたのに対し、他の政府セツルメントと同様にマニングリダでは、建設以来一貫して監督官の指導的運営が続き、アボリジニは方針決定から全く除外されてきたため、その実現は容易ではなかった。ある意味で、突然自主決定が求められることになったアボリジニにとっては当然のことながら、福祉部時代の指導的立場にかわり、求めに応じて助言を与えながら、コミュニティ管理を実施する DAA 現場職員にも、自主決定は大きな「とまどい」をもたらした。さらにこの「とまどい」は、DAA 内の NT 局本部と現場との意見の相違も生み出す。「マニングリダの反乱」と地元紙 (NT. News) に報道された、1974 年 6 月末にウィットラム首相がマニングリダを訪問した際のアボリジニ直訴と、それに続くハンターによる DAA 職員の本部帰還命令事件は、その典型といえる。こうした紆余曲折を経ながらも、1975 年度予算からは、DAA が承認した自治組織を通じてのみ申請を受理する、との政府決定に従い、マニングリダでも 1975 年 3 月に暫定評議会を発足させる。9 部族を代表する 20 人の評議員は、DAA の議事運営やコミュニティ管理に関する促成教育を受け、8 月にはマニングリダ評議会 (Maningrida Council) として正式な承認を受ける。コミュニティ管理は DAA から完全に移行し、94 万ドルにのぼる予算の申請もわずか一週間で承認された。1976 年にはさらにアウトステーション代表 10 名も加わり、8 月には評議会規約の成立とともに法人化 (Maningrida Council Incorporated、以下 MCI) された。こうして自主決定実施の体制が整う。

「とまどい」の中で、ある程度強引に整備されたマニングリダ評議会は、その実務での不備を補うために、DAA の助言に従い、白人の専門家を雇用することになる。このうち特に全体事務を統括する事務長 (Town Clark) は、実質的に予算の申請や分配を管理することになり、コミュニティの方針決定に大きな影響力を及ぼすことになる。こうして自主決定のための自治体制も実際には、むしろ政府セツルメント時代以上に、白人スタッフの個人的意見に左右されるのが実状であった。しかもこの影響力がアウトステーション支援問題をめぐり発揮された結果、マニングリダには労働党　対　保守党（地方・自由連合）という、オーストラリア政局の対立構図が導入されて二極化が起こる。マニングリダは元来グナビジの土地にあるにもかかわらず、彼達は常に少数派であった。しかし労働党内閣の土地権実現に向けた動きとの関連で、1973 年 4 月からビレッジ評議会は、地主であるグナビジが議長職と招集権を得てグナビジ主導となる。これにより、それまで内在していたグナビジの不満が表面化し、特に予算の支払い等をめぐり、アウトステーショングループとの対立を引き起こしてゆく。アウトステーションへの支援サービスは当初の MPA が行なうが、1975 年 7 月からはマニングリダ評議会が引き継ぐ。翌年 2 月にはより効率的な支援実施のため、評議会の一部門として ORC (Outstation Resource Centre、アウトステーション支援センター) が設立され、3 名の白人スタッフが雇用される。グナビジ主導の評議会は常にアウトステーションへの予算をおさえ、その実務を握る事務長は保守党（地方・自由連合）の支持者であった。これに対し、予算配分に不満を持つアウトステーショ

ン住民を代表するかたちで、労働党支持者であった白人スタッフはORCの独立をはかる。1977年、選挙の候補者応援をめぐり両者の対立は決定的となり、ORCは最終的に分離独立し、BAC（Bawinanga Aboriginal Corporation）として1979年に法人化される。アウトステーション住民を基盤としたBACはマニングリダ評議会と同様な自治組織であり、しかもその事務・活動拠点をマニングリダに置いているため、二つの組織がコミュニティに共存する二極構造が生まれ現在に至っている。

先にもあげた「マニングリダの反乱」の背景は、経済ブームによる白人の激増にあった。首相との直接交渉の結果こうした開発は中断され、流入はおさまりコミュニティの不満は沈静化する。しかし開発方針を自ら決定できる立場となったアボリジニ、とくにアウトステーション住民グループにとっての不満は、実質的に彼らの意向が全く反映されず、商業ベースで拡大を続ける林業プロジェクトであった。これまでも林道工事の際に儀礼聖地を破壊した前例を持ち、不信感を募らせていた彼達にとって、ウッドワード委員会の林業開発にともなう99年間の土地権放棄提案は、その不信感を決定的なものとした。1974年8月、ビレッジ評議会は森林局関係者全員の居住許可を取り消す。マニングリダの発展を支えた林業も実質的な廃止に追い込まれた。こうした一連の決定は、雇用の消滅も意味しているが、前年4月より始まった失業保障の支給は、これにかわる現金収入となってゆく。すでに確立されたアウトステーション支援体制により、確実に配送される社会保障の小切手と買い上げられる工芸品製作は、雇用を必要としない新たな収入として、アウトステーションの経済を支えてゆく。一方、二極化の中で労働党との結びつきを明確にしたマニングリダのアウトステーション運動は、1975年の保守政権復活、1974年選挙以降の準州成立に向け保守化するNT政治、そして1976年アボリジニNT土地権法成立に対応し、土地確保をめざしたより大規模な人口流出を引き起こす。成立から20年を経て、居住パターンもマニングリダ一極から、アウトステーションとの二極化を迎えることになった。

参考文献

Bagshaw, Geoffrey

1977 *Analysis of Local Government in a Multi-clan country* (Honourus Degree Dissertation Dept. of Anthroplogy). The Univ. of Adelaide.

Bagshaw, Jean

1993 *Store Stories, Northern Territory Aboriginal Communities.* Darwin: North Australia Research Unit, ANU.

Drysdale, Ingrid & Durack Mary

1974 *The End of Dreaming.* Adelaide: Rigby Limited.

Haynes, C. D.

1978 Land, Trees And Man. *Commonwealth Forestry Review* 59(2).

Kyle-Little, Syd

1957 *Whispering Wind, Adventures in Arnhem Land.* London: Hutchinson.

Long, Jeremy

1995 *The Go Betweens, Patrol Officers in Aboriginal Affairs Administration in the Northern Territory 1936-1944.* Darwin: North Australia Research Unit, ANU.

McKenzie, Maisie

1976 *Mission To Arnhem Land.* Adelaide: Rigby.

Powell, Alan

1982 *Far Country, a Short History of the Northern Territory.* Melbourne University Press.

小山修三・堀江保範

1991 『オーストラリア研究資料Ⅰ　マニングリダ・バウィナンガ・コーポレーション会議録』平成2 年度文部省科学研究費補助金（国際学術研究）共同研究課題番号（02044162）成果報告書

The Maningrida Mirage, 1969－1974

Northern Territory Division

Annual Report 1972-1973. Dept. of Aboriginal Affairs.

Northern Territory Administration

Annual Report on the Northern Territory of Australia for the period 1 July 1959 to 30 June 1960. Dept. of Territories.

Welfare Branch

1959 *Maningrida Settlement, North Central Arnhem Land, Northern Territory of Australia.* Darwin: Northern Territory Administration.

Welfare Division

Annual Report, 1971-1972. Darwin: Northern Territory Administration.

7．マニングリダの過去と現在：調査概略報告

鎌田真弓

7.1 調査目的

オーストラリアの先住民政策は、1970年代より大きな変化を遂げてきた。いまだに、先住民族と非先住系オーストラリア人の生活水準の格差は大きいが、先住民族との「和解」を模索するなど[鎌田 1997]、オーストラリアの先住民政策は先進的なレベルにある。特に、1989年に設立された先住民族委員会（Aboriginal and Torres Strait Islander Commission：以下ATSIC）は、連邦議会の制定法に基づいた行政委員会で、先住民族による選挙によって選出された評議員が連邦の先住民関連予算運用の決定権をもつ、先住民族の自治組織である。連邦政府の枠組みの中での限られた自治ではあるが、先住民の政治家・官僚を創出し、また、3000にもおよぶ全国の先住民組織に活動資金を提供することによって、地域に根ざした先住民族の自主決定（self-determination）・自主管理（self-management）の制度化に貢献してきたといえる[鎌田 1998]。

1999年8月8日～28日と2000年8月7日～19日のダーウィン（Darwin）およびマニングリダ（Maningrida）での二度にわたる調査は、自主決定・自主管理の理念に基づいた連邦政府の先住民政策が、先住民コミュニティでは具体的にどのように運用されているかを調査することを目的とするものであった。マニングリダを調査対象としたのは、筆者が過去4年間ほど参加する機会を得てきた国立民族学博物館での共同研究や、文部省科学研究費による「先住民社会文化のダイナミズムとオーストラリア行政の歴史に関する文化人類学的研究－ノーザンテリトリを中心として－」のメンバーの多くが長期にわたって、マニングリダ・コミュニティとの関係を築いてきているからである。後述するように、アボリジニ・コミュニティに入る場合は、その地域の自治組織の許可を得ることが必要となる。したがって、親密な関係を持たない場合は、入域許可を得るのに長い期間を要することを覚悟しなければならない。

7.2 マニングリダの概況

マニングリダはオーストラリア・ノーザンテリトリー（Northern Territory、以下NT）のダーウィンから東へ約400キロ、リバプール川河口東岸に位置する。マニングリダが位置するアーネムランド（Arnhem Land）は、NTの東北海岸部に位置し、四国と北海道をあわせたぐらいの広さの地域である。1931年にアボリジニ・リザーブとして設定され、白人の入植は禁止された。1976年「アボリジニ土地権（ノーザンテリトリー）法（Aboriginal Land Rights 《Northern Territory》 Act）」（連邦法）の成立とともにアボリジニに返還され、同じく1976年に成立した「アボリジナル評議会および協会法（Aboriginal Councils and Association Act）」に基づき設立された「北部土地評議会（Northern Land Council）」の管理下にある。この地域への入域許可は、それぞれのコミュニティの自治組織の決定をもとに北部土地評議会からおりる。

この地域は亜熱帯地域のサバンナ気候で、乾季（6月～10月）と雨季（11月～5月）の二季がある。雨季になると川の水量が上がり、氾濫原は大湿原となり、陸路での移動は困難となる。マニングリダは高台にあって雨季でも水没することはない。マニングリダの人

口は周辺地域を含めて約 2000 人であるが、乾季には周辺地域にあるアウトステーションへと人口が移動するため、著しく人口が減少する。マニングリダ周辺の約 90・四方の地域（マニングリダはその北端のだいたい中央に位置する）には約 35 のアウトステーションが点在しており、こうしたアウトステーションへの入域も、それぞれのアウトステーションの伝統的土地所有者（traditional landowner）の許可を必要とする。

1970 年代の前半から、町を出て父系あるいは母系によって継承される地域に戻り、そこで伝統的な狩猟採集生活を復興させようとするアウトステーション運動が起こった[杉藤 1998: 80-81]。この動きはアボリジニ集団の中で自発的に起こったものだといわれるが、連邦政府の先住民政策決定に多大な影響を与えてきたクームズ博士（H. C. Coombs）やオーストラリア国立大学の文化人類学者が研究調査を行って積極的な評価をしていたために[Gray 1977, Meehan and Jones 1980, Altman 1982, Coombs and Dexter and Hiatt 1982]、連邦政府による支援プログラムが展開されて[Department of Aboriginal Affairs 1977, 1978]、急速に進展したと考えられる。後述するバビナンガ・アボリジナル組合（Bawinanga Aboriginal Corporation、以下 BAC）は、こうしたアウトステーションのインフラ整備やアウトステーションへの道路整備を支援するための自治組織である。

マニングリダには、上下水道設備と発電所が整備され、小型飛行機が離着陸できる飛行場（ダーウィンからは毎日二便 15 人乗りほどの小型機が就航している）、毎週ダーウィンから食料・衣料品や機械などを運ぶフェリーの着岸施設がある。また、小中学校とダーウィン南方のバチェラー（Batchelor）にあるアボリジニのための高等教育機関の出張教室、医療クリニック、警察、集会場（town hall）、アボリジニ組織であるマニングリダ発展協会（Maningrida Progressive Association、以下 MPA）が経営するスーパーマーケット、BAC が経営するガソリンスタンドや自動車整備工場やファーストフード店、BAC が代行する銀行窓口、マニングリダ評議会（Maningrida Council Incorporated、以下 MCI）が代行する郵便局などがあり、生活に必要な最低限のものは完備している。アウトステーションの生活も、連邦政府の支援によって特に 1990 年代に飛躍的に近代化し、各家屋には発電用のソーラーパネルと蓄電池が備えつけられ、冷蔵庫、冷凍庫、ビデオが普及している。また、ソーラー発電によって井戸水を汲み上げるモーターが設置されて水道が各戸にひかれ、超短波を使った公衆電話がアウトステーションの中心部には備えつけられ、小学校があるアウトステーションもある（ただし教員は常駐しておらず、マニングリダから巡回している）。さらにマニングリダから遠いアウトステーションには軽飛行機用の離着陸場がある。こうしたアウトステーションは、近年の道路の整備によって海岸沿いのものが減少し、基幹道路に近いものが増加するなど、国立民族学博物館の研究グループによって消長が観測されている。

そもそもアーネムランドには変異の大きい言語・方言グループが密集しており、言語学上分類できない固有の言語もある[細川 1992]。しかも、マニングリダは文化圏が異なる西アーネムランドと東アーネムランドのちょうど中間にあって、マニングリダには文化圏および言語の異なるグループが、居住区域をわけて居住している。マニングリダの伝統的土地所有者グループはグナビジで、マニングリダでは少数派である。一方、マニングリダでの多数派は、ブララやクニングあるいは近縁のゴルゴニ、ウラキ、レンバランガなど、周辺地域から流入した言語グループである。さらに、ジナンのように東アーネムランドのヨ

ロンゴ語に近い言語グループや、グナビジと同様に他の言語グループとは類縁関係が不明なナカラも住む[杉藤 1998]。こうした言語グループによる対立が、マニングリダにおける先住民自治組織内あるいは組織間の対立の最大の原因ともいえる。

7.3 ノーザンテリトリーの先住民政策：隔離、保護、同化

アーネムランドにあるアボリジニ・コミュニティの大半は、かつては教会が運営したミッションであった。たとえば、アーネム・ハイウェイ[1]沿いのマニングリダの近隣の町でアーネムランド西北端にあるオーエンペリ（Oenpelli）は英国国教会、マニングリダの東方のミリンギンビ（Millingimbi）はメソジスト教会が運営したミッションであった。けれどもマニングリダは、中央砂漠にあるパプニャ（Papunya）とともにNT政府が設立したセツルメント（settlement）であった。

特定地域の先住民族の自治の形態を分析するには、州政府および連邦政府の先住民政策と、ミッションの関与の歴史を知る必要がある。特に1967年の国民投票の結果憲法が改正されるまで、先住民族に関する立法権は州議会にあったために、州政府の先住民政策を把握することが不可欠である。憲法改正によって、それまでは連邦議会が立法権をもっていた特別法（special laws）に含まれていた人種問題に関する事項で、その適用から除外されていた(つまり州議会に立法権が残されていた)先住民問題が含まれることになった。

NTは、1978年に自治政府（self-government）が設立されるまでは行政部は連邦政府の管轄下にあったために、NTの行政部の長の任命権は連邦大臣が有していた。また、NTにおいては、憲法改正以前から、先住民問題に関する立法権を連邦政府が有していたことになる。NTの立法院（Legislative Assembly）は条例を成立させる権限を有していたが、連邦議会で成立する連邦法（Act）がNTには適用されるとともに、連邦法が常に優位にたつ。こうしたNTの特性は、クインズランド州や西オーストラリア州と比較するとさらに明らかになる。例えばクインズランド州は、連邦政府の先住民政策の方針を自主決定・自主管理に転換した後も、同化政策を維持していた。クインズランド州内の差別的なアボリジニ法が1975年に成立した「人種差別禁止法（Racial Discrimination Act)」(連邦法)に抵触するとして、連邦政府はクインズランド州法による差別を無効とした、クインズランド法のみを対象とした「アボリジニおよびトレス海峡諸島民《クインズランド差別法》法（Aboriginal and Torres Strait Islander《Queensland Discriminatory Laws》Act)」(連邦法)を成立させた[Chesterman and Galligan 1997: 196-197]。この連邦法によって、クインズランド州内でもまた先住民の地方自治体（councils）の設立が可能となった。

現在でもNTの歳入の約7割は連邦政府予算で賄われており、他州と比べて連邦政府の財源への依存率は高い。後述するように、マニングリダの自治をめぐる政治的対立のもう一つの原因は、連邦政府とNT政府の対立にある。

以下ではまず、NTにおける先住民政策を、「人権および機会均等のための委員会（Human Rights and Equal Opportunity Commission)」による「盗まれた世代（stolen generation)」に関する報告書[Wilson 1997]を中心に概観する。NTは、1863年に南オーストラリア植民地に編入され、1903年までに領域内の土地はすべて非先住民に借地（lease）されていた。この間に先住民は土地を追われて生活基盤を失い、牧場借地の周辺部でくらすか、あるいは牧場主に雇われることになった。労働の報酬としては、賃金のか

わりに小麦、紅茶、砂糖などが支給されるのみだった。こうしたボアリジニを「保護」するために、非常勤の保護官（Protector）が任命され、また、教会系のミッションが設立された[2]が、先住民に対する政策は無に等しかった。1860年代といえば、オーストラリア大陸の内陸部はいまだに「探検」されておらず、大陸縦断に始めて成功したのは、1860年から1861年に行われたバークとウィルズの探検隊であった。一方、アーネムランドの開拓の歴史は北東の海岸線から始まる。その後NTへの入植が進むとともに、アボリジニの土地の喪失の歴史と、白人入植者の暴力による「混血化」が始まった。本人たちの意思に反する妊娠も多く、アボリジニの女たちの出産率が高まり、人口の少ない地域での「混血」人口の増加が問題視されるようになった。

NTにおける最初の先住民を対象とした法律は、1910年の「NTアボリジニ法（Northern Territory Aboriginals Act）」（南オーストラリア州法）で、南オーストラリア州のアボリジニ省の主席保護官（Chief Protector）が18歳以下のアボリジニおよび混血（half-caste）のアボリジニの保護者として任命された。しかし、1911年にはNTの領域および行政権が南オーストラリア州から連邦政府に委譲され、テリトリー内のアボリジニに対しては「アボリジニ条例（Aboriginal Ordinance）1911年」が適用されることになった。この条例によって、NTの主席保護官の権限はさらに強化されて、すべてのアボリジニおよび混血のアボリジニの「庇護」と「保護」が主席保護官に一任されることになった。主席保護官のこの権限は1957年まで保持されたばかりか、その間にも強化されて、アボリニジの生活は教育、結婚、就職、居住場所など生活のすべての面において、政府の管理下におかれることになった。アボリジニの女は、生涯保護官の保護下におかれて特別な許可がない限り非アボリジニとの結婚は許されなかったし、アボリジニの子供達も文明的な生活をさせるべく教育のために親から強制的に隔離され施設に収容された[Wilson 1997：131-135]。

「先住民保護協会（the Association for the Protection of Native Races）」からの批判を受けて、1927年に連邦政府はクインズランド州の主席保護官ブリークリー（J. W. Bleakley）にNTのアボリジニ行政に関する諮問を行った。1920年代にはアボリジニやアボリジニの子供達の窮状を訴える博愛的な市民団体の活動が、オーストラリア南部の諸州を中に活発化していた[Austin 1997:156-161]。1929年に提出されたブリークリーの報告書は、テリトリー内の政府の監督下にある施設運営の不備を厳しく批判する一方、教会系ミッションの貢献を高く評価するものであった。ブリークリーは報告書において、16才以下のアボリジニの庶子達を「ヨーロッパ人との混血の度合（their proportion of European blood）」によって選別し、政府が積極的に支援するそれぞれの施設（mission homes）に収容して教育することを提案した[Wilson 1997: 136]。また、アーネムランドやメルヴィル島のように入植が進んでいない地域のアボリジニは、居留区（reserve）を設置して保護すべきであると提案した[Austin 1997: 128]。

一方、1919年より主席保護官を勤めていたクック（Cecil Cook）は、1927年に主席保健官（Chief Medical Officer）も兼任することになり、「混血」人口の増加問題に取り組んでいたが、彼の主張は混血アボリジニを「生物学的に吸収（biological absorption）」させて、いずれは白人と同化させようというものであった。すなわち、アボリジニの子供達を強制的に政府が運営する施設に隔離して監督し、「生物学的吸収」を妨げるようなミッションは廃止すべきであると主張したのである[Wilson1997: 136-138]。

結局、ブリークリーが提案した政府によるミッションへの積極的な財政支援は実施されず、食料不足などの施設の状況は依然として改善されなかった。アボリジニ居留区の設置に関しては、メルヴィル島はすでに大半が借地となっていて多額の補償を必要とするために否決されたが[Austin 1997: 138]、アーネムランドは 1931 年に居留区化が宣言された[ibid: 281]。

NT における教会系のミッションは、1930 年代になるころには、北部の海岸沿いに7 箇所存在していた。アーネムランドのオーエンペリ・ミッションは 1925 年に、ミリンギンビ・ミッションは 1928 年に開設されている。土地、つまり生活基盤を失ったアボリジニは、ミッションあるいはその周辺に集まっていた。1930 年代の半ばまでは、ミッションは政府からの補助金を給付されていなかったために、ミッションは恒常的な食料不足に悩まされていた[Wilson 1997: 138-140]。

1937 年にマキュワン (John McEwen) が連邦内務大臣に任命され、より積極的な先住民政策を展開した。1939 年にマキュワンは「ニューディール」を発表して、混血のアボリジニに対して政府がより積極的に関与していくことを表明した。これは、長期的にはアボリジニに市民としての権利を与えることを約束したものであった。同時にアボリジニ政策のための行政局を強化し予算を拡大した。アボリジニ部門を保健サービス局から分離して主席保護官を廃止するとともに、先住民局長 (Director of Native Affairs Branch) を任命した。また、1937 年に州・連邦政府の先住民関連省間の会議が始めて開催されて、「純血」のアボリジニを除くすべてのアボリジニの子孫にヨーロッパ系オーストラリア人の水準と同じ教育を施すことによって、ヨーロッパ系オーストラリア人と同様に就業し社会生活ができるようにすることが決議された。クックの「生物学的吸収」は否定されて、経済的・社会的同化が推進されることになった[Austin 1997: 300-306]。

太平洋戦争期には日本軍によるダーウィンへの空襲もあり、オーストラリア北部は戦時体制が敷かれていた。この時期はアボリジニも北部沿岸の警戒や労役に参加している。1940 年代は、連邦法の改正にともなって、徐々にアボリジニの市民権が回復されていった時代でもあった。1947 年の「社会福祉強化法 (Social Services Consolidation Act) 1947」(連邦法) では、州の保護法による保護の対象でない者に限り、老齢年金や傷病兵年金、寡婦年金、妊婦手当ての給付対象となった。1949 年の「連邦選挙法 (Commonwealth Electoral Act)」では州法で選挙権が付与されているアボリジニに限り連邦議会の選挙権が付与された。1940 年代には、先住民政策を連邦政府の管轄下におこうとする動きがみられた。1942 年の憲法会議後に、州政府に対して先住民政策に関する権限を連邦政府に委譲するよう要請されたが、すべての州政府の合意に達することはできなかった。また、1944 年には先住民政策を含む連邦権限の拡大を求める憲法改正のための国民投票が行われたが、これも僅差で否決された[Chesterman and Galligan 1997: 156-165]。

NT では、1953 年に福祉条例 (Welfare Ordinance 1953) が成立しアボリジニ条例が廃棄された。新条例は同化政策の根拠となるべきもので、アボリジニを「保護」の対象とするのではなく、福祉政策に先住民と非先住民との区別を設けないことによってアボリジニも福祉の対象とするものであった。したがって、条例の中には人種による基準はなく、「被保護者 (wards)」が福祉の対象とされた。そうして福祉局長 (Director of Welfare Branch) が「被保護者」の「保護者 (guardian)」とされた。しかし、実質は「被保護者」はアボ

リジニを意味することは明らかであった。保護を必要とする非アボリジニの子供達は、「福祉条例」が発効する翌年に成立した「児童福祉法（Child Welfare Ordinance 1958)」の対象となっていたからである[Wilson 1997: 143-144]。しかも「被保護者」の名簿を作成するのに時間がかかり、条例が運用されるまでには長い準備期間が必要であった[Wolfe 1989: 14]。

1962 年の連邦選挙法の改正で、NT で連邦下院議員の選挙権をもつものは「被保護者」とはなり得ないとしたために、1953 年の「福祉条例」は骨抜きになってしまった。1964 年に成立した「社会福祉条例（Social Welfare Ordinance 1964)」からは「被保護者」の用語は削除され、NT における 50 年にわたるアボリジニに対する法的管理体制が終焉することになった[ibid:17]。

7.4 マニングリダ行政略史

太平洋戦争期から顕在化し始めたアボリジニ・リザーブからの流出を止めるために、1946 年、当時の先住民局長は巡察官（Patrol Officer）をアーネムランドに派遣し、ワニ皮、カメ、ナマコなどの交易のための交易所（trading post）の開設に適当な場所を探索させた。1949 年、マニングリダに交易所が開設され、ハンセン病の隔離治療所も設置された。雨季の間の閉鎖の後、資金不足と開設に関わった巡察官の異動にともない、翌年の乾季には交易所が再開されることはなかった。1950 年代に再びダーウィンへのアボリジニの流入が顕著となり、1956 年には医療・配給施設をマニングリダに設置することが決定された。この決定に伴い 1957 年にマニングリダ・セツルメント（settlement）が設立された。滑走路と診療所、ハンセン病の隔離施設、アボリジニ用の食堂、小屋が作られ、小規模な果樹園や農園も開設された[Welfare Branch 1959]。住民に対しては定期的な食糧の配給も行われ、1958 年の調査では人口 330 人、1960 年には 480 人と報告されている。

NT の福祉局は 1960 年代に、アボリジニの同化を促進し、政府への依存度を軽減するために、アボリジニ居留区における住宅協会（housing association）や発展協会（progress association）の設立や、コミュニティ内での雑貨店の開設を促した。また、ソーシャル・クラブやスポーツ・クラブなどの設置、農園や牧場の設立、林業の振興と製材所の開設、パン屋の開業なども支援した[Wolfe 1989: 16]。マニングリダへの支援も強化され、連邦科学技術研究機関（Commonwealth Scientific and Industrial Research Organisation: CSIRO）の協力を得て熱帯地方に適した農園の開拓や、地域原産種の杉、サイプラス・パイン（cypress-pine）の植林と製材工場の建設、伝統的工芸品の生産の振興など、アボリジニに対する職業訓練や雇用の促進を行った。1960 年代の前半には既に、マニングリダにおいてもソーシャル・クラブ（Maningrida Social Club、1959 年設立）が活動しており、1964 年にはソーシャル・クラブの売店の部門が組合（Maningrida Co-operative Societies Limited）として認可され、1967 年に自発的解散の後、1969 年にマニングリダ発展協会（Maningrida Progressive Association、以下 MPA）が税制上有利な法人組織（incorporated）として設立された。1972 年にはマニングリダ住宅協会（Maningrida Housing Association）も発足した。1971 年にはマニングリダの人口は 1100 人にまで増加し、NT の第4 位の町に成長したのである[小山 1991: 2-3]。

1960 年代の半ばは、連邦・州政府の先住民政策が同化政策から統合政策へと転換しつつ

ある時期であった。統合政策を最初に導入したのは南オーストラリア州であるが、それはアボリジニの福祉に対して州政府が全面的な責任・権限を持つというもので、教会系のミッションは廃止されていった。同時に、居住区の運営に関わるために居住するアボリジニの自治組織が設置された[Cunneen and Libesman 1995:38-39]。こうした動きはクインズランド州を除いて全国的に広がっていた。

NT の行政部も、ミッションやセツルメントにおけるアボリジニとの協議を制度化して福祉局の関与を円滑にするために、各ミッションやセツルメントに先住民評議会（native councils）の設置を促した[Wolfe 1989: 16]。1964 年には、ダーウィンのバゴット（Bagot）コミュニティに NT で最初のビレッジ評議会（village council）が設立された[Benn 1994: 129]。ベン(D. Benn)は、NT におけるアボリジニ・コミュニティに対する「発展支援（development push)」は、政治・社会的発展よりも経済的発展を意図したもので、連邦政府からの先住民政策の自立をめざしたものであったと指摘する[ibid:128]。発展協会（progressive association）や住宅協会（housing association）の設立、植林や農園・果樹園の開発、売店や製材所の経営なども、こうした経済的自立支援の文脈で捉えることができよう。

マニングリダのビレッジ評議会が経営した MPA は、経営主任（business manager）として雇用された白人 [3]スタッフであるバグショー（Glen Bagshaw）の手腕もあって、順調に売り上げを伸ばしていった。鉱山資源開発のための共同鉱山会社（FAMCO: First Aboriginal Mining Company Organisation)も設立され、白人園芸家、ボブ・コリンズ(Bob Collins) [4]を招いて「グナドバ園芸会社（Gunardba Gardens Company)」を設立しカデル（Cadell）で農園・果樹園経営も始めた[ibid: 135-136]。

1960 年代の後半には、連邦政府の先住民政策も転換期を迎えていた。1967 年の国民投票の結果を受けて内閣官房省内にアボリジニ問題評議会（Council for Aboriginal Affairs）が創設された。委員長にはクームズ博士が、著明な外交官であったデクスター（Barrie Dexter）とアボリジニのコミュニティの研究で著明な人類学者スタナー（W. E. H. Stanner）が評議員として任命され、3 名からなる評議会ではあったが以後の連邦政府の政策に多大な影響を与えるものであった。この評議会は連邦政府の政策から「同化」の理念を排除するよう求め、「アボリジニが自らの将来を決定する権利と、特別な立場にあるマイノリティーとしての文化の維持し発展させることができるよう支援することの重要性」を強調した[Long 1992:160]。連邦政府の自立支援の政策は、よりアボリジニの社会的・政治的自立を意図したともいえる。こうした、NT と連邦政府の「自立」政策の齟齬が、後にマニングリダ・コミュニティにおける自治組織の対立を生む要因となった。

先住民局の巡察官で、1967 年から 73 年はマニングリダの監督官（Superintendent）として着任していたジョン・ハンター（John Hunter）は、アボリジニの自立を積極的に支援したといわれる。1965 年ごろから、ハンターの指導でマニングリダ・ビレッジ評議会（Maningrida Village Council）の設立が図られていた。ハンターは彼の通訳を勤めていたアボリジニや巡察官のアシスタントをしていたアボリジニを評議員として任命し、定期的な会合を開いていた。評議員の中心人物がマニングリダ地域の伝統的な言語グループであるグナビジの出身（リバプール川の人々）でも、東側に隣接するブライス川の人々でもなく、東アーネムランド圏に入るジナンの出身であったために、評議会は開設期から言語

グループ間の対立を抱えることになった。1970年に、マニングリダに住む主要グループ（ブララ、レンバランガ、ナカラ、グニング、ジナン、グナバ）がそれぞれ評議員を選出し新評議会が発足した。しかし、1972年には会合への出席率は激減していた[Benn 1994: 130-135]。

こうした言語グループ間の対立は、NTと連邦政府の対立によって先鋭化されていく。本来マニングリダ・セツルメントは、NTの先住民担当部門が主導して設立したものであり、教会系ミッションに対抗するかたちで、行政主導の居住区のモデルケースとして重視されていた。マニングリダの経済的自立のために、NT先住民問題を担当する部局は多大なる支援を行ってきた。しかし、1972年12月に長期保守連立政権を敗って政権を獲得した労働党政権は、国防・外交、移民、経済、先住民政策の大転換を行った。先住民政策では「自主決定」を理念として掲げ、アボリジニ担当省（Department of Aboriginal Affairs、以下DAA）を新設するとともに、対先住民予算を拡大した。先述したクームズ博士を議長としたアボリジニ問題評議会の影響力も大きく、アボリジニの経済的自立のみならず、社会的基盤の回復、政策決定への参加システムの構築、土地権の回復を支援するための政策を展開した。アウトステーション運動も連邦政府の支援の対象となって、マニングリダから周辺地域への人口の拡散を促した。

自治政府が成立していなかったNTの行政府は、連邦政府の管轄下にあったため、DAAの新設に伴って、アボリジニ行政を担当する部門は、NTの福祉部（Welfare Division）からDAAのNT局（NT Division）に移管され、連邦政府の新しい先住民政策が積極的に試みらることになった。しかし、行政の現場ではNTの福祉部の担当者が留任することも多く、1978年にNTに自治政府が設立するまで継続することになり、連邦政府の新政策運営を疎外する要因ともなった[Wolfe, 1989: 20]。例えばハンターは、連邦政府の「自主決定」理念とコミュニティの白人主導の運営の現実との間の乖離を厳しく批判したが、マニングリダを訪れたウィットラム連邦首相は、こうしたハンターの姿勢にあからさまな不快感を示したといわれる[Benn 1994: 126]。

アボリジニの「自主決定」を具体化するために連邦政府は、予算申請がアボリジニ・コミュニティの評議会から正式に行われない限り、補助金を給付しない旨を通達した。教会系ミッションの運営も、アボリジニの自治組織による運営が要請された[Wolfe, 1989: 20]。マニングリダにおいても、いま一度評議会の評設立が試みられた。1975年、評議会の基盤づくりがDAAのコミュニティ・アドバイザーに要請され、1976年に20人の評議員[5]から構成されるマニングリダ評議会（Maningrida Council Incorporated、以下MCI）が正式に発足した。後にアウトステーションの代表も加えられて、評議員数は計30名に増員された。[Bagshaw 1977: 24]。この評議会は、「アボリジニ評議会および協会法 1976（Commonwealth Aboriginal Council and Association Act 1976）」に基づく認可の申請がなされた。従って、この時点でのマニングリダ評議会は、連邦政府の管轄下にあったことになる。しかも、連邦政府の「自主決定」のもと、経済的自立よりも政治的・社会的・文化的自立が優先されて、非アボリジニ主導のコミュニティ運営が否定された。マニングリダ評議会は、テリトリー政府の主導で始められた林業の白人労働者やDAAの白人スタッフのマニングリダからの退去を要請した[Benn 1994:189]。

しかし、このマニングリダ評議会も言語グループ間の対立が激化して定期的な会合も開

かれず結局機能不全に陥いる。その理由は、マニングリダの伝統的土地所有集団であるグナビジが、白人やその他の言語集団のマニングリダへの流入を歓迎せず、またマニングリダの自治におけるグナビジの主導権を主張したからだといえる[Bagshaw 1977:39、Benn 1994: 208-211]。1978 年には DAA からの補助金の停止が通達されることになった。その結果専任のスタッフ（常に「白人」である）の雇用も停止された。[Department of Aboriginal Affairs 1978: 13]。マニングリダ評議会が再び設立されるのは、1981 年のことである。既に NT の行政はテリトリー自治政府に移管されており、この新評議会の設立は、1981 年に「法人設立法（Association Incorporation Act）1978」（NT 法）に基づいて認可された。

7. 5　マニングリダ評議会とバビナンガ・アボリジナル組合の対立

今日のマニングリダには2 つのアボジニ自治組織がある。マニングリダの町の行政に関する決定を行うマニングリダ評議会と、マニングリダ周辺へのサービスを行う BAC である。どちらも、アボリジニの代表からなる評議会が決定権を持ち、運営のために白人のスタッフを雇用している。この2 つの組織の対立は多くの研究者が指摘するところである。住民の人間関係が複雑で、様々な問題を公にすることは憚られるために関係者の口も重く、その実体と原因を探ることは容易ではない。しかも、調査グループがアウトステーション側、つまり BAC の人々と親密な関係にあるために、入手できる情報にも大きな片寄りがあるのも事実である。このような制約に留意しつつ、対立の状況と要因を以下に素描したい。

現地調査を行った 1999 年と 2000 年の時点では、マニングリダ評議会には新任の白人の助役（twon clark）が着任したばかりで、事務所の機能の再建を行っていた。現在の評議員は 15 名（うちグナビジ出身者は7 ～8 名）、そのうち女性は5 名（うちグナビジ3 名）で、月1 回の定期的に会合を開いている。評議員は、NT 選挙法に基づいて、アボリジニでマニングリダの住民として選挙人名簿に登録をしている住民の直接選挙によって選出される。選挙は毎年行われている。マニングリダの町の行政サービスは、基本的には NT 政府や ATSIC からの補助金で行われるもの（賃貸住宅の建設と管理[6]、町内の上下水道整備、町内の道路整備、ゴミの収集と廃棄場の管理など）と、NT 政府が直接人員を派遣するもの（学校教員、医療スタッフ、警察）がある。ただし、教員や医療スタッフの人選には、マニングリダ評議会の意向が反映される[7]。住宅建設や井戸掘りなどの契約労働者の出入りがあるため常に一定していないが、マニングリダの町には約 200 人の白人家族が住む。道路の整備や住宅の塗装、ゴミの収集などの作業は、僻地での雇用創出のための ATSIC の補助金であるコミュニティ開発雇用プロジェクト（Community Development Employment Project: 以下 CDEP）[鎌田 1998:8]が当てられ、地元のアボリジニが雇用されている。ただし、マニングリダ評議会の不透明な会計が批判されて、現在は CDEP の管理は、マニングリダ評議会の雇用契約も含めて、BAC が行っている（マニングリダへの補助金、給付金の流れは図1 を参照のこと）。

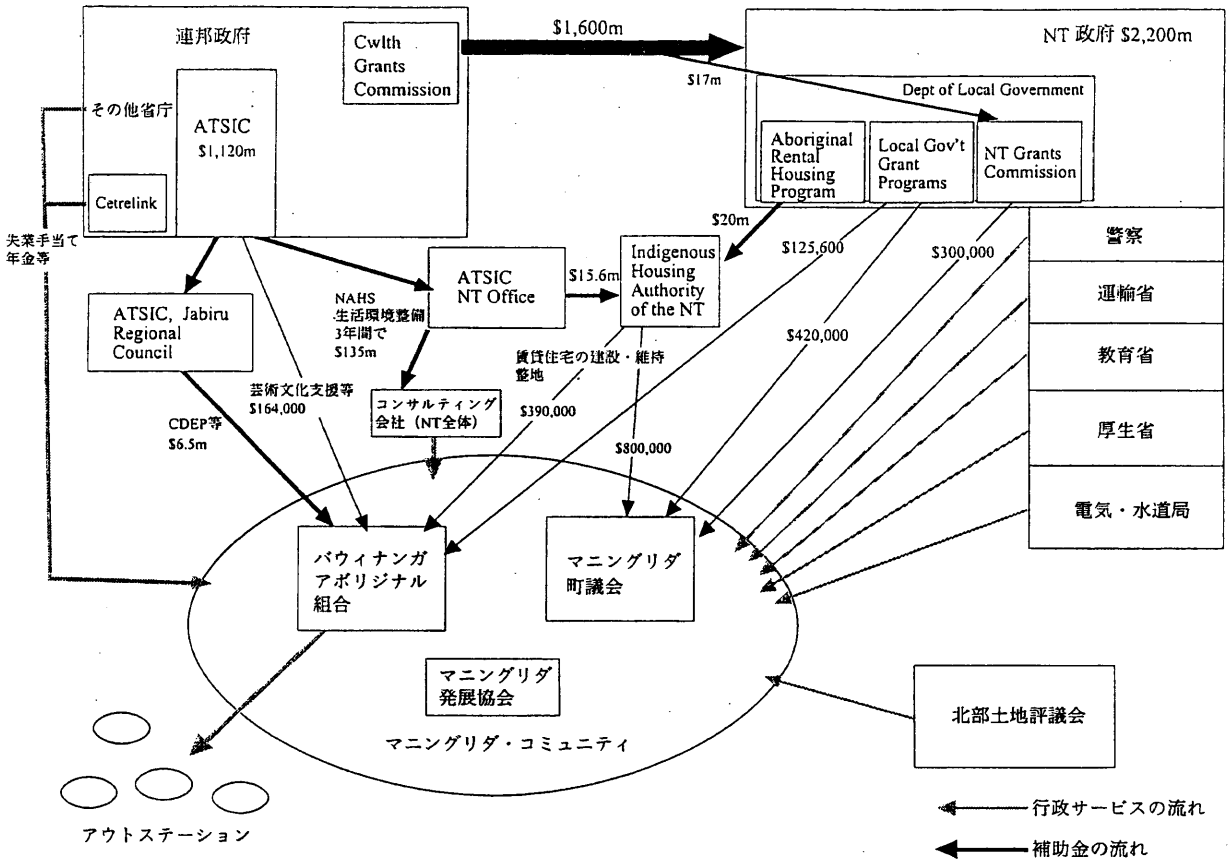

図1　1997/98年度　マニングリダに対する行政補助

現状では、BAC の方がマニングリダ評議会よりも活動は活発で、規模も大きい。事務所はマニングリダにあり、そこで働く約 40 名（うち 32 名が常勤）の白人スタッフとその家族はマニングリダに住む。中でもこの 25 年ほどの間マニングリダに住んでいる BAC の現事務長デイビッド・ボンド（David Bond）氏は、BAC の運営と発展に絶大な影響力を持ってきた。ボンド氏に対する ATSIC やテリトリー政府の評価は高く、また地元のアボリジニ（特にアウトステーションのアボリジニ）からの支持も大きい。BAC 評議会は各アウトステーションの代表から構成され、その中から 5 名の評議員（councillor）選出されている。

BAC は、ATSIC やテリトリー・連邦政府からの補助金を受けながら、いくつかの事業を展開している。例えば、タッカー・ラン（Tucker Run）と呼ばれるファーストフードの移動販売は年間の売り上げが約 200 万ドル（豪ドル）、マニングリダで経営するガソリンスタンドは約 200 万ドル、美術・工芸品センター[8]は 100 万ドル、道路や住宅建設で 100 万ドル、その他（たとえば日干しレンガ工場。ビジター用の宿泊施設など）が 50 万ドルとなっている[9]。BAC は、政府の補助金を得て購入した道路建設用の重機も多く保有しており、テリトリー政府と契約を結んでダーウィンからの主要道路の建設や整備にあたることもある。こうした事業の展開のために、技術職には白人を雇用することが多いが、職業訓練も兼ねて、賃金と CDEP を組み合わせて多くのアボリジニを雇用している。

マニングリダ評議会と BAC の対立は、基本的には限られた財源とその管轄権をめぐる争いである。しかし、その組織化（特に BAC の設立）の過程で、グナビジ対非グナビジの言語グループ間の対立、町の行政とアウトステーションへのサービスの優先事項の対立、テリトリー政府（保守系）対連邦（労働党）政府の対立が影をおとしてきた。

BAC の組織化は、1976 年にマニングリダ評議会の下部組織としてアウトステーション支援センター（Outstation Resource Centre）が設置されたことに始まる。この時期はアウトステーション運動が活発になり、マニングリダから周辺地域に人口が流出していた。こうしたアウトステーションの人々に食料を含む日用品の供給、美術・工芸品の買い上げと支払い、および失業手当てや年金などの支払いのために、DAA に対して、アウトステーション支援センター設立の要望が出されていた。1977 年にはマニングリダ周辺に２２のアウトステーションが作られ、マニングリダの人口は半減していた。1976 年から活動を始めたマニングリダ評議会ではあったが、実質はアウトステーションに住む評議員も多く、評議員の関心はマニングリダ行政ではなく、アウトステーションの運営と支援に重点がおかれることになった[Bagshaw 1977: 42]。一方、グナビジはマニングリダの伝統的土地所有集団であるにも関わらず、マニングリダ行政に流入してきた他のアボリジニ集団の意思が強く反映されることに強く反発し始める。

この時期、マニングリダで働く白人スタッフの間でも、政治的な対立が見え始めていた。アウトステーション運動を支援する労働党支持の「左派」と、DAA の役人（もともとは NT 社会福祉局の役人）が中心となった保守系政党支持の「右派」の対立である。特に NT 立法院選挙（1977 年 8 月）、全国アボリジニ評議会選挙（National Aboriginal Council）[10]（1977 年 11 月）、連邦議会選挙（1977 年 12 月）の選挙活動を通じて白人住民の間での対立が顕在化し、アボリジニ票の獲得をめぐる対立が先鋭化することになった。アボリジニ組織に雇用されながら、実質的な運営を行っていた白人スタッフが、それぞれの支持政党への票の獲得のためにアボリジニ票の組織化を図ったのである。MPA や ORC の関係者、林業アドバイザー、厚生省などのアウトテーション運動の支持派（つまり、分散型アボリジニの自主決定・自主管理の支持派）からなる「左派」に、マニングリダ評議会事務局、住宅協会、学校などの中央集権型自治の支持者からなる「右派」が対抗した。1977 年の NT 立法院選挙を前に、「左派」はアボリジニに人気の高いボブ・コリンズを労働党の候補者にたて、それまで選挙人名簿に登録をしていなかったアウトステーションのアボリジニに郵便による投票を勧め、票の獲得に乗り出していた。コリンズの当選でマニングリダの政治的対立は沈静化するに見えたが、その後に続く一連の選挙キャンペーンで、「左派」と「右派」の対立は激化していった。DAA は、マニングリダの政治的対立状況に介入することを決定し、マニングリダ評議会に右派・左派両派の白人スタッフの解雇を要請した[11]。しかし評議会は結論に達することができず、結局 DAA が作成した白人スタッフの解雇通知に評議会議長が署名をし（もっとも、議長は英語が読めなかったのだが）、大臣は暫定的に DAA の担当者を暫定的な現地スタッフとして派遣することと、評議会への補助金停止を通告した[Benn 1994: 210-228、Bagshaw 1977: 46]。

こうした対立の後、アウトステーションを拠点とするアボリジニの指導者は、アウトステーションのへのサービスを担当する組織の恒常化を図った。1978 年には、その上部組織であったマニングリダ評議会への補助金停止措置に伴い、アウトステーション支援センタ

ーから「アウトステーション支援協会（Outstation Resource Association、ORA)」と名称を変更し、マニングリダ評議会から独立した組織として再編成に着手した。1979年には、ORAは名称をBACと変更するとともに、組合規約を制定して、「アボリジニ評議会および協会法1976」（連邦法）に基づく認可申請を行った。以降、政治的対立によって一時期マニングリダ評議会からの解雇およびマニングリダ追放の憂き目にあったデイビッド・ボンドを中心に、NT議員（1977－87）を経て連邦上院議員（1987－98）となり、運輸および通信相（1992－93)、第一次産業およびエネルギー相（1993－96)、影の内閣の北部オーストラリアおよびテリトリー相（1996－97）などを歴任したボブ・コリンズの政界での影響力を利用しつつ、BACは巧みに連邦政府の補助金を獲得して、アウトステーションの住宅や設備の整備に乗り出すとともに、アウトステーションへのサービスを目的とした事業を展開してきた。

マニングリダの中心部にあるマニングリダ評議会の事務所とBACの事務所を比較してみると、現地調査を行った期間に関しては、スタッフの人数、展開する事業数、設備ともにBACの方がはるかに勝っていた。2つの組織は、マニングリダの町の行政とアウトステーションへのサービスという異なる機能を持つ。しかし、マニングリダの住民の多くは周辺のアウトステーションの住民でもあり、乾季はアウトステーションに雨季はマニングリダにと居住地を移動すること、医療設備や銀行などはマニングリダに集中しておりアウトステーションでの生活もマニングリダとの関わりなしには困難であること、アウトステーションへのサービスもマニングリダを拠点として行われていることなど、それぞれが管轄するサービスに明確な境界を設けることは不可能である。しかも、マニングリダのアボリジニ・コミュニティの健全で効率の良い自治運営をする上では、現在の対立は好ましいことではない。実際、相似するプロジェクトの重複を避け、財源を有効に使うために、NT政府は連邦政府との協力体制をつくり、ATSICを中心とした連邦政府のプロジェクトとの調整を図ろうとしている。さらに、NT政府は、アボリジニ・コミュニティへのサービスの一本化を進めるためにアボリジニの自治組織が地方自治体（local government）として登録することを推奨している[12)]。

BACの事務長ボンド氏は、先住民政策の財源が今後細る可能性が高い中、できればマニングリダの2つの組織を統合してNTの地方自治体として登録をするべきであると語った。ただしボンド氏も指摘するように、過去の対立の経緯からしてそれは容易なことではない。また、そうした組織化は、本来ならばボンド氏のような白人スタッフが（いくらアボリジニの立場を親身になって理解しようとしている人物であったとしても)、主導して画策すべきことでもないであろう。自治はあくまでも、その地域に住む人々が決定すべきことである。ただし、NTやオーストラリア連邦の法・政治制度の枠組みを最大限に活用し、またそうした制度を変革していくには、アボリジニであれ「白人」であれ、有能な事務能力をもつ人材を育成し確保することは不可欠である。

注

1 未舗装であるが、現在は幅10メートル近くあり盛り土をして、路面の砂利をローラーで圧縮し、道路脇には排水路を掘って、雨季の間の土砂の流出や堆積による崩壊をうけにくくなっている。

2 NT に最初に開設されたミッションは、1877 年中央砂漠部のハーマンスバーグ（Hermannsburg）のルター派教会によるミッションである。

3 この地域のアボリジニは、非アボリジニのことをバラダ（Balanda）と呼ぶ。いわゆるヨーロッパ系の非アボリジニが「白人」であるが、ここでは厳密な人種的な定義ではなく、一般的な意味での非アボリジニという意味で使用する。

4 後に連邦議会上院の労働党議員として、マニングリダ地域の発展に関与し得る鍵の人物となる。

5 議員の構成は、ブララ6 名、グナビジ5 名、ナカラ2 名で、グンバラン、ジナン、レンバランガ、グンゴラゴリ、グナバから各1 名、そうして無所属が2 名であった[Bagshaw 1977:24]。

6 賃貸料は、収入のある場合は1 人につき1 週間に20ドル（豪ドル）で、一軒に複数の収入のある家族や親族が住む場合は、その人数分の賃貸料となる。しかし、実質賃貸料の回収は困難で、銀行からの引き落としを始めたが、賃貸料の未払いは日常的である。一軒に20 人以上が暮らす場合も稀ではなく、傷みも早く、賃貸住宅の維持・管理は困難を極めている。電気代に関しては、玄関口にカード式のプリペイドカードを挿入するスイッチが取り付けられており、プリペイドカードを購入することによって、電気の使用が可能になっている。下水道料金は無料である。

7 マニングリダ評議会の助役のディクスタイン（Ms Judith Dikstein）さんにインタビューを行った。

8 この地域の樹皮画、ディジュリドゥ、バスケット、彫刻などの美術・工芸品は世界的にも知られており、乾季には多くのコレクターがこのセンターを訪れているし、また、シドニーやメルボルン等の大都市のギャラリーや土産物屋に出荷している。

9 BAC の事務長ボンド(David Bond)氏にインタビューを行った。

10 アボリジニによる選挙で選出された評議員から構成される、連邦政府の先住民政策に関する諮問機関である[鎌田 1998: 4]。

11 マニングリダ・エイトと呼ばれる8 名（Phil Brain, Peter O'Connor, Dan Gillespie, Peter Cooke, David Bond とその夫人たち）である。

12 NT 政府、地方自治体省（Department of Local Government）副長官（Deputy Secretary）コールズ（Mr. David Coles）氏にインタビュー。

参考文献

Altman, Jon

1982 Maningrida outstations: a preliminary economic overview. In E.A. Young and E.K. Fisk (eds.) *The Aboriginal Component in the Australian Economy: Small Rural Communities*, pp.1-42 Canberra: Development Studies Centre, The Australian National University,

Austin, Tony

1997 *Never Trust a Gvoernment Man: Northern Territory Aboriginal Policy 1911-1939*. Darwin: NTU Press.

Bagshaw, Geoffrey

1977 *Analysis of Local Government in a Multi-Clan Community* (Honours degree thesis submitted to the Department of Anthropology, University of Adelaide).

Benn, David

1994 *Community politics in Arnhem Land - Maningrida and Galiwinku (1939-1978)* (MA thesis submitted to the Faculty of Arts, University of the Northern Territory).

Chesterman, John and Brian Galligan

1997 *Citizens without Rights: Aborigines and Australian Citizenship*. Cambridge: Cambridge University Press.

Coombs, H.C. and B.G.Dexter and L.R.Hiatt

1982 The outstation movement in Aboriginal Australia. In Eleanor Leacock and Richard Lee (eds.) *Politics and History in Band Societies*, pp.427-439. Cambridge: Cambridge University Press.

Cunneen, Chris and Terry Libesman

1995 *Indigenous People and the Law in Australia*. Sydney: Butterworths.

Department of Aboriginal Affairs

1978 *Annual Report 1977-78*. Canberra: Department of Aboriginal Affairs.

Gray, W. J.

1977 Decentralisation trends in Arnhem Land. In R.M. Berndt (ed.) *Aborigines and Change: Australia in the '70s*, pp.114-123. Canberra: Australian Institute of Aboriginal Studies.

細川弘明

1992 「アボリジニの言語」小山修三・松山利夫他編『オーストラリア・アボリジニ；狩人と精霊の5 万年』pp. 46-48, 大阪：産経新聞大阪本社。

鎌田真弓

1997 「先住民との『和解』：連邦形成 100 周年を迎えるオーストラリアの試み」*Journal of Economics and Management*（名古屋商科大学論集） 41(2), pp.1-11.

1998 「ATSIC：オーストラリア先住民族自治の試み」『オーストラリア研究』11, pp.1-17.

小山修三編

1991 『オーストラリア研究資料I ：マニングリダ・バウィナンガ・アボリジナル・コーポレーション会議録』平成2 年度文部省科学研究費補助金（国際学術研究）共同研究課題番号（02044162）成果報告書

Long, Jeremy

1992 *The Go-betweens: Patrol Officers in Aboriginal Affairs Administration in the Northern Territory 1936-1964.* Darwin: North Australia Research Unit, Ausltraioan National University.

Meehan, Betty and Rhys Jones

1980 The Outstation Movement and Hints of a White Backlash. In Rhys Jones (ed.) *Northern Australia: Options and Implications*, pp.131-157. Canberra: Research School of Pacific Studies, The Australian National University.

杉藤重信

1998 「町のなかもブッシュ、そして町がブッシュにやってきた」佐藤浩司編『住まいをつむぐ』学芸出版社：pp.71-88.

Welfare Branch

1959 *Maningrida Settlement, North-Central Arnhemland, Northern Territory of Australia.* Darwin: Northern Territory Administration.

Wilson, Ronald

1997 *Bringing them home. Report of the National Inquiry into the Separation of Aboriginal and Torres Strait Islander Children from Their Families.* Canberra: Commonwealth of Australia.

Wolfe, Jackie

1989 *'The Community Government Mob': Local Government in Small Northern Territory Communities.* Darwin: North Australia Research Unit, Australian National University.

8．マニングリダ・ミラージュの6年：創刊から終焉まで　堀江保範

8.1　発刊の経緯

The Maningrida Mirage（以下　ミラージュ）は、1969年9月12日付のVol.1から1974年10月4日付のVol.3, Issue 44（以下文中では一連番号の号数で表す）まで6年間245回にわたり[1]、NTアーネムランド北岸の中部に位置するアボリジニの町、マニングリダの週刊新聞（金曜日発行）として発行された。その運営費は、読者からの購読料（1部5¢、年間$ 2.60、外部郵送の場合は$4.42）でまかなわれた（Vol.138:720526）。

コミュニティ新聞の発行計画は、1967年のハンター（John Hunter）着任にさかのぼる。同年3月、政府セトルメントであったマニングリダの監督官として着任した彼は、当時完全に行きづまっていた同化政策にかわるコミュニティの運営方針として、地域産業育成による経済的自立を目指す。そしてその実現のための母体組織として、自らも会長を務めていた[2]、住民の親睦と生活向上をめざすマニングリダ・ソーシャルクラブと、それを再編成して法人化したマニングリダ発展協会（Maningrida Progressive Association、以下MPA）を活用する。実際に1968年以降さまざまなプロジェクトが企画実施されてゆくが、この過程で会員である住民への説明と理解・協力の必要性が生じ、MPAのプロジェクトの一環としての新聞発行が計画されることとなった。

MPA会長としてさまざまな計画を統括する立場にあったハンターにかわり、実質的にミラージュを生み出したのはメソジスト派牧師のアームストロング（Gowan Armstrong）である。1963年に赴任した彼は、アボリジニの言語と文化を学びながら着実に布教を進め、1968年にはマニングリダ教会の建設が実現する。しかし1969年に導入された、アボリジニへの訓練手当制度（Training Allowance Scheme、以下TA制度）による現金収入がもたらした経済活動の拡大と、ビールの制限付き解禁[3]は、彼の布教努力を根底から打ち壊してしまう。さらに複数の周辺部族流入によって拡大した、人工的集落であるマニングリダでは必然的に、白人との関係をふくめ、部族間の緊張が高まっていった。こうした現状に直面したアームストロングは、人々の信頼関係回復の手段として、コミュニティ全体としての意志疎通をはかる新聞の編集を決意し、ここにミラージュは誕生することとなった。

8.2　ミラージュ6年の軌跡－発展・変容・衰退

アームストロングの個人的努力により実現したミラージュは、創刊号で発行目的を「町とその周辺で、今何が起きているのか、あるいは計画されているかを正確に報道することにより、マニングリダ住民としての一体感と誇りの確立を目指す」（Vol.1:690915）と述べ、さきに掲げた彼の決意を強く反映させている。もっとも紙名のミラージュは、あくまでも暫定的なものとし、適切な名称を公募するが（Vol.3:691010）、最終的にはこの仮称が定着することとなった。

産声を上げたミラージュが最初に直面したのは、著作権問題であった。編集者の想像を超え、アボリジニ コミュニティの新聞として当初から、NT 首都のダーウィンや南部の都市で関係者の注目を引くこととなる。1970年にかけ、しばしば曲説された寄稿者の政策批

判意見は、アボリジニ政策実施の現場の声として、担当政府機関の上層部や政治家に伝わる。寄稿者の多くが公務員であったため、誤解されて伝えられた内容により、職務上の問題へと発展する場合も生じた。この事態に対処するために、ダーウィンの有力紙 N.T. News のムディマー(D. Muddimer)の助言にしたがい (Vol.26:700403)、1970 年 7 月 24 日付の 42 号で、初めて著作権保有が明記される [4]。しかし、同時に南部との不要な政治的摩擦を避けるため、当座はできるかぎり公の新聞 (public paper) としてより、住民読者間の回覧紙 (private paper) 的な姿勢を保つ方針を採る (Vol.42:700742)。この消極的姿勢は、しかし 11 月に一変する。11 月 13 日付の 58 号は巻頭記事で、全ての号の著作権と転用の際の編集者許可制を明記し、外部圧力に屈しない公器としてのミラージュの立場を明らかにした。この結果、同年末には要請により国立国会図書館へ各号を送るまでとなった。もっとも国立図書館からの照会を受けた際、ミラージュ側は最高の読者が加わったと大喜びし、旧号もふくめ最新号を請求書とともに送るが、図書館側から「著作権作品を掲載する全ての出版物は法律で、コピーを国立図書館へ無料で送るように規定されている (違反の罰金は A$100)」との返答を受け、大いに落胆せざるをえなかった (Vol.65:710101)。その後 1971 年からはほぼ順調な発展を続け、アームストロングが編集者を辞任した 1972 年 12 月には、新たに NT 立法議会 (NT Legislative Council) の付属図書館も読者に加わり、ミラージュは NT において自他共に認める地元紙としての地位を確立してゆく。

成功と発展の原因としては、アームストロングの編集方針と、それに呼応して記事を寄稿していった読者の参加が挙げられる。彼自身牧師ではあったが、宗教色は最小限にとどめ (毎号の教会連絡欄の説話や、クリスマス等の特集記事等)、客観的立場から、さまざまな意見発表の場としてミラージュを提供した。こうして政府機関 (福祉部、森林局等)、住民組織 (MPA、ビレッジ評議会、父兄会等)、学校、診療所等からの定期的な連絡や関連記事の他、誕生死亡をふくむ個人情報をこまめに提供するとともに、広く人々の寄稿を求めた。白人のみならず、一部のアボリジニ住民からも寄せられた投稿記事のあるものは、料理、バードウォッチ、書評、釣情報といった定期コラムに発展し、紙面をいっそう充実させてゆく。内容の充実は、1972 年 5 月の「マニングリダの実情が知りたければミラージュを読め」といったビレッジ評議会委員の発言からもうかがえる (Vol.136:720512) [5]。さらに表－1 にみられるアームストロング時代のページ数平均の増加や、毎号ページ数の頻度分布も、この時期の安定した記事の寄稿と紙面の発展を示している。

アームストロングを継いだガレスピー (Dan Gillespie) の下、ミラージュは大きくその紙面内容を変えてゆく。彼は、自らの教師としての体験 [6]と、労働党支持者としての政治信条を編集方針に反映させる [7]。この結果、アボリジニ関連記事が、アームストロング時代に比べ 3 倍近く増加する (表－2)。この傾向は、1973 年後半に一時編集者が交代した間もふくめ、ミラージュが終了する 1974 年 10 月まで続く。また単なる増加にとまらず、ガレスピーは学校関係の記事について、代表的部族語のブララとの併用掲載を試みたりもしている (Vol.184:730504) [8]。さきにも挙げた創刊号の発刊目的の一文は、それに続いて「アボリジニと学校児童にも興味ある紙面を提供できるよう努力する」と結ばれているが、ガレスピーによる変容は、この部分を積極的に実現させたものといえる。しかし問題は、マニングリダのアボリジニはミラージュの読者層に成り得なかったという現実である [9]。

紙面を通じてアボリジニの政治・社会教育を実践しようとする彼の理念は、現実的にはミラージュのアボリジニ新聞化を招く。それに加え、時には、投稿されるアボリジニ自身の記事をどの程度文法的に訂正すべきか（あるいは否か）をめぐる問題が、編集者と当事者（アボリジニ作者と教師を中心とする校正援助者）間の論争として紙面の約 7 割近くを占めて展開されるなど（Vol.185:730511)、ミラージュがしばしば白人の一部特定グループ

表－1 各号別ページ数頻度

	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	平均ページ数	編集者
1969 1～14 号(14)	1	11	1	1												4.2	G. Armstrong
1970 15～64 号(50)		13	11	20	5	1										5.4	〃
1971 65～117 号(53)	1	9	13	24	5	1										5.5	〃
1972 118～166 号(49)		4	1	18	13	9	2	1								6.7	〃
1973 167～188 号(22)		7	3	8		4										5.7	D. Gillespie
1973 189～209 号(21)	1	5	3	2	2	3		1	2					1	1	7.3	J.Mirritji
1973 210～214 号(5)		5														4	J. Gardiner
1973 214～245 号(31)		8	3	8	2	4	3	1	1	1						6.4	D. Gillespie

注:Vol. 167 - 168 は実際は 1972 年の 12 月 15 日及び 29 日付

表－2 アボリジニ関係記事比率

年	号:日付	編集者	記事数比(%)	紙面比(%)
1969	Vol. 1 : 690912	G. Armstrong	20(2/10)	30
1970	Vol.35: 700605	〃	27(3/11)	15
1971	Vol.75: 710312	〃	16(2/12)	25
1972	Vol.150: 720818	〃	33(4/12)	20
1973	Vol.177: 730316	D. Gillespie	66(6/ 9)	60
1973	Vol.190: 730629	J.Mirritji	50(7/14)	50
1974	Vol.241: 740823	D. Gillespie	75(6/ 9)	75
1974	Vol.245: 741004	D. Gillespie	57(4/ 7)	75

注:アボリジニに関係する時事、政治、教育、文化、歴史等をふくむ題材で、自作、白人聞き取り、あるいは白人による記事

による文化論争の場となってゆく。こうした主観論争はそれなりに意義も認められるが、現実的にはアームストロングが提唱した「一体感」とは相反する、個人的中傷合戦による反目を生み出した（Vol.241:740823)。1973年後半、ミラージュは一段とアボリジニ化が進む。同年6月末、ガレスピーにかわりアボリジニのミリッジ（J. Mirriji）が編集者となり、12月末まで計21号（Vol.189:730622～Vol.209:731214）を発行する。彼もガレスピー同様の編集方針をとったが、この期間のページ数頻度分布の広がりからもうかがえる（表－1参照）基本的編集知識の決定的不足のため[10]、急速な質の低下を招き、「子どもの学校新聞並み」とまで酷評されるようになる（Vol.197:730817)。さらに、しばしば投稿をうながす編集者の要請がみられることからも明らかなごとく（Vol.195:730803, Vol.204:731019)、アボリジニ化によって、いわゆる一般白人居住者から成る大多数読者のミラージュ離れが決定的となる。アームストロング時代の紙面を飾った個人寄稿による定期コラムの消滅も、この流れを物語っている。

1973年の最終号から1974年の1月にかけ、暫定編集者として福祉部職員のガーディナー（J. Gardiner）が編集にあたり[11]、2月からは再度ガレスピーが復帰する。しかし、廃刊に至る最後の期間も、そのページ数頻度分布の広さが示唆するごとく（表－1参照)、読者離れによる衰退の流れをくい止めることはできず[12]、10月4日付Vol.245号をもってミラージュは終了するのである。

8.3 軌跡の背景

1960年代に入るとNTでは土地権をめぐり、アボリジニ自身の政治意識も高まってゆく。こうした流れのなか1960年代後半にはいると、アボリジニ・コミュニティは経済的自立を提案する一方、情報交換や連帯意識強化のため自らのメディアの必要性を痛感し、その実現をはかる。こうして創刊されていった地元紙の一つがミラージュであった[13]。そしてミラージュが1972年にかけて順調に発展する背景には、1970年から1974年前半まで続くマニングリダの経済ブームと、白人人口の増加があった。

オーストラリア社会における1960年代の公民権運動の高まりは、白人社会を主流とし、そこへ社会教育を通じて同化吸収してゆくという、戦後の政府アボリジニ政策に限界をもたらした。さらに1967年の国民投票の結果、政府は1968年から多文化主義的性格の強い統合政策を採用する。それまで同化のための教育と訓練の場となってきたリザーブに存在する政府セツルメントは、アボリジニの経済的自立を促す拠点としてとらえられ、さまざまなプロジェクトの計画・実施が奨励される。1970年7月にはこの流れを加速させるため、国有地法（Crown Land Ordinance）が改正され、リザーブ内のアボリジニ・プロジェクトへの土地借用が認められた。マニングリダにおいては、ハンターがMPAを活用して経済的自立を試みる。MPAは1970年3月に完成した新たな売店の支配人に、全国公募した経営専門家のバグショウ（Glen Bagshaw）を採用して高い利益を生み出し、1972年にかけてさまざまなプロジェクトの実施資金として還元してゆく。TA制度と結びついたプロジェクトは多くのアボリジニ雇用を生み出す一方、実質的運用のために白人専門家の参加が不可欠であった。1970年から拡大する政府の林業プロジェクト[14]や、1971年の監督官庁移管（NT行政庁、社会福祉局から連邦政府教育庁へ）にともなう学校整備も、多くの白人居住者を生み出した。このほかにも1970年のアーネムランド西部ナバレクのウラニウム鉱床発

見に続く、1971 年から 1972 年にかけてのマニングリダ周辺での探査のため、多くの探査関係者が滞在することとなった。この結果、それまで 50 人前後で推移していた白人人口は 1971 年から増加し、翌年にはほぼ 250 人達し、1974 年前半には 300 人[15]を越えた。マニングリダ開設以来一貫して流入を続け、1970 年には 1000 人[16]を越えたアボリジニ人口は、1972 年雨期明けとともに始まったアウトステーション運動により流出を始める。マニングリダの流動する人口構成のなか、ミラージュの発展を支えたのは、多彩な職業をふくむ、この白人読者層であった。

1972 年 12 月、23 年ぶりに政権復帰したウィットラム首相の労働党内閣は、統合政策に代わる自主決定政策を導入する。ほぼ同時に編集者となったガレスピーは、積極的にこの政策の啓蒙をアボリジニに対して行い、政治・教育的内容の重視と、アボリジニ化といわれる紙面の変化が起こる。ミラージュの変容は、教師であり労働党支持者であった彼の経歴によるところが大きいが、一方、政策変化にともなう土地権承認といった、いわばアボリジニ・コミュニティにとって重要な時事問題の増加により、政治色あるいはアボリジニ色の強い内容にならざるを得なかった、という社会情勢の変化も考慮する必要がある。

自主決定政策がマニングリダにもたらした最初の変化は、組織のアボリジニ化であった。政府機関はコミュニティの自治の前提から、ビレッジ評議会に権限を移譲し、白人職員はそれまでの管理者から助言者となる。住民組織も政府援助受領のため、役員は全てアボリジニが就任し、白人メンバーはやはり助言者としての参加に限定されてゆく。この結果、1973 年 4 月から 5 月にかけ、MPA、父兄会、MHA (Maningirda Housing Association) といった代表的住民組織のアボリジニ化が実施されてゆく。本来、読者からの購読料で運営されてきたミラージュは、改組の対象外であるはずだが、質的低下が十分予想されたであろうにもかかわらず、6 月にミリッジが編集者として就任した背景には、この一連のアボリジニ化が大きく影響していたことは否定できない。こうしてマニングリダにコミュニティとしての変化をもたらした自主決定政策は、1974 年にはその廃刊に結びつく決定的な影響を及ぼす。

ある意味で突然の主客転倒をもたらした自主決定政策は、アボリジニと政府行政機関両者にとって、当初大きな「とまどい」を生み、これが具体的政策実施にあたっての認識のズレとなってゆく。政府は、いわゆるインフラ整備を中心としたコミュニティ開発への積極的援助を行ってゆく。マニングリダにおいては、長年の住居問題不足解決のため、MHA に 100 万ドルの資金援助が認められ、その工事にともなう多くの白人関係者が滞在することとなる (Vol.210:740308) [17]。さらに増加が予想される白人住民の存在は、「初めてよそ者 (白人) に干渉されずに自分の土地の「ボス」になれた」というアボリジニの認識を大きく裏切る現実であった。しかもこれまで一貫して受け身の立場を押しつけられてきた彼らにとっては、アウトステーションへ流出する以外、自らこの現実を解決する手段を見出せず、特にマニングリダの地主部族のグナビジを中心に不満が高まってゆく。そしてこれが一気に爆発したのが、N. T. News (1974 年 7 月 11 日付) 紙に「マニングリダの反乱」[18]と報道された、1974 年 6 月末にウィットラム首相が訪問した際のアボリジニによる開発中止の直訴である [19] (Vol.235:740628)。この結果、開発計画は凍結されることとなった。さらにこの成功に勢いを得て、ビレッジ評議会は、森林局関係者の居住許可も取り消すのである (Vol.242:740830)。こうした一連の、ある意味で初めてアボリジニが主体的に自主

決定権を行使した行動は、新たな白人の流入を阻止したばかりでなく、1970年以降の経済ブームとともに増加を続けていったマニングリダの白人人口の大幅減少を招いた。ミラージュにとっての実質的読者層の消滅である。こうして1974年10月をもって、ミラージュの6年の歴史に終止符が打たれたのである。

注

1 全245号の他に、2回の補足号（Vol.28:700417の補足号及びVol.188:730608に続く1973年6月15日付の補足号）がある。

2 1967年3月6日のマニングリダ・ソーシャルクラブ委員会で選出され、1971年8月10日のMPA委員会でアボリジニのサイラス・ロバーツ（Silas Roberts）が選出されるまで会長を務める。（マニングリダ・ソーシャルクラブ議事録:p.54、MPA議事録:P.150）

3 1969年より、他の5ヶ所のリザーブ内アボリジニ・コミュニティと同様に、実験的に開始される。当初1日1人あたり2カンであったが、1970年には3カン、そして1973年には4カンとなる。そしてビールは常に飲酒にともなう問題を引き起こしてゆく。（Welfare Branch Annual Report 1969/70: p.8.、Vol.26:700403, Vol.48:700904, Vol.182:730420）

4 "Copy right is reserved on all material printed in this issue." (Vol.26: 700403)

5 政府援助に関連する調査団が次々とマニングリダを訪問するにもかかわらず、一向に資金援助が実現しないことに業を煮やしたリヤラ（J. Riyala）が、これ以上の調査団の派遣に反対して評議会でおこなった発言。(Vol.136:720512)

6 ガレスピーは、1969年末マニングリダに着任し、1972年まで教師を務める。1972年12月ミラージュ編集者に就任するとともに、1973年からMPAの工芸センターの責任者となる。(Vol.12:691212, Vol.161:721103)

7 彼は連邦下院選挙の際、強力にアボリジニ有権者に労働党支持を訴える。1972年には、Ted Robertson、1974年にはJohn Watersを推すが、いずれもSam Calderに敗れる。(Vol. 165: 721201, Vol.228: 740570)

8 ウィットラム首相は1972年12月14日、「アボリジニ コミュニティの小学校ではアボリジニ語による教育を行なう」との方針を明らかにし、この結果マニングリダでは1972年3月、ビレッジ評議会でブララ語の暫定的使用が決定される（Vol.172:730209)。なお該当記事は以下のとおり。

<u>STAY AWAY FROM SCHOOL!!</u> by J. Pascoe (T. O.)

During school holidays would all the parents make sure that the children are not allowed to be or rather hang around at the school during the day and evening. We know it is hard to tell our children but it is against the school law and therefore the children have to stay away from the school area. The children should now know the school law and obedient with this law concern. This may lead the children to a mischief and will be in trouble for not obeying. Your regards, (TRANSLATION: Gun-guna school holidays nyipidi ni pad nyinyipi nymambu muya adapa nyanyipu nuyu nyengke pada puduwu tellipa yedje gala pada apidi tikgidka pada apidini adengeadenge adapi ana-munya. Naypidpi marrggi gun-guna school law gunika

gunterte wengke wudu tellippa yedje pada adawu pada apidi tikgidga. Tellippa yedje pidippi marnggi adappi marnggi apdini pada apidi tikidga munypi nuinyipi nymambu nuyu adapi nyanyipi puduwu nyeni nyorkiyana wudu pudupi gala gupumanggini ngulu wengke apudu workiyane. Munyoi tellipa yedje apuduwente apuduni gunede jama apidiji pada, galapi trouble gupuma munypi nyanyupu pudwu adapi nymampu puduwu gala janguny gupuma-ngini nulu wudu guwu paypiti ada adapi guwupaypini apudu workiya ngulu wengke.)

9 ミラージュの言語である英語に関し、この時期の指導的立場にあるアボリジニはほとんど正規の教育を受けていない。また 1962 年から開設されたマニングリダの学校で教育をある程度以上受けたグループも、安定した読者となるには若すぎるのが現状であった。

10 この間一連番号の表記がしばしば変わり、しかも最終的には間違った番号となっている－Vol.209 のはずが Vol.217。また、客観的にみて、Vol.189, 190, 202, 203, 204, 208 の内容・構成は明らかに劣ると言わざるをえない。(Vol.189:730622, Vol.190:730629, Vol.202:731005, Vol.203:731012, Vol.204:731019, Vol.208:731130)

11 ミリッジが編集者の間、会計の責任者を務める。彼の定期コラム"For the Bird Watcher"は、アームストロングの下、長く紙面を飾る (Vol.40: 700710～Vol.162: 721110)。このコラムは、彼の暫定編集者の間に一度だけ一度だけ復活する。(Vol.212: 740118)

12 1974 年 2 月ガレスピーは再任にあたり編集会議を開き、多数のアボリジニの参加を期待したが、実際に参加したのは 1 名にすぎなかった。これは彼が目指したミラージュを通じてのアボリジニ教育が理想に終わったことを示している。(Vol.215: 740207, Vol.216:740215)

13 1967 年にはエルコの「Elcho News」が、そして 1970 年にはミリンギンビで「Crocodile Island News (BARU DHAKAL DHAWUMIRRI)」が創刊される。(Vol.21: 700227, Vol.140:720609)

14 1970 年 7 月 1 日からプロジェクトは ABTF (アボリジニ信託基金、Aboriginals Benefit Trust Fund) に対し借地料 (royalty) 支払いを開始し、10 月 23 日には年間 11,000m^3 の処理が可能な新たな製材所が操業を開始した。(Vol.45: 700814, Vol.55: 701023, Haynes: p.101)

15 経済ブームにより、この期間 (工事やプロジェクト実施状況により、実数は変動してゆくが) アボリジニ2 人に対し白人1 名、と言われるほどの増加となる。この結果、アボリジニにとっては、「果てしなくよそ者が流れ込んでくる」という状態となった。(Haynes: p.104)

16 1969 年から 1970 年にかけて 1000 名を越えた人口は NT 第 6 位の規模となる。(Bagshaw: p.18)

17 1974 年乾期の週末には、車の都合さえつけば、大部分のアボリジニが (150 人ほどを残し) 周辺キャンプ地へ移住したため、町中で彼らをほとんど見かけないといった状況も生じた。(Gillispie: p.5)

18 'TOO MANY BALANDAS' FACTS BEHIND MANINGRIDA'S 'REVOLT'のタイトルの下、J. Loizou による記事 (NT NEWS : 740711)

19 首相一行との会談ではアボリジニ代表の発言とともに、自らの長期にわたる駐在から彼らの不満の本質を理解し、その解決の必要性を認識していたハンター（1973年12月にマニングリダのコミュニティー・アドバイザーを辞任した後、1974年からはDAAのプロジェクト オフィサーを務めていた）と、MPA総支配人バグショウが、アボリジニの要望を的確に訴えてゆく。(Vol.235:730628)

参考文献

Bagshaw, Geoffrey

1977 *Analysis of Local Government in a Multi-clan country* (Honourus Degree Dissertation Dept. of Anthroplogy). The Univ. of Adelaide.

Gillispie, Dan

1982 John Hunter and Maningrida/ A chorus of alarm bells. In Loveday, P. (ed.) *Service delivery to Outstations.* Darwin: NARU, ANU.

Haynes, C. D.

1978 Land, Trees And Man. *Commonwealth Forestry Review* 59(2).

McKenzie, Maisie

1976 *Mission To Arnhem Land.* Adelaide: Rigby.

The Maningrida Mirage, 1969－1974

Welfare Branch Annual Report,.1969 / 70.

The Maningrida Social Club, Minutes, 1967.

The Maningrida Progress Association, Minutes, 1971.

N. T. News, 11th July 1974.

９．マニングリダ・ミラージュ　サンプル（第８章参照資料）

Vol. I (Vol. 1) September 12th, 1969

BORING FOR WATER by Basil White

During the past couple of months the Water Resources men have put down four bores. Two of these go down to a depth of 125' and give a good yield of water, the one nearest the settlement (on the way to the airstrip) is for observation only and a fourth is temporarily sealed with its future yet to be decided. The latest bores are better constructed than earlier ones in that they are cased all the way down and a 5" pump could operate if desired yielding 5-6000 galls an hour from each. The earlier bores from which our daytime supply is coming now have only one section of casing at the top and only be pumped by smaller pumps yielding approx. 3,000 galls between the two of them.

Basil explained that as the bores are near the sea there is a table of fresh water overlaying salt water. The observation bore nearest the sea for example registers a distinct rise & fall of water corresponding with tidal movement. If a bore was put down too deeply or if it was over-pumped it would be possible for salt water to penetrate into the good quality fresh water and spoil it for several months. If water can be pumped from 2 or more bores at a time, there should be adequate water to meet all Maningrida needs at least for the present and the danger of drawing salt water avoided. As the water consumption in the settlement grows, it is possible that more bores will be put down east of the first fire tower. The next port of call for the drillers is Bathurst Island.

TO MR. JOHN HUNTER

Along with the whole settlement we express our deepest sympathy to John in the loss of his father.

"MANINGRIDA MIRAGE"

A WORD FROM THE A/Supt.: I wish the paper well and hope that it will not only bring us information but help to build understanding among all who work for the welfare of the Aboriginal people.

FROM THE EDITOR: For some time the "Maningrida Mirage" has been on the drawing boards and was discussed at a Social Club meeting back in 1967. For various reasons it never got off the ground. Now it's in the air and we hope that it can move through its developing stages to become a useful contribution to Maningrida.

- AIM: Basically it aims to help develop the community spirit by bringing news and information about what is happening or likely to happen, both in Maningrida and the new rural settlements. Then looking beyond – to see our place in the development of Arnhemland generally. We hope to provide some pages of special interest to the Aboriginal people and also for the school children.
- TITLE: The title is under review. Can you think of a more appropriate title. William Armstrong is the roving reporter and the man to see.

The paper is being produced as a Progress Association Project. The first issue is free!!

WHAT IS HE DOING ?

Many may be wondering what Ted Evans has been doing in our mess over the past four or five weeks. Known to us for some time as the Chief Welfare Officer, Ted has now vacated that position and is owing a job known as "Project Officer."

His work however has nothing to do with potential economic undertakings or activities of that sort, although these may be incidentally involved in his enquiries. His duties are primarily concerned with the individual Aboriginal or group of Aboriginals in their personal aspirations and problems in fitting into the new environment and way of life. Where appropriate he will attempt to assess the effectiveness and realism of programs and projects, but is not as to report on the efficiency of staff in implementing such programmes. In all duties, Ted works direct to Mr. Giese. Jack Larcomb is now Chief Welfare Officer.

HERE AND THERE

- Maningridaites in Brisbane(Robyn Strong reporting): "Last Sunday we had a picnic lunch at the Lion Park and Zoo near Brisbane for the Maningrida children who are going to Sydney. Gilbert and Barney helped to feed the lions. On Monday night we saw Gilbert and Barney feeding the lions on T.V..
- Jenny (Tuite) in Brisbane: Last reported to be shivering.
- IN THE CRAFT ROOM: There stands four carved men 4'6" in height. One is a bald headed man. The maker is Jack Wunawun & Co. They are worth seeing and the four can be yours for $200.
- SILAS IN SINGAPORE: During the past five weeks Silas has been living Trinity College in Singapore with 60 or so Asian Church leaders. The aim has been to find ways and means of expressing the Christian faith and forms of worship in distinctive Asian (and Aboriginal) forms. A couple of weekends ago he wrote to Rosie saying that he and Wununuj (our almost M.P. for Arnhemland) went up to

Kuala Lumpur. Silas is expected home early next week.

- A LITERARY VISITOR: When the sky van dropped out of the sky at mid-day on Wednesday it carried Colin Simpson the well known Australian author of "Adam in ochre" etc. He is looking for material for a new book.
- A telegram from Dennis Strand: "will not be back for at least a month."

OVERLAND FROM BULMAN

This week senior officers of the Welfare Branch will travel from Mainoru to Maningrida, using the track blazed by Maningrida road-makers in 1968. John Hunter and Ted Evans with Michael Brown left to rendezvous with the Director, Les Penhall, and a pastoral consultant Colonel Lionel Rose a former Director of Animal Industry of the N.T. at Mainoru. The main purpose of the trip is to give the party and in particular Col. Rose, the opportunity to make more valid assessment of the pastoral potential of that part of the Reserve to our South and East. Mr. Rose has already made an extensive aerial survey of the area. An interesting side-light for the party will be inspection of cave paintings and other places of traditional significance and which are at present being studied by Eric Brandl and the Czech scientists.

ADVT.

- Housewives, why fret and fume over hot wood stoves. Buy your evening meal at Maningrida's roadhouse - THE HASTY TASTY.
- The Maningrida Coop. - an excellent selection of girl's dresses. Just unpacked-good quality and give away prices. See them in our House of Fashion. Do you like strawberries. Of course you do. Then don't wait. Buy Donald Cook's strawberries, raspberries etc. today.

INTRODUCING EDNA By Alison TX.

St. Helen's, an industrial town in the North of England, the home of Pilkington Glass company (world wide) is also the home of Edna Galliver one of the newest additions to Maningrida. In England she spent much of recreation rock climbing and camping (under slightly different condition to camping here) in the Lake District and Wales. One of her most tempting ambitions was to come to Australia. This desire finally became a reality in December 1967 when she embarked for Australia. Edna arrived in Sydney (by plane) and them traveled through Melbourne to Adelaide. Australia was much as she had visualized - a golden country with a more casual way of life than in

England.

She lived in the seaside suburb of Glenelg for some months until she took up volunteer work with the Aborigines in Alice Springs. She did occupational therapy at the Hospital there, also work with a group of 4 - 18 year olds at Amoongoona Settlement, at St. Mary's Mission and at Hermansburg. This volunteer work continued as long as finances allowed, then Edna moved to Darwin where she joined the Welfare Branch. A few days were spent at Bagot, while waiting to come to Maningrida as Home Management Instructress. This position entails teaching the Aborigines how to run a home, personal hygiene and budgeting – with a variety of odds and ends tagged on. This is very satisfying work and we are sure that Edna will continue to enjoy it.

I REMEMBER THE EARLY DAYS OF MANINGRIDA by Jimmy Gulerawuna

I was born in 1939, at Cape Don where my parents were staying. Later they returned to Cape Stewart and my father died there. When I got older I left my mother and went to Darwin with Jacky Ungulbu in 1950. I went to school. I learned to read and write. I was cared for by Welfare and I was learning the European way of living.

All the time I was a lonely man, and I left Darwin and went back to see my mother at Milingimbi. I stayed there for one year, and then Tommy Wadaminya came to me and said "Jimmy, will you come with me to Darwin?" I said 'Yes, when will we leave?" Tommy said "Tomorrow morning." That day we left Blyth River. We started to walk to Darwin. When we came to cross the Maningrida Creek there was somebody. When I walked over to see, there was a Welfare man. His name was Mr. Drysdale. I used to know him before. I said to Tommy "He is a Welfare man." We were happy that we had met a man from Darwin. Also there were Djulbu, Michael Munbulmare, Allan Markiana, 8 men altogether. Mr. Drysdale was Superintendent. He said to me "Jimmy, I want you to help my missus. Will you?" I said. "Yes, I will." He said "Can you help with work in the hospital?" But it was very hard for me when I started to work at the hospital. I was also teaching the strange people. But it was very very hard to teach in 1959-61. Then I left the hospital at Maningrida and went away to Darwin where I worked with the Army for 12 months. Later I returned to Maningrida, and was working at the hospital in the period 1964-65. Then followed another period in Darwin this time with the Navy. In 1968, I was sent to Maningrida and have been working in the Hospital ever since.

"SCOUTS AND CUBS"

The troupe is expanding rapidly this year and now contains a Senior Scout group under the direction of "Skip" Wilders; a Scout group under the guidance of Gowan Armstrong; and a Cub Group led by Ray Buzza.

- SENIORS: Skip and his boys have done an excellent job on the scout hall which is a credit to them all and an enormous asset to Maningrida. The hall will be officially opened at the end of the month and all are welcome to view a very entertaining day. The boys left this week on a tour of the Territory and a visit to Mt. Isa, details of which will be given on their return.
- SCOUTS: The Scouts have had a number of outings this year. One to Rocky Point which was quite exciting for the boys as the truck broke down near the Naval Landing turnoff and so the boys felt sure they would miss school the next day. However S.M. Armstrong qualified for his hikers badge and Barney won some blistered toes when they "tippy-toed" back to Maningrida. During the school holidays several boys attended a Jamborette in Darwin and made many friends. Congratulations to Tommy and his boys for not loosing any scouts.
- CUBS: There are over thirty members in the cubs this year and I am sure the people in the welfare houses think there is 100 when the boys start howling and yelling around the park. The boys have several outings and proved they are good swimmers and eaters, their cooking ability is not so good and they have lots of trouble keeping the skin on their sausages. Nevertheless, they are very keen and all try hard to do their best and a good turn each day. For example at one picnic a voice was heard to say, "Hey dubbo that's my sausage you just ate." "Don't worry friend I did you a good turn. You might have got a tummy ache you know."

BASKETBALL

The Northern Territories School Boys team recently returned from Perth, where they were unsuccessful in the competition, but in which Jim-Jam played very well.

A meeting for interested Basketball players will be held in Mr. McInarney's room at 7pm on Tuesday September 16th, 1969. J. M.

Vol. XXXV (Vol. 35) June 5th, 1970

THE CHALKIES ARE COMING!

Three aeroplanes will zoom in next Wednesday with 50 S.A. teachers, who teach Aboriginal children mostly in N. T. schools along with four professors and Mr. Giese. They are attending a course in Darwin on the Education of Aboriginal children. Among the lecturers will be Mr. Strand. He will present a paper. (the "N.T. News" tells us.)

FORESTRY NEWS

THOSE BLASTING NOISES AT THE SAW MILL: All the saw dust & waste material from the mill is to be burnt in a covered steel box-like incinerator set about 40' high off the ground which eliminates any danger from fires. Fairly substantial foundations are needed for the framework to hold this firebox. Blasting we hear in the late afternoons is part of foundation building operation.

ROAD MAKING: Forestry's Project for the Dry Season of 1970 is the opening up of the area marked D on the map. At present the big bulldozer is working up towards Tu-Kaladorna from Brady's bridge (across the Upper Cadell) making the Shotgun Straight Road a chain wide. Once the whole of the perimeter of 'D' area is completed a number of roads will be made subdivide it into workable areas. A second bulldozer will arrive from Melville Is. within 2 or 3 weeks to assist in this work. It is fitted with rippers as well as a blade. The road-markers have camp near a big bilabong on the Cadell. Brady's Bridge, built by Allan Brady last year, is built to carry up to 50t loads.

FIRE BREAKS: A team of men have been burning off the dry grass around Maningrida in the last few days, continued this work down past sawmill beach & Barney's Jungle to the Tomkinson. Then, they are going along the Tomkinson Flats, south-east ward. The greatest destroyer of good Cypress timber (& future buildings) is uncontrolled fire.

SNAKE – BEWARE: Around Dan Pollard's house and tracks near the old fowl yard.

"THE MANINGRIDA CONCIL" MEETING (11 Councillors present)

- The preparations for Open Day are coming along quite well.
- Jim Olsen claimed that he had been wrongfully accused of having grog on Friday

night last. He was supported by Billy Yiliyin.

- Charlie Mulumbuk wanted to know why the council had not supported him when he was attacked by Charlie Marabinyin last Saturday night. The President said that the matter was personal issue and the two men had to resolve it themselves.
- Cr. Jack Riala said that the old people would never change their ways and that young people would never get a fair go. The young people wanted to change but were reluctant to force the issue. Cr. Jim Madama suggested that the council hold public meeting to bring all parties together. There was a long and inconclusive discussion of the merits of change. Big Barney said that he had seen the light and would abide by the new law in future. Jim Madama said that young people were dissatisfied with the Council because it did not support them. The most prominent issue was marriage. The young men had no chance to get a wife because they were always blocked by the elder. It was that the young people might have to force some relaxation of tribal law. ("The meeting closed at 9.30pm)

STAR THEATER

Fri: " Smokey" with Fess Parker- story about man who tames girls and horses in that order. Plus serial & cartoon.

Sat: "Do not disturb"- Doris Day and Rod Taylor display their sickening bad taste in cinemascope and colour. Plus short.

DANCING

There will be Aboriginal dancing at this year's Esiteddfod and Maningrida best dancers will be chosen on Open Day. It is the ballet etc by Europeans which will not be seen at this years Eisteddfod.

EXAMINATION: Mr. Craven did last Sat for permanent public servants position.

BIRTH: PAUL, son of Nellie Nanjiala and Michael Nulabiya on June 1st

THE ARAFURA "C"

FREIGHT CHARGES: No one in the top end will be overjoyed at the announcement by the Minister for Shipping/Transport that a 12.5% freight rise in all goods into Darwin will be effective as from next month. Indeed the only good thing about it is that the rise was anticipated in some quarters as likely to be even steeper. As all foodstuffs except fruit, vegetables & some meat are imported from the south per ship for Darwin &

territory market, we all pay more for our cost of living. It is too early to measure the full impact on the price structure. Certainly we would hope to absorb much of the rise.

CONGRATULATIONS: to our athletes Tommy & Willy on their selection for the team to compete shortly in Darwin. The store is a good training track especially on pay-days.

GOOD QUALITY: fruit & fish will highlight this pay-weekend's selling, our boys caught 450lbs in 1 night this week, fish are bulging out of the fridge doors. Good quality bananas, oranges, mandarines, apples & pears are readily available. For that in-between snack buy & try our special milk biscuits they are better for you and at 1c each are good value. Remember the biscuit with the hole in the middle. G. Bagshaw

MORE VIEWS ON "WHERE THE MONEY COMES FROM"

A topic of current interest at Maningrida is the recent increase in the flow of finance into the new Co-operative Store since the doors were opened in March.

Primarily I was surprised to know that the increase was so sharp as I would have expected the inflow to be somewhat pruned back, especially after knowing that the Welfare wages bill had decreased by over $2,000 per fortnight since early April. This resulted from the transfer of 15 men on the highest categories of the Welfare Training Allowances to Forestry (and to Industrial Awards). Another factor is the termination of about 20 men who now living elsewhere or fishing etc. A further look into the matter brought some interesting information to light.

It appears the Aboriginals are now buying more basic food items from the Co-operative which could be proved by the fact that the takings at the dining room have diminished by approx. 50% over the past few months. Items such as fish from the aboriginal fishing venture and fresh vegetables from the Cadell River garden are available. This is indeed an important point. The sales of local fish in particular have reduced local demand for items such as meats, chicken and imported frozen fish and I understand it is many weeks since these items have been ordered. It is also relevant to note that imported meats must be regarded as slower sellers while fish has as rapid turnover. The McArthur River meat people may unhappily agree with this.

Clothing and hardware sales are also on the increase which is probably due to the fact that a customer may now walk into the shop and view what is for sale. It is well remembered that in the old store it was not really ever known what was out "the back". What one cannot see, one is not likely to inquire about. No doubt less mail orders are being sent to Darwin or Southern states. Items such as bikes, films, cameras, record players, records and radios help to increase the kitty. The increase of European

purchases, and more staff on the settlement particularly with Forestry, would also account for the capital inflow. The increase in Forestry Aboriginal wages would be largely balanced by the Welfare decrease, I think.

Finally the business has responded to the efforts of Mr. & Mrs. Bagshaw who have not only given every ounce of energy, but whose past experience in this field of business has opened up a way for prosperity. They are not only in knowing what customers want but also they have been able to successfully train their staff to the Co-operative's advantage.

Robert Eggers

FROM THE NEWSPAPERS

ELECTION RESULTS: Two state elections and one Federal by-election were held last weekend in the south. In Victoria the Liberal Party will have its 6th consecutive term of office in spite of a small swing in votes and seats towards the Labour Party. It appears that the L.P. likely to have a majority of at least 5. The Labour vote improved by 3.5% mainly at the expense of the Country Party down more than 2% and the Liberals down 1%. In South Australia the A.L.P opposition defeated the L.C.L. Government to take office with a majority of eight. A.L.P. gained 53% of the vote which is much the same as the 1968 election results. However the Government had carried out a reform increasing the number of seats and improving urban representation and this helped to give A.L.P. its comfortable majority. The by-election in the A.C.T. appears to be a victory for A.L.P. however its 36% of the votes counted was the smallest proportion ever received there.

DISASTER IN PERU: It is believed that 35,000 people have been killed in a devastating earthquake in Peru on Sunday. Two large towns with a total population of 80,000 have been swept away by a mountain of water from a lake in the Andes Mountains. Towns and cities have been leveled by the earthquake and destruction in many towns and villages is described as "total".

LIBERALS REVOLT: A revolt by government MPs has forced the Government to defer and possibly to reconsider its plan to provide a civilian alternative to jail terms for National Service dissenters. Last week Cabinet agreed to a plan to allow dissenters to serve their two years National Service term in labouring and other unskilled jobs under Government supervision. Six MPs, including the member for the N.T. Mr. S. Calder, spoke against the proposal and one MP suggested that the alternative should be three years hard labour.

TEENAGE VOTE?: A bill giving 18 year olds the right to marry & vote was introduced

in Federal Parliament this week. The Opposition Leader, Mr. Whitlam, gave notice of the bill during general business. He explained why he thought 18 olds should have the right to marry and vote. The bill will be listed for debate at the earliest possible date.

SPORTS NEWS: Johnny Famechon, 25, former world featherweight boxing champion has retired from boxing. He won the title in January last year in London, defended it twice against Japans Fighting Harada before losing it last month to Saldivar of Mexico. New Zealand motor racing driver Bruce McLaren was killed in England this week. He was believed to have been travelling at about 180mph when his car hit a bank and exploded. Defending champions England on Wednesday defeated Rumania 1 – O in its opening game of the World Cup being played in Mexico.

SCOUTS AND GUIDES

On Monday night six Scouts who were received from the Cubs earlier this year will put on their new uniforms and will be initiated. The Goose Patrol camped out at Navy Landing last weekend. None were shot down and all returned home safely having thoroughly enjoyed their weekend. The Owl Patrol will camp out at Rocky Point this weekend. On Open Day it is hoped that Mrs. Schmidt, Guide Commissioner, from Darwin will visit Maningrida to enroll the 50 Girl Guides who having passed their Tenderfoot Test are ready to be made members of the Girl Guide Association. An Enrollment Ceremony will be held at the Scout Hall on the Monday Morning where the girl will make their promise to the Commissioner and be presented with their badge of membership. For the first time the girls will wear full Guide Uniform. Plans are being made for the Guides, Scouts and Cubs to join in a united campfire singing celebration on the Monday evening.

PEOPLE

- Mr. Owen Pitkin, the senior internal auditor, has been inspecting the books and moneys in the office during the past week.
- Mr. Denis Schapel (Art teacher at Maningrida in 1968) wrote this week that he is a married man now (wife Geraldine) living in Adelaide and teaching. He expects to be back in Darwin in October in his old job as Specialist Teacher (art). He sends his regards to Maningrida people he used to know.
- Miss Edna Galliver: "She's a lassie from Lancashire. She's a lassie we love dear. None could be rarer, None could be fairer, than she" Next Tuesday Miss Edna Galliver will leave the stoves and sewing machines in Home Management for a three months holiday overseas. BOAC will put her down in Lebanon for about four

days – if those people aren't shooting each other at that time. Damascus, Tyre, Lebanon, ancient cities that date back to the dreamtime will be some places she hopes to see and has always wanted to see. Then home to Lancashire and should we hear the song "I'll climb every Mountain" drifting across the air we'll know that Edna is in the Lake country climbing mountains, losing some weight. She hopes to visit Edinburgh for the Commonwealth Games in about a month's time and then into Wales to haunt some of those little Welsh Villages(Villagers?).

- Miss Alison TeiXeira: Will marry a man she met on the trip across to England. He's Irish, but not from the stormy north.
- Miss Robyn Strong: is engaged to Mr. John Stevens. Our congratulations to them.

WEEKEND STAFF

Duty Officer: Mr. Edy Carey

Duty Sister: Sister Maija Lehtonen

CHURCH SERVICES

Sun: 9.30am Sunday School, "Man's Faith" 7.30pm Evening Service

GOSPEL TO ARNHEMLAND: Last Sunday, the coming of the Gospel to Arnhemland was recalled in Arnhemland Churches. In the Maningrida service, Mr. Silas Roberts recalled that his grandfather was one of the Roper River people who saw the first missionary arrive there. At Maningrida it had generally been assumed that the Rev. Lazarus Lamilami was the first person to conduct a service in this area in the late 1940's. However Mr. Gordon Sweeny's patrol report in the dry season of 1939 records the following; "July 22nd – traversed Gunbatgarri Creek (tributary of the Tompkinson). July 23rd – 72 people at the camp. I held a short service in the morning showing them Mission pictures in which people of their own colour were included – using a Gunwinggu interpreter. We left in the afternoon and camped at Nanja. July 31st – (after travelling up the Liverpool River and then coming back to a camping place. "just above the tidal head") There were about 70 people at the camp. Gungoragore, Maralidbans (probably some of our well know Gunwinggu people) in the morning I held a short service using a Gunwinggu interpreter..." Gordon Sweeny was then on the staff at Goulburn Island, he now lives in Adelaide.

BAPTISM: Karen Enniss daughter of Mr. and Mrs. Kevin Enniss. The Service was performed by Father Corry on Thursday afternoon June 3rd.

BARBEQUE

After the pictures on Saturday night there will be a Barbeque in the gardens of Messrs. James McInery and Allen Grieve to wish 'bon voyage' to Edna. Everyone is welcome, bring your own tucker.

DANGER – FROM FLYING-FOXES

This year there seem to be an unusually large number of flying foxes about. Bill Armstrong says that when he comes to the kitchen at 5am in the mornings, they often drop out of the trees and fly perilously low over his defenseless head. Sometimes he feels 'almost finished up'. Jimmy Gulerawuna, shot about 26 with two shots near Gudjerama yesterday.

Vol. 75 Friday, 12th March, 1971

TRAGEDY AT DAM-DAM YESTERDAY

A group of men from Maningrida working out on the road near Dam Dam, approx 15 miles South of Maningrida on the Bulman Road, brought news that the body of Stanley Galwarri, husband of Lena Aliyuna, had been found dead in his camp. He had been killed by a shotgun. He was with Mandarrg's family, who had only recently moved from Nowalippiya to Dam Dam. This is the third tragedy in Arnhemland within two weeks. We feel for Lena, her son Timothy James, and all the close relatives.

"THE MANINGRIDA COUNCIL"-MINUTES OF MEETING ON 8/3/71 AT 5.30pm

PRESENT: 17 Councillors and 8 visitors discussed following Business.

MINING MEETING: The outcome of the mining meeting held at Maningrida last Thursday was outlined again for the information of Councillors.

FISHIG: Mr. John Carpenter, Fisheries Extension Officer, addressed Councillors on the function of the Fisheries Project at Maningrida. "There was good fishing potential in the Maningrida area, and this would mean a good income for fishermen. At the present time mostly Government boats were involved, but the people would soon have to start selling fish outside Maningrida. There were probably a lot of places where fish could be sold. Unfortunately the Government was not allowed to sell fish, so the first thing to do would be to set up a "Fishermen's Association" to sell fish (and support fishermen). There were plenty of different jobs in the fishing industry, not only just fishing. Basic processing facilities were existing. Two private fishing groups were being helped already and it would be possible to keep 10 or 15 such units going. Interested people should come and talk to the Fisheries Extension Officer. It was necessary to have a license to go fishing. Besides being a statutory requirement there were benefits to the fisherman (tax exemptions on equipment, etc.). Talks had already been held at the settlement with the Superintendent and the Progress Association, and something needed to be started off pretty soon. An Association would be like a club; it would need a committee to act for the members. Not all of the latter would need to be fishermen, but would need to be connected up with the industry. There had also been talks with Mr. Giese and Mr. Hart. They were interested in the idea. Each private fishing unit would need to be self-supporting. If Government help were combined with hard work, then there would be every chance of success. Once the project was started it was very

important to keep going. Most likely hard workers could make good money, better than a Government job. Money management was very necessary. The Association would help with this so that each boat had to pay its own way; all fishing businesses were like this. It was very important to understand that all costs must be paid for out of boat earnings. If there was any surplus then that would be a bonus for the owners. Women could be employed in the likes of oyster and cockle gathering, processing and net mending. There was also work for skilled men, carpenters, mechanics and the like. All this would mean extra money coming in to Maningrida, not just Government money. It is possible though for fishermen to borrow money from the Government, but they must be able to show that they can put it to the right use. An Association could also help in this regard." Councillors expressed keen interest in the ideas put forward by Mr. Carpenter and thanked him for coming along.

NEW MEMBER: Council called for Peter Maralwang Snr. to join as a member. He was a Senior man in the Gunwinggu tribe and could help the Gunwinggus, especially the young people. The invitation was accepted and took his place at the Council table.

TROUBLES: The President again asked Councillors to be open with him in the expression of opinions about his recent troubles. Were they still prepared to follow him? No one indicated to the contrary.

DUTIES: CLUB ROSTER - John Nyapul Wilson, Jack Riala, and Toby Oln. NIGHT WATCHMAN - Michael Nalabiya TICKET SUPERVISORS - (Mon/Sat) J. Hunter, (Tues/Fri) J. Mussig, (Wed/Thurs) J. Phemister. The meeting closed at 7.15pm.

MORE SNAKE STORIES

The Black and white banded snake found last week, has scales on the top of his head which are different from the Bandy Bandy. So it is another kind of snake. Yesterday a four foot eight inch browny black gentleman was caught near Miss Pullen's house. He did not want to leave the area, so maybe he has a wife there. This was a "spotted headed snake", and dangerous too. Joseph Mangudja says that there is a dreaming place for a black snake only about 50 yards west of the bridge along the creek between the Gunwinggu camp and the Forestry workshops.

ART & CRAFTS

Back in the 1963/64/65 years it was often a struggle to find the necessary money to pay bark painters and the women making mats etc. while customers paid their bills.

Over the years the fund of capital gradually built up. Round about October of last year the Arts & Crafts had a bank balance of just on $3,000. At present that balance has all gone and we have had to borrow money from the Progress Association.

Has someone "got at" the money? Yes, hordes of people coming in with bark, baskets, carvings, spears. During January/February almost $5,000 was paid out to people. Never before has so much craft work been done. It is usual for a lot of people to paint and make things during the wet, and then as the dry season comes on with good hunting in the bush and ceremonies here and there, that the pace slackens.

Opportunities to sell also increase as the year goes on. Just recently 2 customers, visitors to Maningrida, bought $800 worth between them. The only item we feel some concern about is baskets. For some reason they seem to be moving slowly. So now is the time to buy if you need one – they make good presents for mothers on Mothers Day.

The Rigby Gallery in Adelaide is putting on another exhibition of Maningrida paintings in May and some very good barks have been sent away for this.

TO M.P.A. MEMBERS

We remind everyone of the 50c annual subscription to the Association. It is a matter of some urgency. The Register is now open with the following subscriptions: H. Miller, & G. Bagshaw. It's a case of another 300 or Ginyargqra (No more Progress Association).

HYGIENE – SEPTIC TANK CLEAN-UP

At present, the hygiene men are working on the main septic tank near the sewerage outlet into the sea. They have to clean out about 7 feet of sand. Over the years, people have dropped all kinds of things into toilets, underpants, cans, biros, toothbrushes, a hair broom etc. Once Bill Armstrong pulled out a full train set, engine, carriages, the lot. As Brolga Bill says now, "You name it, it's in there!" When these things go into the pipeline, the men often have to make a hole to remove the blockage. Then sand seeps in wherever the holes are. Bill thinks that so long as parents do not control their children hygiene will have real problems. Further more; 1) Both adults and children often squat down anywhere instead of using the toilets. 2) The showers in the bathrooms have been broken by people swinging from them. 3) Iron and cement used to cover drains outside of bathrooms have been broken by pointed sticks. Although the lot of the hygiene men is pretty rough, it's good to see the men climbing onto a utility with their equipment and their ex-sailor leader calling: "Come on, men ... follow me to glory!!"

FROM FAR AWAY

On Monday Gislinde and Oliver returned to Maningrida after 10 weeks in Germany, looking fit and well, but without that tanned, sunburned look. The temperature was between 40/45F when they arrived in Europe. Naturally, Lindi was pleased to see the members of her family, particularly her mother who had spent quite a time in hospital. But the Old World of Europe was not quite the same as the open spaces of Australia. "Life here is more free, people are friendly, even in Sydney." She is glad to be back.

MANINGRIDA PEOPLE SEEN IN DARWIN by D. G.

- Jeannie Gadambua who recently had a son, Jeannies, looks very healthy and hasn't lost any weight. Her young son is a bit sick.
- David Gulpilil, now at Maningrida, dropped a 44 gallon drum on his finger at Bulman and was flown into Darwin by charter plane.
- Joshua looks very happy and healthy. He is working for the Council repairing the roads. He earns $100 an fortnight – he said he only spent a little bit on beer. Joshua said he would come to Maningrida for holidays.
- Beryl, sister of Rose at school is very sick. She has meningitis. Beryl seems pretty sad and doesn't talk much. She has just got herself a new pipe and some tobacco.
- Tim Darcy and Mickey seem happy and have settled in well in Darwin. They are a bit homesick but not as much as the desert people as they have been away from home before. At the Baptist Hostel have many friends from Milingimbi & Yirrkala.

NOTICED IN THE "DHAWIMIRRI" (Milingimbi paper)

- Ngangalala is coming into it's own these days. Their football team defeated Milingimbi 13-18 to 9-10.
- The Editor has been studying the rainfall records and finds that over 45 years the average is 44.08". The driest year was 1952 when only 17.24" fell; the next lowest was 1951 with 17.85". Water must have been very scarce indeed by the end of '52!!

BASKETBALL NEWS

DRAW WEEK 4: Tuesday 16th, Cape Stewart v Cadell River at 7pm, and Dalophins v Eagles at 8pm. On Thursday 18th, Arnhemland v Blyth River at 7pm, and Entrance Island v Chalkies at 8pm.

GAME REPORT: On Tuesday, in a high scoring game Cape Stewart 76 defeated Dolphins 52. Dolphins did not have an answer to C Stewart's ball handling and fast

breaks. Chalkies were defeated by Blyth in a game that got slower as the time drew on, 38/20. On Thursday night, Cadell defeated Eagles 32/18 in a slow game. Cadell did not show their usual dash, and a few shots went astray. Entrance Is held off Arnhemland for a while, but the Arnhemlanders proved too strong, defeated Entrance Is. 41/24.

FROM CANBERRA - NEW PREMIER

At a meeting on Wed the members of the Liberal Party voted against Mr. Gorton as the leader, replaced him with Mr. McMahon. He is now the Prime Minister of Australia.

PARENTS & FRIENDS ASSOC: Meeting at school on next Wednesday at 7pm

WEEKEND STAFF

Duty Officer: Mr. Ed. Carey Duty Sister: Sister Helen Miller

Night Watchman: Mr. Michael Ngulabuja

STAR THEATRE

Fri: "Saddle the Wind", might be cowboy story?

Sat: "Hotel Paradise", might be cheeky one!

CHURCH NOTICES (Third Sunday in Lent)

Sun 9.30am Sunday Schools, "The strength of the Lord, fulfilling people's needs"

7.30pm Holy Communion

"Jesus had a word to say-Hallelujah, You can live your life today-Hallelujah, You can do it what do you say-Hallelujah." (To the tune of "Michael, row your boat ashore")

RAINFALL: Fri 27pts, Sat 39, Sun 39, Mon nil, Tue nil, Wed 66, and Thu 2.

PEOPLE

- Today Mr. Bert Ryan is celebrating both his birthday and his arrival at

Maningrida one year ago.

- Last Thursday saw a massive airlift of people to Milingimbi. There were almost too many passengers to be counted. Stephen Marraru and Bunguwuy and their families returned. Robert and Mary Mitchell, Jimmy Cooper, Minnie Manbal and others went across for the funeral of Mary's brother.
- Mr. Jim McInerney who returned to school on arriving back from Darwin hospital, still wasn't feeling too well, and decided to resign. He intends to travel to Adelaide, have another medical check and perhaps take up work in the electrical field. Jim took an active interest in the old Maningrida Co-op. and the store. He was also active in organizing the basketball competition last year. We wish him well for the future.
- Some old hands seen about town. Lex Mannix under a bright orange cap, and Slim Woodcock looking in the pink of health. Slim is on his way to Bulman for a week to repair various engines there. Lex is accompanying Mr. D. Doyle who is employed by the Aboriginal fishing company at Umbakumba and who is gathering ideas.
- Sister Edith Tilley who was very sick before Christmas, had a sudden return of the sickness this week. She went into Darwin hospital on the medical plane.
- Mr. Dan Gillespie after interesting experiences in Darwin Hospital and some good medical advice, returned home on Wednesday.

Vol. 150 18th August, 1972

IN THE FIELD WITH THE MINING MEN Brian Purdie

The present field camp is located on a pleasant billabong 8 eight miles off the Bulman road from a turnoff 2 miles north of Hunter's crossing. It is the same campsite that was used last year but the three new tents like the one that was erected near the single quarters make living conditions more comfortable. The area where most of the survey work is being done is inaccessible by vehicle so that part of this year's equipment consists of five packs a very unwelcome sight for those that have to carry them. The out-camps are carried out in these packs. Maningrida people, Crowfoot, Stephen and Willie have been maintaining a shuttle service keeping these camps supplied. Packs are evidently not a familiar sight in Arnhem Land as one hiker puzzled by the fact that things kept falling out of his pack finally found that he had it one upside down.

Meanwhile Roger with the assistance of Willie, Crowfoot and Stephen when they are free from supplying the outcamps, has finally completed re-opening the road down to the big bend of the Mann River. The location of this track has eluded several earlier explorers so far this year. The main field camp is now being shifted down to this area. A separate field camp is maintained north of Oenpelli but there is a considerable interchange of people & equipment with the Maningrida camps. Most of the people now at Oenpelli will be seen here at some time during the season, as Maningrida is the headquarters for all Arnhem Land operations. Local aboriginals are employed for all jobs that do not require technical qualifications & experience. In early stages of mineral exploration the work is quite complex, requires skilled & experienced staff. In the time available it is not possible to train aboriginal people for this technical work. It's possible to train them for support services which form a very important part of any project.

IT WORKS !!

Many thought it could not be done. Phil reckoned it could & it has been done! The Fisheries freezer pulses again. The temperature in the snap freezer is -15F. The holding freezer temp is on 25F. Icemaking is the next project. Congratulations to Phil Green.

WOMEN'S BASKETBALL

Four teams are again matched for another season. However The season proper won't start until next term due to many bodies in Darwin and "in the bush". The for teams that have emerged bear the names; Flamingo (Capt. Daisy), Entrance Island (Capt.

Laurie), Peacock (Capt. Betty W.), Alligators (Capt. Margaret G.). Last Monday we had a social game between basically Flamingo and Entrance Is people. Next week: Flamingo v Entrance Is, and Peacock v Alligators. Umpires: Fred Luff and Jacky Pascoe. Officials are Pauline, Val Purdy, Andy, and Tom Wudjal.

ON A PEARLING LUGGER

After living in Darwin for some time without work, I got a job with some Japanese men on a pearling lugger. We rose early one morning and sailed along with 51 other Japanese boats for Croker Island. Two others were with me · they were Dick Djululi and Jimmy Burinyila. After travelling for a while, we decided that the job of diving for pearl shells was too hard for us, so we asked to be put ashore. They dropped us on the mainland at Cape Don about half way to Crocker Is. where the lighthouse was floating. After the Japanese men had dropped us ashore they sailed off and left us to make our way south to a timber camp we knew of called Ngiyngbalmu.

It took some time to reach the camp where some of our relatives were living. We had no food, water, swags, spear, woomera, gun or even billycan. All we carried was a record player, five records, a tin of tobacco and matches. When we arrived at a salt water creek it was getting dark, so we made a camp for the night. As night fell Dick was playing the records, and he wouldn't stop. He kept playing them nearly all night, until Jimmy became very angry and wanted to fight Dick. However, I stopped this by telling them that I would leave them if they didn't stop fighting. Next morning, we set off again for the timber camp, without any breaking, or even a drink of water, but we soon came to a creek of fresh water. There Jimmy and Dick saw a small crocodile lying in the creek, and they wanted to kill it for food but the crocodile ran away into the creek and was gone. The boys got a big stick and they were trying to hit it on the head, but it got away into deep water. After that we crossed the creek and going through the bush we saw buffalos and cattle, but we had nothing to kill them with, so we went on towards the camp. In the evening we arrived at Ngiyngbalmu and the people recognized us when they saw Jimmy Burinyila, because his parents lived there.

J. Miritja

AT THE PRE-SCHOOL OPENING

The Joyce Gilbert Pre-school Centre has been duly opened in the official manner and no doubt you have seen the coverage in the papers. What is passed over by the outside world's media hounds is left for the Mirage's reporters to scoop up.

THE PLAQUE: The erection of the plaque on the wall of the building was one of the

high points - packed with action and drama. Ken Trewin and Bruce Neale stood poised with drills in hand as the DC3 circled overhead (thinks "Will they drop it by parachute?"). The plaque was smuggled from the bowels of the aircraft by courier to the waiting artisans who set to. That's when the power failed! Bert Ryan gave out with a number of exclamations which could have given rise to doubts over the parentage of the power house, in the minds of the uninitiated, set off in his Red Terror with the speed of a 1000 greyhounds. The power was soon restored, Ken could stride out of the Pre-school, ladder under arm, just as the official limousine drove in. Stout work, Ken & Bruce!

THE DANCERS: We were very fortunate to have the Tenancy of Rembarranga men to dance for the Opening. However there was a slight misunderstanding here. It was hurriedly explained to the emu dancers that the official party would inspect the preschool and then the dancing would begin. This was slightly misinterpreted and the dancers immediately set off on a tour of inspection of the preschool. They were eventually re-routed only to find that famous hunter, Dick Smith had left his weapons in the safety of the pine trees some 100 yards distant. However this was eventually put right and Dick even returned with a junior hunter, young Dan, in tow.

MANINGRIDA V.I.P.'S: Bob Bilinyarra came along to sing the song of wurrapun, the emu in place of his elder brother, that grand old man Baku, who is usually the bunguwa. Bob has always been renowned for his love of dogs and on Monday a couple of favourites were with him. Bob has not been well lately and we appreciate his coming along.

MICK MAGANI: He has always been noted for his straight-forward approach and at the Opening he was up to his usual form. During the proceedings he asked to have Mr. Giese pointed out. This being done he strode up to the official table and in no time at all was engaged in parlay with Mr. Giese and Mr. and Mrs. Chaney. At the Late stage, whilst Mick was showing his bark painting along with Harry Mulumbuk, Jack Gapanowie & George Anuruguyra, he wished to have a further conference with the Assistant Administrator. Mick called "Hey, old man, come here!" Mick and Mr. Giese are old acquaintances and usually share a few words on such occasions.

Our thanks to the dancing men, bark painters, shelter makers, kitchen staff, teachers, capital works supervisors and all others who laboured for this auspicious day. D. G.

CEDRIC ON BABY TUCKER

A few days ago Cedric joined the staff of the meals on wheels and decided that he would be the treasurer's assistant. "Ten cents, ten cents, ten cents." He announced to the customers. One innocent and unsuspecting little fellow came up and Cedric declared "That one's got money!" He grabbed hold of the child and began to shake him vigorously until 10c fell out of his pocket. The child's mother then turned upon Cedric with a few rough words. The Meals on Wheels staff decided that it might be better to proceed without the services of their all too willing helper. It is Cedric's 9th birthday on Saturday.

EPISODE - 3, "TWO IN A TREE"

Across the East Alligator to the Border Store the great overland expedition travelled on. The beauty of the Oenpelli country that Sunday afternoon, when painted red and orange by a setting sun was something that had to be experienced to be believed. Ron Berryman was much overtaken and ready to denounce all and become a missionary at Oenpelli there and then. At the Border Store, due to run dry and time that night after a long weekend, there were about twenty Balanders huddled around the little bar, and all giving us the impression they had been there much too long. Your travellers decided that this sinful tavern was not a place to linger in too long, so they purchased a carton "of supplies" (at $9.60, if you please) and set off back towards Oenpelli. There were many aboriginals walking backwards and forwards between Oenpelli and the store.

On the other side of Oenpelli where the road branches into three Ron and Merv on their bikes took the wrong turn, while Jack, half a mile behind in the truck took the right one (of course). A very worried Jack drove on for some 15 miles or so befor suspecting something was amiss. The other half, not realizing their error, rode on for an equal distance in the opposite direction. After a while they stopped and sat down under a tree to wait for Jack to catch up. Then from the pitch darkness of the bush came the unmistakable roaring and snorting and thunder of buffalo hooves. Merv did a ten foot jump up onto a limb (he still doesn't know how, only why) while Ron, a little slower to take his mark, had the misfortune to climb up a tree already occupied by several nests of green ants, now also well aggravated by the disturbances. Meanwhile in the darkness of the night the buffalo (was there only one?) displayed its ill temper without any intention of going to new pastures. To make matters worse the green ants had organized themselves into a well equipped army. Merv told Ron to keep his legs up high, because he had read in a book of how a buffalo licked a man's legs away till there was nothing left. Ron told Merv to shut up. Merv suggested to Ron that he drop a match into the grass so that the fire would scare the beast away. "Yes," said Ron, "and

burn the b...tree down!" By and by, the buffalo became sick of its little game and wandered off. Ron came down, but Merv said he was staying up in the heavens till Jack came along and picked him up. Nevertheless, by this time two realized they must have been on the wrong track, and set back off on their bikes to try and find Jack.

Meanwhile, completely unaware of all the adventure that he was missing Jack set up camp along the track, and drove backwards and forwards looking for his mates. He gave up and returned to the camp. After all they were sure to find him, he calculated, because he had the $ 9.60 box of goodies. Find him they did, but it was so late it didn't matter. The beer was cold, the fire warm, and the tucker filling. The party laughed about their adventures till they fell asleep in the tiny hours of Monday morning.

Next Week (Final) "For a Swim", J. G.

THE EISTEDDFOD

The Maningrida children have done very well at the Eisteddfod. Results we have so far are; Two third prizes in folk song groups, A Silver medal for Ada in the solo dance, A Bronze medal for Kathleen in the solo dance, A silver medal for Jocky and Reggic for their turtle dance, and A second prize for the boys dancing the butterfly (borrnca). From the telegram Bob Stutchbury sent, everyone is very pleased with themselves in at Winnellie. This year the dancing was judged by three Aboriginal men, Ajukawurrdi from Elcho, Danny Ngalpi from Port Keats and Albert Burumega from Western Australia assisted by Ted Evans. Paddy Fordham, Pete Galaluk and the Maningrida children met Albert last year. He is a dignified old man with a great pride in the music of his people. He was very happy to see so many children dancing at the Eisteddfod. Before Albert himself danced last year he had to take his heart tablets.

FROM THE NEWSPAPERS

OPEN DAY: On Kormilda College Day last Sun, all the Aboriginal people in Darwin for the Eisteddfod went along as well as hundreds of balandas from Darwin. The students were showing their work, selling things they had made to make money for their library. D. Gulpalil was on the front page of the paper - teaching a girl how to play the bamboo.

AT THE SYNOD: The Anglican Church had a big meeting in Darwin last week- called a Synod. Aboriginal people missions were there. Mr. Noel Marmarika spoke for them. He worried about three things. First he spoke about land. He said without their land Aboriginal people are strangers in balanda country. He said they wanted land for themselves, their children and their future - they did not want land used for other

things like Groote Eylandt land. Second he said balandas should not just walk in & take pictures in their country. The permit system should stay or his colour will be wiped out. Thirdly he said that Aboriginal marriages by old custom should be O.K. by balanda law.

OLYMPICS: The Games are on in Munich, Germany. They are held every 4 years. Every country in the world sends men/women to see who is the best in many different sports.

JOYCE GILBERT: The papers have been speaking of Joyce Gilbert's retirement. On behalf of the residents of Maningrida we say "Than you" to Joyce for her efforts during her many years work in the N.T. and wish her happiness and health for the future.

LITTLE WOMEN'S LEAGUE - GRAND FINAL Marge N.

The season ended with a "tight" match between Wombats (Capt-Renee) & Blue Wrens (Capt-Joy). Wombats maintained their unblemished record by winning 12 to 8. Most improved players were Jedda, Alice and Phillippa. Best/fairest were Renee, Daisy-belle, Rita. A big thank you to Jimmy & Jacky Pascoe, Morris, Ronnie & Trevor for helping. A special thank you to Andy who ran the whole show by himself. Should be more of it.

WEEKEND STAFF

Duty Officer: Mr. Brolga Beckett Duty Sister: Sr Val Armstrong

Fire Officer: Sat - Mr. Bob Fisher Sun - Mr. Bob Fisher

STAR THEATRE: Titles are not known at time at press, so watch the Co-op blackboard. All going well, there should be movies on both Saturday and Sunday night.

CHURCH NOTICES

Sun: 9.30am Sunday Schools, 7.15pm Holy Communion. Tue: 7.30pm Choir Practice

Albert Namatjira often remembered, spoke about some words Jesus said to the woman at the well, "Whoever drinks the water that I will give him, will never be thirsty again."

PARENTS & FRIENDS ASSOC.

The meeting at the school on Mon night at 7.30pm, all are welcomed. J.G., Sec

LUCKY TO BE ALIVE

Sister Maija was taking a short cut to Tomkinson's Hole on her day off. In front of her was a camp of some kind. Then she recognized a young man there. He had gone to Kunappipi. And so had she! Quickly realizing where she was, she looked to one side and turned back. There is talk of her having to pay a find. All Aboriginal people know where business is being held and women and children keep away. Who is going to tell Balanda people? A noticed on the track? She thought the business was at Guiyun!

CAUGHT IN A NET

Charlie Mulumbuk went to gather the fish from his net on Sun morning, found a huge sawfish in it, drowned. It was brought to Fisheries Beach, measured 16f from tip to tip.

PEOPLE

- We were sorry to hear this week the death of Mr. M. Uibo's father who visited here a few months ago. We express our sympathy to Mick & Dee.
- Miss Jane Little recently arrived to take Miss Davies place in the classroom. She originally comes from Sydney, has only been in the NT for 18 months. She has taught at Roper River (Gavin was there), and at Oenpelli (Mr. Hassall was there). Her interests are varied, but likes to spend most of her time with brush & canvas. We all wish her "Welcome abroad", hope her stay with us is a long & happy one.
- Auditors Mr. Keith Smart and Peter Dawson have been at the Settlement for the past week. When met by the school children in the kitchen, Mr. Dawson (who has a good head of hair) was labelled as Mr. Stutchbury all the same.
- Hooray! The new Gestetner, recently ordered by the P&F has left Adelaide by road transport and is expected to arrive here this coming week. This week's Mirage was printed at Elcho Is. and our grateful thanks to Mrs. Mary Bakerth
- Sarah, the little deaf daughter of Joe Inyamur, in Miss Newman's class, wrote her name for the first time this week. Gwen Burchett who used to teach Sarah earliest in the year will probably be very happy to hear this too.
- Sr Eileen Jones has been here during the past week conducting a leprosy survey.

Vol. 177 Friday, 16th March, 1973

MORE CEREMONIES

Again this last week we have been hearing the sounds of the clapsticks (when the rain would let us). There are two ceremonies going on. One is a young man initiation for one boy. Johnny Mundurrug Mundurrg, one of the great Maningrida singers, is the singer man. Johnny has been singing and men and women have been dancing the story of the Morning Star all week. The Jinang people are also starting a Marradjirri ceremony. This is the same ceremony that the people took to Bamyili early this year.

For at least three years there has never been so much bungul in the Wet Season.

BARGE

On Monday last the *WARRENDER* came in. But the rain was pouring down and the big tides had washed away all the soil from the end of the landing. When some new soil was put on it was very sticky. As well as this the big T.N.T. container was not on a trailer. So it had to be unloaded by hand - piece by piece. At least it brought the stock in the store back to normal - but it was a long night for the wharfies. It also brought the louvres for the hall, beer for the club and Jack Gardiner's 250cc love machine.

SPELLING AND MEETINGS

Yesterday Tuesday afternoon we had a meeting near the new kitchen, before club is open. We talking about our lands. What time all the people moving away to our lands. Because all the Government they saying we gave their our lands to the Aborigines. And some men they talking different way about languages - for teaching next year 1974. Six balandas there at the meeting they were listening to people talking about lands. And we couldn't make it yet right. But Paddy F. he saying right answers, and some people we agree for him. But I like to if news come important from Darwin or any places you will write the easy words so we can people can read story. And we understood your law what saying here and Darwin and anywhere. Because some young men and young women we don't know much to read the story. But next time you people will write the easy words for us please. Same as Government story you wrote last week ago. I can read hard words and long words more than other boys and young women, and I can write the long words. Like these words here; Responsibility, Responsible, Department, Impossible, Government, Parliament, Cinderella, Refineries, Respiration, Operation, Community. I can spelling it these long words and anything else too. G. R. Garawun

LAND RIGHTS !

This week all the people of Maningrida have been talking about lands. On Monday night Daisy and Samuel Wogbara came over from Goulburn Is. and they talked to the meeting. They said that the best thing to do would be for all the tribes to come together and take all Arnhem Land for all ungagulia people. They didn't think it was a good idea to cut all the country up into small pieces. If one tribe found minerals on their land it could be shared with all the people of Arnhem Land. There shouldn't be some poor people. Daisy said that people should hurry up. If this Government goes away the chance will be lost forever. Maningrida people decided that they needed more time to think about these things. It was easy for Goulburn people but Maningrida had many tribes to worry about. On Tue all Maningrida men had a long meeting and there were many different ideas. Some people were speaking for everyone coming together and others were speaking for staying tribe to tribe. Some people still did not understand what the new Government's thinking was. On Wed many people spoke - Ibberara, Munyal, Fordham, Baleiya and Mulumbuk. Silas Roberts made a very good speech explaining in 'pidgin' English what the Government was doing. He thought that coming together was a good idea. He talked about the old days. Then people own their own land but they didn't block each other. Sometimes they had spear business but they fixed it up. It could be the same now. If all the black people came together they would have a loud voice for the Government to listen. This wouldn't stop people from their own business or stop people living in a quiet place like Kopanga if they wanted to. Many other people spoke for forming all tribes together. The President asked for a vote, a big vote went for joining together. The President sends a telegram to Goulburn to say that we are is ready to join in bringing all the tribes of Arnhem Land together to speak.

SPORTS MEETING

On Tuesday night at resource center, if you are interested in sport come along.

RUSTY TAKES TO THE AIR (sans Galion)

Last Wednesday I went to Lalagajirrippa with stores in the sea plane. The flight from Maningrida lasted only 12 minutes but it was long enough to view all the water lying round. Everyone was very excited on the ground as we circled over all the camps to look for a good place to land on the water. Lee (the pilot) brought the plane right into the beach and we unloaded the stores. Big Barney and old Frank were the first to meet

us followed by all the children who were delighted to see the plane bobbing around on the water. Rhys and Frank went up with Lee to take photographs of all the camps. Frank was a bit scared in the plane, however he was a great help to Rhys. Many photographs were taken including a couple of the mouth of the Blyth so we can see where the channels are, in case Tommy Ibberals boat is used for transportation of rations. Shortly after Rhys and Franks returned from taking photographs we took off and circled low and banked high. The last I saw of Lalagajirripa were Rhys and Betty and all the people waving to us as we set our course to Maningrida. Rusty Steele

GORDON SWEENEY SCHOOL NOTES

10 YEARS AGO 20/3/63: Library class presented some difficulty. I arrived a bit late and wanted to take only one group and the others refused to leave. There is a very cliquey group of Milingimbi people who seem to want to take over whatever they are at, so I made a stand against them and my class didn't operate for the evening.

WEEKEND STAFF

DUTY SISTER: Mr. Mark DUTY OFFICER: Mr. Bert (Jet Set) Ryan

CHURCH: Programme as per usual.

MOVIES: WATCH THE NOTICE BOARD. (it's be better than nothing

)

PEOPLE

- Welcome back to Bob Cross, Heather, Phillip and Tanya.
- David Milaybuma, a fine Gunwingu bark painter is staying at Maningrida again. We hope that David will have time to paint a few barks.
- Marg. Neale is coming back from Darwin shortly after a spell in Darwin
- Brolga has gone to Darwin to get knotted.

STORIES FOR LALAGAJIRRIPPA LADIES SCHOOL

- Yesterday we started the school and we saw a boat and we left a net and we went running to Betty Meehan and said to her and she said "I will go there and see what is in the boat." We went back to play and when the moon went down we went to sleep. In the morning I went to get a fish and I give a fish to Cindy and Wilma.

Ernie and I went home and read a story in The Mirage. Betty

- Yesterday we went fishing. Then Isobel got a fish (mulali). Then I said "Let me fish." I did not catch a fish. Then we came home. Elva

CRICKET etc.

Cricket Match at the M.C.G, Sunday commencing 1.30pm sharp. Teams will be picked to the start of the match. Everyone welcome. There will be a BBQ at the Berryman residence after the match at 7pm to raise to pay Bob Cross for the new cricket gear which he so kindly purchased whilst on leave. The equipment cost approximately $ 220 so we have to get the money from somewhere. All that you need to bring along to the turnout are your liquid refreshments. All the rest will be provided. A small fee of $ 1/hand (adults only) will be charged at the BBQ. All invited- not just cricketers.
(P.S. All persons who have not paid their $ 4.00 Cricket dues do so to Ron Berryman as soon as possible as this money has already been spent as mentioned. R. B.)

PUBLIC HOLIDAY

Please note, Monday 7th of May is an official public holiday. It is of course May Day.

FUNCTION AT THE JUNCTION

Gridians party this Saturday at Single Quarters lawns.

FOR SALE DEPT

- 1 bassinette including mattress $8, 1 pram $5, 1 baby bath $ 2.50. Anyone interested see Mrs. D Cuthbert.
- Honda 100cc Scragged - any offers. See Roger Pink (owner going over seas).

Vol. 190 29th June, 1973

WOMEN'S BASKETBALL

"SPECIAL EXAMPLE OF A FOUL": Each week we will put in a comic about a rule to help some of the basketballers. This is one rule we covered last week at our rules meeting. The new enthusiasm for the rules was keenly demonstrated by the umpires. They did a very good job. The players responded well to them. We welcomed a new umpire by the name of Eddy onto the court last Monday night and we hope he will umpire for us again.

LAST MONDAY NIGHT GAME: The first game between Pink and Yellow, Yellow took the lead. The score were Pink 17 and Yellow 25. The highest scorer was Betty W for Pink and Rose for Yellow. Game 2, the Pink team gave the Red Baronesses many worries in this game. At many times both teams were almost level in baskets. However the Red Baronesses were able to fight just a little harder and won by only 4 goals. Final score Red 22 to Pink 14.

NEXT WEEKS DRAW: Game (1), Red plays Pints and Game (2), Red plays Yellow. Umpires are Tin Darcy/Eddy for (1), and Jimmy Pascoe/Jimmy Glulmina for (2). Scorers/Time-keepers are Noel Soutter and Ian Cuthbert. Marg N.

MEN'S BASKETBALL COMPETITION

GAME REPORT: 7.00pm Ngukurr v Chalkies, a first game was tight match between Ngukurr and Chalkies. Also it was excited game. Both teams showed their talent of playing basketball. The score was in the first half match gave Ngukurr 16points of Chalkies 9points. In the second half Chalkies made more baskets in catching up with Ngukurr. A final points equal score 3points. Game 2 was also tight fast game. In the first half Cape Stewart scored 10points in the first half and Pioneers 14 with Lucky scored 8points and Dick Smith 6points. In the second half C. Stewart were catching up with points but Pioneers made 2 more points to give then lead. A final points were Pioneers defeated C/Stewart 32 to 28.

NEXT WEEKS DRAW: Tuesday 3/7/73, Eagles v Garatpu at 7pm and Nakara v Chalkies at 8pm. Thursday 5/7/73, Mgukurr v C. Stewart at 7pm and Pioneers v Caterpillar at 8pm.

"AROUND THE MISSIONS & SETTLEMENTS"(Jack story continued from last week)

A young Dua girl had died: Just before we arrived at that place, a young Dua girl had died and her body was kept by two related tribe the Walamanqu and the Kulalay. When they saw us coming from the eastern wind blow(djimuru) and going toward the north(lunguruma) and then heading towards the west(bara). They also gathered in a group(malla) and had their wooden spears(djarak) ready to attack us. A few of their men went down to the beach(monatja) to meet some people of their group, while the rest were stayed behind at the Campline. Because of the different languages(yan) that they had to talk with signs to understand each other. They told them what people they were and that they came from Mission at Milingimbi. Specially my people of inland at Gadji Creek and that we were looking for a narrow river crossing were we could swim easily. Unfortunately the people told us that this was their country known Miditjirrk Warnbarr and that this means all the rivers were dreaming rivers. They told they would give us some food(wali) and fish(guyi) and a couple of people led us up to the beach campfire.

HOSPITAL NEWS

- To Darwin to visit the dentist: Nancy Namirnging with small son Jack Doolan. Mary Wilmarga, husband Billy Yirriyan also went in to visit the eye specialist.
- From Darwin: Danny, sporting new special boots. Foster mother is Mary Miramvumbal. Terry with mother Daisy Madjundanga Minnie Yumbidji and Jill Bangamara with Baby Davidson.
- To Darwin Hospital: Last week Basil Anagunumuka was flown in for investigation. Ralph with mother Daisy England Nararabanja went in on Sunday. Robert Bruce Mother Nancy Namvinging on Tuesday. Toole returned home last week. His hand is healing up very nicely.

MYTHS & LEGENDS OF THE WOODLAND FOLK – "The Return of the black sheep"

"Come on Fred you bludging bastard. Get in the car I want to be there when he arrives." "All right. All right. Move over you're thinner than me." "Jees you don't want all the room and I want $12 for half the petrol." "You must be the most tight fisted bastard in Australia Blue." "If you had a car to pay for you would be too. I tell you if you cut smoking and boozing, you could buy you bloody own." "Oh come on lets go."

"Speed up a bit." "She used up too much petrol when I go fast." "Jees we don't want to miss Benny." "Oh all right."

"Here Blue, what time will he be there? Do you reckon Benny will wait for us?" "Course he will. Where else would he go. We're his mates ain't we?" "Year" "Look Fred,

we went all through the war together Benny and me, Right? Set up that bloody sawmill together. Right?" "Yeah, but he ran off with all the money." "Year, but Mates, Fred Mates." "Jees ...Do you reckon two years in the nick will have thinned him down a bit more?" "Nah. Always been the same size as me. Always was. Always will be."

They drew into the tiny bush township. Outside the pub stood the mail truck with Benny leading on it. They brakes gently to a halt and walked over. "Hello Benny" "Hello Blue mate, how are you." And Bluey knocked his front teeth out. R. F.

GOODON SWEENEY SCHOOL

IS IT A SCHOOL OF FISH?: One young boy was heard saying to the teacher that he was pleased about going to the Navy Landing School to catch a BIG BARAMUNDI!

QUOTE OF THE WEEK: Written on the blackboard by an anonymous grade 5 student: "Don't sniff petrol. It will kill you dead forever." You can't argue with feats like that.

CHILDREN'S CORNER, "FISH NET":

- This morning all the people and children saw a fish net. It was great big fish net and everybody saw it. Some men and woman were pretending to be fishing man. It was very good. There was a lot of talking and action for the fish net. There will send the fish net to Candra. Tim Mugarbi
- Today at the assembly we saw interesting things. That fish net was made from Johnny Mundrug-Mundrug. It was made on Easter time. That net will go to Canberra. Its call djingaraga in Burada. It was long and big. After that, Harry Mulumbuk told us a story about the fish net. Evan Maragumba

"CRACK RAIN-MAKER DO IT AGAIN" Rhys Jones

Today (24/6/73) at the Lalargadjiripa Council Meeting Big Barney Geridawanga condemned the continued rainmaking activities of Joe Mungolida, Jackie Baryalanga, Darky Balangamba and Jack Kopanobui. He pointed out the Balandas had "djura" (paper) which sets out the correct times for the rainy and dry seasons. "The time for the rain has finished" he said. Whatever the reasons, it has certainly been a spectacular virtousa performance, smashing all records. Good going, lads but as Barney said, "enough is enough, kaopeia." The meeting was followed by a heavy thunderstorm and J. Hunter was heard to mutter a few words which your correspondent did not catch.

WOODLAND RAMBLES

- The dynamic and ever expanding F.F. WL & NP DEPT. has now added "Environment" to its empire. The public would greatly assist by leaving it alone.
- Woodchuck movement has been seriously affected by the recent wet weather and the N.T.A. Store's tailor has utilized the time to take fittings for the new departmental uniform.
- Radio Message of the week: The Timberjack driver has lost his dipstick. (from Snake Bay)
- Movement has been observed at the sawmill this week, but the Mill Manager disclaims all responsibility.
- Owing to the recent rains the grass in the Maningrida/Cadell area is as green as a graduate and may well delay the departments fire bombing programme.
- This weeks conversation piece: Who is the owner of the graceful yacht moored at Fisheries beach?
- Rainfall for June (so far) is 406points, and 4428points since January 1st. Please note the Met. Observer is no longer responsible for what sort of weather we get.
- WEEK'S MOTTO: It is better to labour lightly than let conscience soil ones pay"

FOR THE MIRAGE – KIDS WORKS FOR DARWIN SPORTS MEET

- Wednesday 27th June, 1973. Yesterday we went there at assembly we showed short and skirt it was pretty and the boys were standing they at assembly we were happy. We are going this Friday to play sport at Darwin. We are going to win Basketball and the other one is softball we are going to win two game at Darwin. Nora
- On Friday 10 girls are going to Darwin. We will play basketball and softball. On Thursday 10 boys are going to Darwin. They and we went to show the boys and girls. And we went back to school. We will live in Kormilda College. We will have a good time in Darwin. Doreen
- On Friday 10 girls are going for spent at Darwin and we will live at Kormilda College. Tomorrow boys are going to Darwin sport. We are going there for softball and basketball and Milingimbi going and boys will be there. Helen Malwurija
- This Friday we are going at Darwin to play softball. Yesterday we were assembly at school and we were chill if went we go to Kormilda College and don't cry and sad. On Friday we will say for you good by. Don't cry you did not cry be for. Say good by for us. We to happy flying into Darwin Kormilda College. Daphne
- Yesterday we all wear uniform at assembly. We are going for athletic for sport at

Darwin. Maningrida and Milimbimbi and Kormilda College. We are having a good time for basketball and softball and the boy are playing basketball. 10 boys and 11 girls are going. Boys are going Thursday and girls are going Friday. Daisy bell

- On Thursday 10 boys are going to Darwin for a Athletic in Darwin. And on Friday 10 girls are going to Darwin sport to play with country. And we will stay at Kormilda College. And we coming back on 10th July. Monday Gudjamin
- 27th June, 1973. Tomorrow 10 boys are going to Darwin. Then on Friday 10 girls are going. We are going there for sport. We are going to stay for 10 days. We are staying at Kormilda College. We are coming back on 10th of July. Yesterday the girls who are going to Darwin put on their basketball skirt and shirt. Margaret form Post Primary, Mr. Pink and Miss Pascoe are taking us.

  Renee Junmulumburr
- On this Friday we living Maningrida. We are going in Darwin for play softball and basketball. We are going to wear red skirt and purple shirt. They are 10 boys and 10 girls going in Darwin. Boys are going to play football and basketball too. They are going to wear black, blue and red shirt. And they are going to wear black trousers. Tomorrow boys are going first in Darwin. And girls going after. I hope we will win basketball and softball. And I hope boys going to win football and basketball too. Joy Mason
- On Friday we are going to Darwin for a sport and the Darwin primary school will play too with and I all the Maningrida children will play against with and Milingimbi and we will stay at Kormilda Then we will come back on Thursday and all our Parents will be so happy. Rita Toberts

THE MIRAGE COMMITTEE WISH ALL THE COMPETITORS ALL THE SUCCESS IN DARWIN.

FROM THE ARCHIVES!!!!!!

We have at last obtained from the National Archives and extract from the diary that we reported some months to have been found in the Forestry office at Maningrida. We are still seeking anyone who can tell us how the diary came to be in the office. Unfortunately the extract are not in chronological order and we are still waiting to find out whose diary it was. We have been promised extract as soon as they are available. Therefore, we have decided to publish them as soon as we receive them.

Extract: January 11th 1759 A.D., "My faithful servant Jerimiah Mullet did expire this day of what I perceive to be Gripe of the Gut, and I did bury him with many a tear in this strange and lonely land. Strange are the ways of the Lord, for his boots fitteth me."

DARWIN FOOD & GROCERIES HIGHEST.

Food and groceries cost significantly more in Darwin than elsewhere in Australia. The next two most expensive capital cities are Brisbane and Canberra. These facts are revealed by data published by the Commonwealth Bureau of Census and Statistics on average retail prices charged for 15 food and grocery items and 14 meat varieties in December 1970, 1971 and 1972.

Tables produced by the Bureau show that in December 1972 the average retail price of the 10 selected grocery items was from 28.1 to 49.3 % higher in Darwin, while the cost of the five dairy product items was from 13.1 to 23.9% higher than in other capital cities.

The price difference of the 14 meat varieties were considerably smaller. In two capital cities, Canberra and Brisbane, the retail meat prices were higher than in Darwin. The total average cost of all items in Darwin was 9.6% higher than in Canberra, 15.5% than in Sydney, 13.7% than in Melbourne, 9.5% than in Brisbane, 15.5% than in Adelaide, 13.5% than in Perth, and 11.7% than in Hobart. Between December 1970 and 1972, the retail prices rose faster in Darwin than in all the other capital cities with the exception of Brisbane. The Bureau suggests than the cost differences between Darwin and the other capital cities would be attributed to freight charges incurred in taking the food to Darwin and storage costs higher than usual because of the climate conditions. There could also be other local factors affecting prices.

INS & OUTS, WELCOMES & GOODBYES

- We forgot, last week to welcome the new M.P.A. Assistant Manager and his wife and family. Welcome Mr. & Mrs. Henderson.
- We also forgot to welcome the new Y.M.C.A. and Y.W.? Recreations Officers of the town. All the best Peter and Lee Pinder! We hope that you and Ray Nulla will do big and good things to the youth of this town.
- Russell Anderson came in on Tuesday to have a look at the Mill. Geoff Green also came in on Tuesday to look at the Mill.
- The inevitable Mr. Hoppy came in on Tuesday and left on Thursday. He was here to keep an eye on the Rogue McMahon.
- Mr. John Britton came in on Wednesday to have a look at the school and the efficient staff. He is the new Inspector of Schools.
- John Carpenter and Prof. Messell came in on Wednesday after a long and boggy drive. They flew into Darwin on Wednesday and back on Thursday. Prof. Messell is going around putting little radios into crocodiles.

JACK'S STORY

This article is the Mirage of my life time stories. I have seen and had happening to me in the beginning of bad and good people. Some of these troubles are the initiation of young men ceremonies of dancing animals. I still tell some with my personal experience of travelling around the Arnhemland. But why some Aboriginal says that European men and women they should go away from that country? I hope that maybe the way of sharing some people pleasures and interesting things.

Why have I desire you from this way? This is for not pushing you to do the hard work for me, but do my life under in mind change. I mean of my idea is to be think a different new ways. In what memory is to be change of the past same thought? Particularly to those who always hate each other for women and not for job doing or count how much number of money. They jealous over everything like ceremonies, country, dead body blaming murder etc. It seemed all these things to me is I am a very poor and finally for myself of a man bird watcher called Jack Mirritji. Thank the way I live because the way I brought up with my parents and family. It is hurting people saying this story and as much as I get hurting too. This is not good story, but this is only for those who working for me and he may be able to sort out of these stories. Because I can't give to him any thing for his help I need from it. I can only all tell story through me and do the writing or printing with a picture in it.

This story is my writing and thinking or pleasure you. I came to my parents, that they passed away and never come back for many years, so I can't teach nobody and I had to teach you and you teach me. Jack Mirritji

WOODLAND JOTTINGS – "ANNOUNCEMENT"

The winner of the Forestry Literary Circle's Limerick competition was V. Prince. The judges decision is final. The judges also considered that the winning entry was too good for anything less than national publication.

TRIP AROUND THE SETTLEMENT

During the Christmas Holiday I've went to Millingimbi and stay with my sister and brother in law. I've only stayed there for three weeks and I went to Elcho Is. I've stopped there for 4 weeks. When I was there I went looking for my job. And I did found, I was working in the store. When fortnight came I didn't feel happy about my wages. So I decide to booked my seat. I didn't go work on Monday because I was leaving Elcho Is on Tuesday. When Tuesday came, I've left Elcho and filed to Darwin. I've stopped there for couple of weeks and worked there as a Plumper. After awhile I didn't feel like

staying there, so I decided to go to Taleen Valley. Its in the middle of the Elcho and Gove. Its only little Settlement. I've stayed there for 1 weeks. I didn't like staying there because there lots of snakes during the night. I've left Taken Valley on Thursday and went back to Darwin. Here more news next weeks! By Big Guboe Dudley

MANINGRIDA HOUSING ASSOC.

- Mr. Ben McKillion arrived last Thursday. Ben has only been in the Territory a few months prior to this he spent a few years in Western Australia. He has commenced building 5 more Timber framed Fibro Houses; these are the last timber homes we will build for the aborigines. All houses from now will be in brick on the concrete slab.
- The Brickmakers have stockpiled approx. 25, 000 bricks, enough for 1&1/5 houses, so many more have to be made. With our loader in operation again, road gravel has been carted for the town roads this will be completed by the weekend.
- Aboriginal workers wanted, good workers only need apply! Permanent men, no fly-by-nighters wanted. Big money for right men! R. Seymour

HOME TIME EARLY

Every time school children they always went home early. Every milk time and lunch time. Last week are two P.P girls they went home milk time. This week two girls they were want home again from the gradessix and P.P. and maybe they were smoking there at home. Every time they always went home. Without no asking to the Teachers or Teaching Assistants. Last week two P.P. girls they went to the home without asking to the Teachers of Teaching Assistants. Why not all the kids went home early no answers and no asking to the Teachers and Teaching Assistants. All you Teachers you have to tell your school children stop going away to home early time please. I'm not headmaster but I knows all about school rules, because I have been here Teaching Assistant many years. You have to work it out these rules please. Because I know school children they always smoking every milk time and lunch time at the bath room and toilets room. And also during the school the school children they always smoking too. At the bath room and toilet room. By Mr. G. Ricard Garawun

SPORT - "TO SPORTMEN, SPORTWOMEN & PEOPLE"

Since I took whistle for 3 years for refereeing, most of you or rather some of you people have had disagreed me about refereeing. I'm not expert enough but I'm trying my best

as I can. Because you realise there are few players rushing for the ball and therefore it's referees fault and sometimes he makes mistakes of the defensive and offensive play, and players and outsiders may stand against him. If you experts of any major games, you are the only one to show us how to play and how to become and expert. I had enough of being referee and I rather be a player but you who are the experts can show us your talents and experiences because you know most of the rules. You people don't know me yet, but perhaps you will find out soon because I had enough of an argument from the players and if one of you will consults me again, I will show you my only experience what I learnt from an experience man in Darwin Police Club –The deadly secret method of Karate & Aikido. If you are an expert of games and rules, we all know how it is and in what way it should be use according to the situational rules concern. Please advice this article and remember it every time. So beware if you people consults me again, you will be ending up in the hospital for a month or so.

Master of M.O.C.K., Jimmy Pascoe

FOR SALE

Winchester, 32 Carbine 8 shot Repeater - price $40 & Archery Set(Laminated Bow, Arrows, Quiver, Finger Stall, and Arm Guard) - $40. Apply Bob Fisher, Forestry Dept.

CHURCH NOTICE

STANDING: 9.45am Sunday School, 7.15pm Church Service

TUESDAY: 5.30pm Prayer Meeting, 7.30pm Church Fellowship (Adults at Sister Maija's and Children at the Church)

GRIDIANS

All ladies are invited to an informal gathering at the Parsonage on Wednesday night at 7.30pm 4th July. Come along and enjoy yourself. Don't miss this interesting night. You might be able to hear Lee Pinders voice or her guitar. Vika Latu

STAR THEATRE

Fri: New Serial, "SON OF GERONIMO" & Main Film, "SKI PARTY ROADSHOW"

Sat: "INCIDENT" & cartoon

NOTICE : THURSDAY NIGHT LIBRARY BORROWERS!!

Would all grownups with library books still not returned please get them in as soon as they can so as we can get a new lot of books from Darwin. Anyone able to return these books please do so: "The Green Hill" and "The Red Badge of Courage"

DID YOU KNOW THAT BIG "AL" SINGS LIKE A FLAT BATTERY!!!!!?

MANINGRIDA TOWN HALL OPENNING CEREMONIES

Friday 29th June 2pm: Opening Ceremonies

1. Opening Remarks - Silas Roberts
2. Musical Number - Y-Singers
3. Inaugural Speech - Mr. Harry Giese
4. Aboriginal Dance Exhibit
5. Aboriginal Art Exhibit - D. Gillespie Organiser
6. European Art Exhibit - Bruce and Margaret Neale (organisers)

SATURDAY 30th June: Athletics and children's games by M.B.A./YMCA (organisers)

9am/12.00 Organised activities (Town Hall)

1/5pm Basketball Exhibitions (Seagulls Falcons v Albatrosses, Scorpions Flamingos v Black Hawks, Eagles v Ostriches at old court)

5/6pm Volleyball Exhibition - Mr. G. Inglis

8pm - CONCERT, Roper River Rock Band

Vol. 3, Issue 40(Vol. 241) 23rd August, 1974

AN APOLOGY

Last week during our absence in Darwin, the Mirage carried two stories on the back page under the headings "Shoot up – are licences for beer & guns worth it" and "Culture breakdown". We apologies to our readers in general for the misrepresentations and halt truths contained in the articles. In particular we apologies to the Aboriginal people of Maningrida and its outstations for the degrading insults heaped upon them in both articles. We feel that a critical examination of both articles is called for.

ARTICLE No.1 SHOOT UP: The writers statement that licences (presumably for guns) are "so easy to get out here" would seem to be a reflection on the manner in which the officers of the N.T. Police Force discharge their duties. To the best of our knowledge the Firearms Ordinance is policed at Maningrida in the same manner as it is policed elsewhere in the N.T. The significance of the writer's statement that "spears have to be made manually first" completely escapes us. The writer then goes on to say that "a few drunks" used guns" quite freely" in one of the outstations and that they fired on vehicles. The Police at Maningrida say that they have had no reports of illegal use of firearms at any of the outstations. If the correspondent has any such information we suggest that it be communicated as a matter of urgency to the O.I.C., Maningrida Police Station. The writer may also care to enlighten us as to how it was deduced that the people were drunk and that there was a possibility that people would "come under fire".

- OUR REPORT: Last week there was a disagreement amongst some people at Kotjandjindjerra. During the dispute a vehicle was damaged with an axe and some of its wheel nuts were thrown away. During the dispute one man went to get a gun but it was taken from him. As far as we are able to ascertain the dispute was a private matter concerning the residents and no complaints were said with the police or any other official body. The community has now settled the dispute.

ARTICLE NO2 CULTURE BREADOWN: We find the title of this article particularly distasteful. We suggest that the writer knows precious little of the carious cultures at Maningrida and that a ridiculously distorted picture of what occurred has been presented. The facts of the matter as we understand them are as follows. a) A man from Kotjandjindjerra who suffers from what might be called periodic bouts of depression had been under some stress to do with family matters. b) He decided to return to his

country to die. That, dear writer, is an affirmation of the strength of the culture. c) The man went off into the bush and did in fact become lost. d) Various Aboriginal, in company with Vainga Vaikoso (who for the writer's information identifies with the Tongan culture and does not regard himself as a European) set off to look for the man. e) Mr. Vaikoso and a group of Aboriginal people eventually found the man and brought him to safety. We think it is worthy of mention that there was some disagreement between Mr. Vaikoso and the Aboriginal members of the party as to the route to follow during the search, and that the party itself was eventually in dire need of water. f) As far as we know the man was not drunk.

We would suggest that the writer takes steps to become acquainted with the law as it relates to libel, invasion of privacy and defamation. Finally we wish to add a special apology to the people of Kotjandjindjerra for subjecting their personal affairs to public scrutiny under such unfortunate circumstances. D. Gillespie, P. Cooke (co-editors)

A MINI EDITORIAL ON THE ANCIENT PASTIME OF RUMOURING

"Now when the rumour, come to your town It grows and grows,
Where it started no-one knows" Jaime R. Robertson

Maningrida is not a town ... it's an institution and rumour mongering is part of an institutions life style. We can't stop rumours but I would suggest that before anyone repeats the next price of juicy sensationalism they hear, they might ask one or two questions about it. There is currently an insatiable appetite for the half-baked, second-hand half truth.

LETTERS TO THE EDITOR

The Editor, Maningrida Mirage

Dear Sir,

Two articles in last week's Mirage have given me the opportunity to make my first contribution to this paper. However I am afraid to say that this letter has to be very critical to say the least. The first article was signed by G. Pascoe and the second unsigned but the tone and style seem to indicate the same writer. While this person is unknown to me, I would suggest that you scrape him or her from your editorial staff as this type of article can only do untold harm to the credibility of your paper. Would you please check these two articles and correct them in your next issue. To the writer of this article I have to say "Watch it!" As Community Advisor I cannot allow deliberate misinterpretations of the truth to be published. Your sincerely, John Wilders

FROM CO-EDITORS: Ms. Pascoe claims authorship of both articles. We refer Mr.

Wilders to our apology on Page 1 of this issue.

FROM G. PASCOE: Dear Mr. Wilders, Why did you not say this to me the other day when you saw me, instead of leaving it to me read it in the paper?

M.P.A. NEWS

This week we introduce to our readers the new General Manager of the M.P.A. Mr. Peter O'Conner. He was the Supterintendent of Goulburn Island for 6 1/2 years and many Maningrida people already know him. Peter is currently learning the ropes from Glen Bagshaw the retiring Manager. Peter will take over the reins on 1st of Sept & Glen will work with him in an advisory capacity for a month. The new Hasty Tasty is nearing completion. We may see it in action some time in Sept-materials permitting.

D. G.

SCHOOL NEWS

- School holidays start today, will start again on the 9thof September. The Dhupuma College students arrived home yesterday. They will be returning on 7/9/74.
- Ms. K. Glasgow will be holding Burada classes at Maningrida from the 2/9/74 to the 27/9/74. Watch out for more details.

BANK NOTICE !

Closed on Tuesday next during a visit by the Commonwealth Banks liaison officer.

FOR SALE: VW COUNTRY BUGGY AS IS WHERE IS. SEE DAN GILLESPIE.

WEEKEND DUTY SISTER: Sr. Lace

CHURCH NOTICES: Church activities will be the same as usual.

NEW TOYOTA STAMPEDE

New Toyota are pouring into the Settlement. Last week the Arts and Crafts, Gunavidji and Gunardba Toyotas arrived. Just before them three new Forestry vehicles had come in via the Bulman. We also hear that Housing is bringing in a new Toyota too ...in fact it should be in when we go to press.

BUNGGUL SOON

The Council is sending out invitations to all the saltwater communities to come to the Maningrida bunnggul on the 14/15th of September. There will be about 250 dancers from 15 communities. They will be coming from as far a field as Port Keats & Numbulwar. It will be financed by the Aboriginal Theatre Foundation, Darwin. D. G.

PICTURES

IN DEFENSE OF MYSELF

My two stories were first-handed from people who live at the said place, on the day after it happened. I prefer to leave my stories uncorrected. I feel no apology is needed to the Aboriginal people as I did not intend insult and fail to see how I did. I expressed my sympathies with them because the alcohol given to them is beginning to ruin them and their ability to live as capably and happily as in the past. However, I would like to offer highest commendations from myself and on behalf of the majority of the community to Vainga Vaikoso and the group of aboriginal people who were with him. They deserve sincere thanks for risking their lives, to find the lost man just before he lost his life.

Now, I refer to M.M. Volume 223, 8th February, 1974. See the Mirage "as a medium for expressing views of the people of Maningrida, and for keeping the people in touch with what was happening in our ever-changing community - Signed Dan Gillespie". Vol. 224, 15/2/74, "The meeting talked about some of the things that has happened in the old days when the Government in Canberra and Darwin had tried to stop the Mirage from talking about things in Maningrida. We give warning now that the Government or else will not stop the Mirage from saying what it has to say. The Mirage is for everyone at Maningrida. If any person, or group or organization has anything to say to the community, say it in the Mirage - Signed Dan Gillespie". "Our Liberty depends on the Freedom of the Press. Any interference with this destroys Liberty – Jefferson, U.S.A. President".

As the Mirage is no longer a "Free Paper", I hereby resign and leave it up to the men who control it all. Gladys-Anne Pascoe, Co-editor, printer & distributor

Gladys-Anne Pascoe(signed), 23rd August, 1974

Vol. 3, Issue 44(Vol. 245) Friday, 4th October, 1974

PALM ISLAND

The Mirage has received some copies of "Smoke Signal" the newspaper of the Aboriginal people who live at Palm Island in Queensland. Some of the stories they have to tell are disgusting. It seems that black people who live in such settlements in the state of Queensland are fighting just to stay alive. Some of the things the Queensland Government to do the people are hardly believable. If anyone would like o read these papers they could see me. The Mirage also received with the papers the following notice.

A serious situation has arisen on Palm Island following the dismissal of the Palm Council without the approval or consultation of the Aboriginal people. We urgently ask you, therefore, to write to Senator Cavenagh expressing your concern and asking for the direct intervention of the Australian Government. What follows is suggested draft for the letter: "It has come to my attention, as reported in the Australian (August 29), that the Palm Island Aboriginal Council was dismissed by the Queensland Government on August 28. The Government purposed to act under Regulation 41 of the Queensland Aboriginal Act. The dismissal took place after a petition was received by the Queensland Minister for Aboriginal Affairs, Mr. Hewitt. On Sunday in the late news, Senator Keefe stated that some names on the petition were forged and the Queensland Premier, Mr. Bjelke-Petersen admitted this to be true. Surely such a petition is invalid. We, therefore, urge the Australian Government to investigate the dismissal of the Council on Palm Island and to take over the administration of the island under the powers conferred on the Federal Government by the Referendum of 1967." D. Gillespie

MHA RAP - NOTICE

The Maningrida Housing Association was not responsible for the destruction of trees in the Gunavidji area, apparently there is a rumour circulating that the Housing Association was responsible. This is not correct and if any rumours continue the persons responsible had better "watch it" (sic) a further action may be taken.

The Housing Association staff have and are always very conservated (sic) towards natural vegetation. To prove this have a look at our workshop, single quarters area and Cadell. Only the very necessary trees have been destroyed. No one can shed the responsibility on us for the destruction of the trees in the new town area because when the Housing Association commenced building in this area in March 1971 the total area

was dozed ready for building. Suckers are reappearing on some building blocks row. The Housing Association has budgeted for a landscaping programme, some of this work will be carried out before the wet (planting of trees and grass). Any new suburbs in any town looks dead until the landscaping is carried out and this all takes time, plus the fact that our water supply is insufficient at the present time. As to the mining of sand deposit, the association has always negotiated (sic) with the people from the particular areas prior to extracting deposits. Our plant operators have always taken care not to damage much surrounding vegetation, and tidy the area when sufficient deposits taken.

The Association held its General Meeting on Monday 30th September, Mr. Silas Roberts resigned as President and the association wishes to thank him for the work he has done for the association over the past years. In his report he stated how the association had grown, big number of houses built for his people and hoped the association would continue its good role at Maningrida. Finally he thanked the Consultants "Gutteridge Haskins and Davey", the Accountants "Peat Marwick and Mitchell", and Rod Seymour for the good work they had done over the past 15 months (New President - Tommy Yibberal, V. President - Billy Yiriyin, Secretary - Ray Nulla, Treasurer - Jack Riala). Gutteridge Haskins and Davey were reappointed as consultants for another 12 months. Peat Marwick and Michell were reappointed as accountants. Both parties were selected unanimously thus proving they are carrying out a good job for the association.

Denis Breed and Denis Bewsher from Gutteridge Haskins and Davey made a visit to Maningrida on Monday to survey the water problem. G.H.DE. have been commissioned by the Works Dept. to propose the upgrading of the water supply-during their stay. They took the opportunity to fly the Maningrida/Cadell route, so maybe well be drawing water from the Cadell in future. Rod Seymour

VOTING ! VOTING ! VOTING !

On Oct 19th will be voting for the new government in Darwin. Make sure you come along and vote, your voting area is Arnhem. Voting will be in the Home Management. Come along and make your vote.

VOTE FOR ME !

Here is a story from Betty Pearce. She belongs to the labour Party and she is asking for your vote. If we get stories from other people asking for your vote we will print them

too.

ELIZABETH PEARCE, ALP candidate for ARNHEM in the NT Legislative Assembly:

These are my reasons I want all to vote for me. I am a proper blood relation to Silas Roberts therefore being Aboriginal I know and understand the problems of our people.

I am not a yes blackfeller. I will never be a yes blackfeller. I will always be called a cheeky blackfeller by white people because I always ask "why does the white man like this cheeky talk. That same white man wouldn't call it cheeky talk if another white man was answering him back. I have already been called cheeky blackfeller many times. Other white people ask why do I admit I am an Aboriginal. These white people have the cheek to say to me "You can call yourself white and no-one will know the difference". This kind of tales makes me angry because I would know and my relations would know I was not being true to myself and to my people if I said I was white.

Who wants to be a white man any way? Just look at the whole world and see how much damage white people are doing to each other. Then look at our own people and see how much damage the white man has done to us and is still doing to us. Many white people like to be boss and because they are not good enough to be boss over other white people they pick on Aboriginal to be boss over. Just look around you and use some of the good plain blackfeller commonsense that our grandparents passed on to us and you will see what I mean. Maningrida is a beautiful place but too many white people are damaging this country. It is about time our people stood up and said what they want to say and not just say yes to anything white people say to us. I am married to a white man so I can't say all white men are no good, many are good people.

The white man who tells black people he is here to help them is the one you must look at and say "why do you want to help us? Are you going to get more out of us than we are going to get out of you? Will it be equal helping?" Question number three is the best one.

Now onto education white man style. To compete with white men our people must have the same education as white people. Education makes people think for themselves and it is about time our people started to think for themselves. DON'T LET THE WHITE MAN THINK FOR YOU!! There should be education of drinking liquor. While you mob are drunk and fighting the whiteman is sober, stealing your land, your pride everything, so that you have noting left but sorrow for what you have lost. Think for yourselves and you can begin help rebuild Aboriginal Culture before it is too late.

THINK FOR YOURSELVES! Are you getting anything good from all this building that is going on? Good for who? Good image for your white man boss? Good houses? Are you sure they are good houses? If they were built in Darwin would white people live in them? Some white people are going to talk against me for writing all this. It is about

time our people started to think for themselves. DON'T FORGET TO THINK FOR YOURSELVES ON VOTING DAY. VOTE FOR ELIZABETH (BETTY) PEARCE.

MONSTER WAKES UP AGAIN !!! Patricia A. Meissner

Does Maningrida have its own monster? This question was asked by the N.T. NEWS 6/6/72. A story reported by two fishermen followed. The Mirage for 23/8/72 printed a story about this giant sea creature when it was seen by Maningrida residents in the bay near Gungerama Creek. The school museum has one photograph taken of it as it passed the old jetty. The school would like the older people to write some stories about this monster and tell us what it means to all the Maningrida people. All stories will be displayed in the school museum for the children and people to read.

SAD STORY

Many are sorry for the death of the son of Peter Ganalara & Mabel who drowned in the billabong at Godjandjindjirra last Sat. The boy was buried in his country on Monday.

KEYS

Fund in the DAA toilet at the back of the DAA store, one set of Toyota keys plus some small keys (maybe for a suitcase) all in a leather case. See Dan Gillespie.

A PATROLING ASSISTSNT IN TRAINING

When I was a patrol officers guide in Darwin I was a very good watcher and doing a very nice job. I used to look for some returning boomerangs, it may come back towards against me. I always bringing many tribes very carefully to missions and the settlements where all the bush children could go to school to learn to read and write.

Before I did not know what the job was or much about the Europeans way. But the native patrol officer was asking me for many people's names original skin groups promised clan marriages and mother tongue speaking. Still, I did not understand him only working for my money. Because we have our own way of knowing, our relations with moieties totems animal stories waters and plants. But the white patrol officer taught me to wear clothes and told me to understand him and started to teach me (the new breed) how to read and write. Afterwards I became a patrol assistant in training and was driving Commonwealth vehicles taking Aboriginal welfare to hospitals to court and gathering them to this station and that town.

Today I know that white men have capacity in Australia and I understand this

blackmen have almost ancient land in Arnhem Land. I used to be travelled arounde and carried a child endowments or took the old widow and gave the age pensions. In these places see for examples the under mentioned new reserves.

KATHERINE		DELISSABILLE
RUM JUNGLE	MANINGRIDA	MUDGINBERRY
ADELAIDE RIVER		MAINORU
PINE CREEK		DAILY RIVER
TIMBER CREEK		LIVERPOOL
MARANBOY		BLYTH RIVER
BANBAN		MURRY RIVER
MANBANDI		MADARINKA
ANABARU		BAGOT
ELCHO ISLAND		BESWICK

I did my course in Beswik (now called Bamyili). My trainees was Mr. Morris from the Welfare Branch and them worked at Darwin. My job was to take a languages by writing Birrinkin, Malakmalak, Larrakia, Mayili, Nalakbun, Dangbun, Djawun, Wagaman, Dealabun, Djingili, Mangarai and so on. After, my first trip to Sydney for exhibition Darwin stories and shown about stories from the Northern Territory. I went with Don White from Daly River Mission a Malakmalak tribe. Jerrmy Long came with us as our guide. There in Sydney we meet two African and their employer. In two weeks we return to own home. from Jack Mirrigji

JOTTINGS

- We bid farewell to Glen and Jean Bagshaw who leave shortly after 5 years of service with the MPA. In that time the MPA has grown from a staggering Co-op shop (it used to be in the old white tin shed, now a DAA store) to a shriving business under Glen's management and Jean's soldiering over the bookwork.
- The outstation schools are thriving. Goldjandjinadjerra, Momega, Madagalidban all have bush schools with balanda teachers working with Aboriginal teachers. After a meeting this week the school at Kopanga will be getting back into full swing in a fine building made of paperbark sheets on a timber frame by the Burera people.

先住民社会文化のダイナミズムとオーストラリア行政の歴史に関する文化人類学的研究　－ノーザンテリトリを中心として－

Study on Aboriginal Society and Australian Administrationin terms of history and cultural anthropology

（課題番号　国11691052）

平成 11～12 年度　科学研究費補助金（基盤研究A(2)）
研究成果報告書

平成 14 年3 月発行

編者　　久保　正敏（研究代表者）

所属機関　国立民族学博物館
〒565-8511　吹田市千里万博公園 10-1
Tel: 06-6876-2151（代表）